

翻刻『論語義疏』(大槻本) ―八佾篇・里仁篇・公冶長篇―

影山輝國

玉 鴿

相原健右

下村泰三

はじめに

今回は、学而篇・為政篇(『年報』第二十九号 平成二十二年三月)に引き続き、八佾・里仁・公冶長三篇の翻刻を掲載発表する。

平成十八年四月十四日に誕生した『論語義疏』研究会も百になんなんとする開催回数を数えるに至った。毎回、担当者(原稿を作成し来て、研究会の出席者がそれを討議するやり方で)講読を進めている。今回も、全員で原稿を検討したけれども、最終的には、それぞれの篇を担当した三君の責任でまとめられたものである。

八佾篇は、実践女子大学大学院文学研究科国文学専攻博

士後期課程を満期退学し、今は実践女子大学情報センターに勤務されている玉鴿さんが担当し、里仁篇は、八王子実践高等学校教諭の相原健右君が担当し、公冶長篇は、二松学舎大学大学院文学研究科中国学専攻博士後期課程の下村泰三君が担当した。

凡例

一、本訓読文は慶応義塾大学附属研究所斯道文庫に蔵せられる文明十九年鈔本『論語義疏』(いわゆる「大槻本」)を、原文に附せられた訓点に従って読み下したものである。

一、原文は每半葉九行、毎行二十字、疏文小字双行であるが、翻刻に際してはこれにこだわらなかった。

一、使用する漢字は、コンピュータ処理の上で可能な限り旧字体とした。

一、原文の異体字は、原則として正字に改めた。また、繰り返し返し符号で表記されているものは、相当する漢字に改めた。

一、原文にはカタカナで振仮名や送仮名が附せられているので、それらはみなカタカナを用いて表記した。その際、「メ」「リ」「寸」「云」「子」などは、それぞれ「シテ」「コト」「トキ」「イフ」「ネ」などに改めた。また、繰り返し符号で表記されているものは、相当するカタカナに改めた。

一、振仮名、送仮名には若干の例外を除き濁音符がないので、例外箇所を除き濁音符を付けることはしていない。

一、振仮名と送仮名は、なるべく原書に忠実に従うことに努めたが、両者の判別が困難な場合、原則として活用語は語幹を振仮名と見做して漢字の脇に、活用語尾を送仮名と見做して漢字の下に表記した。その他の語もなるべく読みやすい形で表記した。

一、カタカナが、読み的一部分だけしか示していない場合は、残りの読みを推定し、ひらがなを用いて補った。その際、原則として古典文法に則り、音便形を用いて

いない。

一、頻繁に用いられる「日ノ」、「則ハ」は、それぞれ「ノたうばク」、「ときハ」とも読めるが、ここでは「ノたはク」、「ときんハ」と訓じた。

一、漢字の左右に二通りの訓がある場合は、右傍訓を優先して表記し、左傍訓は括弧に入れて表記した。間々、漢字の右側に二通りの訓がある事があるが、その場合はより漢字に近い訓を優先して表記し、遠い訓は括弧に入れた。

一、漢字の右側に附せられた振仮名は右側に、左側に附せられた振仮名は左側に附した。推定して補った読みも、右側にあるべきものは右側に、左側にあるべきものは左側に附した。

一、訓読文中では不読字（置き字）はすべて省略した。どの文字を省略したかは、訓読文の前に示した白文（読点付き）から判断願いたい。

一、訓読文中では再読文字はその文字を再度表出して、あたかもその文字が二度使用されているかのごとく表記してある。その際、一々再読であることを示していないので、どの文字を再読したかについても、訓読文の前に示した白文から判断願いたい。

一、地名・人名・官名・書名などを示す朱引は、すべて省

略した。

一、原文では句点と読点の区別がなく、すべて行の中央に朱点が付せられているので、ここでは句点を用いず、すべて読点を用いた。また、明らかに付け落としと思われる箇所には、白抜きの読点を補った。

一、原文には墨筆の縦線で、漢字の右脇に音読符、左脇に訓読符、漢字間の中央に音合符、左側に訓合符が附せられている。これらはすべて忠実に再現するように努めたが、明らかに誤りのあるものは訂正して読んだ。その際、一々注記することはしていない。

一、原文に書き入れられている心覚えのためと思われる文字や記号は省略した。

一、一部に書き加えられている刑昺の疏は、省略した。

一、各章末に、武内義雄刊『論語義疏』（大正十三年一月懷徳堂記念会発行「武内本」と略称する）との文字の異同を記した。武内本は誤植が少なからずあり、必ずしも拠るべき最善のテキストとは言えないが、多くの方が参考にすると思われるからである。

翻刻掲載にあたっては、大槻本を所蔵する慶応義塾大学附属研究所斯道文庫の承諾を得た。特に記して感謝の意を表す。

八佾第三^(三) 疏^(四)

【疏】

八佾者、奏樂人數行列之名也、此篇、明季氏は諸侯之臣、而僭行天子之樂也、所以次前者、言政之所裁、裁於斯濫、故八佾次爲政也。^(五) 又一通云、政既由學、學而爲政則、如北辰、若不學而爲政則、如季氏之惡、故次於爲正也、然此不標季氏、而以八佾、命篇者、深責其惡、故書其事、標篇也、

八佾ハ、樂ヲ奏スル人^レ數ノ行^レ列ノ名ナリ、此ノ篇ハ、季氏ハ是レ諸侯ノ臣ナリ、而ルヲ僭シテ天子ノ樂ヲ行フコトヲ明ス、前ニ次ル所^レ以ハ、言^ハ政ノ裁ル所^レハ、斯ノ濫ヲ裁ス、故ニ八佾ヲ爲政ニ次ツ。又ター一通ニ云ク、政ハ既ニ學ニ由ル、學テ政ヲ爲ル則ハ、北辰ノ如シ、若シ學ヒシテ政ヲ爲ル則ハ、季氏カ惡ノ如シ、故ニ爲正ニ次ツ、然ルニ此ニ季氏ヲ標サ不^ス、而シテ八佾ヲ以テ、篇ニ命スルコトハ、深ク其ノ惡ヲ責ム、故ニ其ノ事ヲ書シテ、篇ニ標ス、

(一) 「八佾里仁」四字、爲小字雙行。

(二) 「八」上、武内本有「論語」二字。

(三) 「三」下、武内本有「何晏集解」四字、「凡廿六章」四字(小字單行)。

(四) 「疏」、武内本別行跳格。

(五) 「也」、武内本無此字。

(六) 「正」、武内本作「政」。

【經】

孔子謂季氏、

孔子季氏ヲ謂ク、

【疏】

謂者、評論之辭也、夫相評論、有對面而言、有遙相稱評、若此後子謂冉有曰、汝不能救與、則是對面也、今此所言、是遙相評也、季氏魯之上卿也、魯有三卿、竝豪強僭濫、季氏是上卿、爲僭濫之端、故特舉謂季氏也、

謂ハ、評論ノ辭ナリ、夫レ相ヒ評論スルニ、對面シテ言フコト有リ、遙ニ相ヒ稱評スルコト有リ、此ノ後ニ子冉有ニ謂リテ曰ク、汝救ルコト能ハ不^ル與トイフカ若

キンハ、則チ是レ對_レ面ナリ、今_レ此ニ言フ所ハ、是レ遙ニ相ヒ評ス、季氏ハ魯ノ上卿ナリ、魯ニ三卿有リ、竝ニ豪_レ強ニシテ僭_レ濫ナリ、季氏ハ是レ上卿ナリ、僭濫ノ端ト爲_ス、故ニ特ニ舉テ季氏ヲ謂フ、

【經】

八佾、舞於庭、

八佾シテ、庭ニ舞ハス、

【疏】

此是、孔子所譏之事也、佾猶行列也、天子制八音爲樂、以調八風、故舞人亦有八行、每八人爲行、八八六十四人則、天子儻者、用六十四人也、魯有周公之故、故天子賜魯用天子八佾之樂、而季氏是魯臣、乃僭取八佾樂、於其家廟庭、而舞之、故八佾、云舞於庭也、

此ハ是レ、孔子ノ譏ル所ノ事ナリ、佾ハ行_レ列ノ猶シ、天子ハ八_レ音ヲ制シテ樂ヲ爲_シテ、以テ八_レ風ヲ調フ、故ニ舞_レ人亦八_レ行有リ、八_レ人每ニ行ト爲_レレハ、八_レ八六十四_レ人ナル則ハ、天_レ子ノ儻_レ者ハ、六_レ十四_レ人ヲ用フ、魯ニ周公ノ故有リ、故ニ天_レ子魯ニ賜ニ天_レ子八_レ佾ノ樂ヲ用フ、而

ルニ季氏ハ是レ魯ノ臣ナリ、乃シ僭シテ八_レ佾ノ樂ヲ取テ、其ノ家廟_レ庭ニ於テ、之ヲ舞ス、故ニ八_レ佾シテ、庭ニ舞ハスト云フ、

【經】

是可忍也、

是レヲ忍_レンツ可クンハ、

【疏】

是猶此也、此此舞八佾之事也、忍猶容耐也、孔子曰、此僭八佾之舞、若可容忍者也、

是ハ此ノ猶シ、此トハ八_レ佾ヲ舞スノ事ニ此レソ、忍ハ容_レ耐(耐)ノ猶シ、孔子ノ曰ク、此ノ八_レ佾ノ舞ヲ僭スルコトヲ、若シ容_レ忍ス可クンハ、

【經】

孰不可忍也、

孰_レヲカ忍フ可_レ不_レラン、

【疏】

孰誰也、言若此僭、可忍則、天下爲惡、誰復不可忍也、

【注】
諸侯六、

孰ハ誰、言ハ此ノ若ノ僭ヲモ、忍フ可クシテ、天ノ下ノ惡ヲ爲スコト、誰ヲカ復タ忍フ可クシテ、

諸侯ハ六ツ、

【注】

馬融曰、孰誰也、侑列也、天子八侑、

【疏】
六禮降殺以兩、天子八侑、諸侯故六侑也、

馬融カ曰ク、孰ハ誰、侑ハ列、天子ハ八侑、

六ハ禮ニ降シ殺コト兩ヲ以、天子ハ八侑、諸侯ハ故ニ六侑、

【疏】

天子用八、以象八風、八風者八方之八卦之風也、北曰廣漢風、東北曰明條風、東曰明庶風、東南曰清明風、南曰景風、西南曰涼風、西曰閭闔風、西北曰不周風也、

【注】
卿大夫四、十二、

卿大夫ハ四ハ、十二ツ、

天子ハ用テ、以テ八風ニ象ル、八風ハ八方ノ八卦ノ風ナリ、北ヲハ廣漢風ト曰フ、東ノ北ヲハ明條風ト曰フ、東ヲハ明庶風ト曰フ、東南ヲハ清明風ト曰フ、南ヲハ景風ト曰フ、西南ヲ涼風ト曰フ、西ヲハ閭闔風ト曰フ、西北ヲハ不周風ト曰フ、

【疏】

杜注春秋及公羊傳皆云、諸侯六六三十六人、大夫四四十六人、士二二四人也、

天子ハ用テ、以テ八風ニ象ル、八風ハ八方ノ八卦ノ風ナリ、北ヲハ廣漢風ト曰フ、東ノ北ヲハ明條風ト曰フ、東ヲハ明庶風ト曰フ、東南ヲハ清明風ト曰フ、南ヲハ景風ト曰フ、西南ヲ涼風ト曰フ、西ヲハ閭闔風ト曰フ、西北ヲハ不周風ト曰フ、

杜カ注ノ春秋及ヒ公羊傳ニ皆云ク、諸侯ハ六六三十六人、大夫ハ四四十六人、士ハ二二四一人、

【注】

八人爲列、八八六十四人也、

八一人ヲ列ト爲レハ、八一人ハ六十四一人ナリ、

【疏】

據天子之佾人數也、

天子ノ佾一人ノ數ニ據ル、

【注】

魯以周公故、

魯ハ周公ノ故ヲ以、

【疏】

故周公有輔相成王、攝天子位、六年制禮作樂、七年致政、
還成王之故也、

故トハ周公成王ニ輔ト相トシテ、天子ノ位ヲ攝スルニ有
リ、六年ニ禮ヲ制シ樂ヲ作シテ、七年ニ政ヲ致シテ、成
王ニ還スノ故ナリ、

【注】

受王者禮樂、有八佾之儻、

王者ノ禮樂ヲ受テ、八佾ノ儻有リ、

【疏】

由周公之故、故受天子禮樂、八佾舞也、

周公ノ故ニ由ル、故ニ天子ノ禮樂、八佾ノ舞ヲ受ク、

【注】

今季桓子僭於其家廟儻之、故孔子譏之也、

今季桓子其ノ家ノ廟ニ僭シテ之ヲ儻ス、故ニ孔子之ヲ譏
ル、

【疏】

桓子家之豪強、起於季氏文子武子平子悼子、至桓子五世、
故後引稱、孔子曰、政逮於大夫、四世矣、是也、今孔子所
譏、皆譏其五世、而注獨云桓子者、是時孔子與桓子政相
儻、故舉儻者言之、

桓子カ家ノ豪強ハ、季氏ノ文字武子平子悼子ヨリ起テ、桓子ニ至テ五世ナリ、故ニ後ニ引テ稱ハク、孔子ノ曰ク、政ハ大夫ニ逮フコト、四世トイフハ、是レナリ、今孔子譏ル所、皆其ノ五世ヲ譏ル、而ルヲ注ニ獨リ桓子ヲ云コトハ、是ノ時ニ孔子桓子與政相イ値フ、故ニ値ヘル者ヲ舉テ之ヲ言フ、

(一) 「有」、武内本作「者」。

(二) 「故八佾云舞於庭也」、武内本作「故云八佾舞於庭也」。

(三) 「漢」、武内本作「漠」。

(四) 「明」、武内本無此字。

【經】

三家者、以雍徹、

三家ハ、雍ヲ以徹ス、

【疏】

又譏其失也、三家、即仲孫叔孫季孫也、并皆僭濫、故此并言之也、季氏爲最惡、故卷初、獨言季氏也、雍者詩篇名也、徹者、禮天子祭竟、欲徹祭饌則、使樂人先歌雍詩、以

樂神、後乃徹祭器、于時三家祭竟、亦歌雍詩、以徹祭、故云、三家以雍徹也、

又其ノ失ヲ譏ル、三家トハ、即チ仲孫叔孫季孫ナリ、并ニ皆僭濫ナリ、故ニ此ニ并テ之ヲ言フ、季氏ヲ最惡ト爲、故ニ卷ノ初二、獨リ季氏ヲ言フ、雍ハ詩ノ篇ノ名ナリ、徹ハ、禮ニ天子ノ祭り竟テ、祭ノ饌ヲ徹セント欲則ハ、樂人ヲ使テ先ツ雍ノ詩ヲ歌テ、神ヲ樂シマ使ム、後ニ乃チ祭器ヲ徹ス、時于三家祭り竟テ、亦雍ノ詩ヲ歌テ、以テ祭ヲ徹ス、故ニ云ク、三家ハ雍ヲ以徹スト、

【注】

馬融曰、三家者、謂仲孫叔孫季孫也、

馬融カ曰ク、三家トハ、仲孫叔孫季孫ヲ謂フ、

【疏】

三孫、同是魯桓公之後、桓公嫡子莊公爲君、而桓公之庶子、有公子慶父公子叔牙公子季友也、仲孫是慶父之後、叔孫是叔牙之後、季孫是季友之後、後子孫、皆以其先仲叔、季、爲氏、故有此三氏、并是桓公子孫、故俱稱孫也、亦曰三桓子孫也、仲孫氏、後世改仲曰孟、孟者庶長之稱、

言己家是庶、不敢與莊公爲伯、仲、叔、季、之次、故取庶長爲始、而云孟孫氏也、

三孫ハ、同ク是レ魯ノ桓公ノ後ナリ、桓公ノ嫡子莊公君爲リ、而シテ桓公ノ庶子、公子慶父公子叔牙公子季友有、仲孫ハ是レ慶父ノ後、叔孫ハ是レ叔牙カ後、季孫ハ是レ季友カ後ナリ、後ノ子孫、皆其ノ先ノ仲、叔、季ヲ以テ、氏ト爲、故ニ此ノ三氏有リ、并ニ是レ桓公ノ子孫ナリ、故ニ俱ニ孫ト稱ス、亦三桓ノ子孫ト曰フ、仲孫氏、後ノ世ニ仲ヲ改メテ曰フ孟ト、孟者庶長ノ稱ナリ、言ハ己カ家ハ是レ庶ナリ、敢テ莊公與伯、仲、叔、季ノ、次テ爲ラ不、故ニ庶長ヲ取テ始ト爲、而シテ孟孫氏ト云フ、

【注】

雍周頌臣公篇名也、天子祭於宗廟、歌之以徹祭、今三家、亦作此樂者也、

雍ハ周頌ノ臣公ノ篇ノ名ナリ、天子宗廟ヲ祭ルトキ、之ヲ歌テ以テ祭ヲ徹ス、今三家ニモ、亦此ノ樂ヲ作ス者ナリ、

【疏】

天子徹祭、所以歌雍者、雍詩云、有客雍雍、至止肅肅、相維辟公、天子穆穆、是言祭事周畢、有客甚自雍和、而至皆并肅敬、時助祭者、有諸侯及二王後、而天子威儀、又自穆穆、是禮足事竟、所以宜徹、故歌之以樂神也、

天子祭ヲ徹スルトキ、雍ヲ歌フ所以ハ、雍ノ詩ニ云ク、客有リ雍雍トシテ、至ルトキニ止ル肅肅トシテ（客有リ雍雍トシテ、至リ止テ肅肅タリ）、相クル維辟公アリ、天子穆穆トシテ、是レ言ハ祭ノ事周ク畢テ、客有リ甚タ自雍和ニシテ至トキ、皆并ニ肅敬トシテ、時ニ祭ヲ助クトハ、諸侯及ヒ二王後有リ、而シテ天子ノ威儀モ、又自穆穆トシテ、是レ禮足リ事竟テ、宜ク徹ス宜キ所以ナリ、故ニ之ヲ歌テ以テ神ヲ樂シム、

【經】

子曰、相維辟公、天子穆穆矣、奚取於三家之堂、

子ノ曰ク、相クル維辟公アリ、天子穆穆トシテ、奚ソ三家ノ堂ニ取ルヤ、

【疏】

前是記者之言、此是孔子語也、孔子稱雍詩之曲以譏三家也、相助也、辟猶諸侯也、公二王之後也、穆穆敬也、奚何也、孔子曰、此詩曲言、時助祭者、有諸侯及王者後、而天子容儀、盡敬穆穆然、今三家之祭、但有其家臣、而已、有何諸侯二王後、及天子穆穆乎、既無此事、何用空歌此曲、於其家之廟堂乎、

前ハ是レ記スル者ノ言ナリ、此レハ是レ孔子ノ語ナリ、孔子雍ノ詩ノ曲ヲ稱シテ、以テ三家ヲ譏ル、相ハ助ナリ、辟ハ諸侯ノ猶シ、公ハ二王ノ後ナリ、穆穆ハ敬ナリ、奚ハ何ナリ、孔子ノ曰ク、此ノ詩ノ曲ニ言ク、時ニ祭ヲ助クル者、諸侯及ヒ王者ノ後有リ、而シテ天子ノ容儀モ、敬ヲ盡シテ穆穆然タリ、今ニ三家ノ祭ニハ、但ニ其ノ家臣有ル、而已ナリ、何ソ諸侯二王ノ後、及ヒ天子ノ穆穆タル有ランヤ、既ニ此ノ事無シ、何ソ用テ空ク此ノ曲ヲ、其ノ家ノ廟堂ニ歌ハンヤ、

【注】

荀氏曰、辟公、謂諸侯及二王之後也、

荀氏カ曰ク、辟公トハ、諸侯及ヒ二王ノ後ヲ謂フ、

【疏】

辟訓君、君故是諸侯也、二王後、稱公、公故是二王後也、辟ノ訓ハ君ナリ、君ナルカ故ニ是レ諸侯ナリ、二王ノ後ヲ、公ト稱ス、公ナルカ故ニ是レ二王ノ後ナリ、

【注】

穆穆、天子之容也、雍篇歌此曲者、有諸侯及二王之後、來助祭故也、

穆穆ハ、天子ノ容、雍篇ニ此ノ曲ヲ歌フコトハ、諸侯及ヒ二王ノ後ノ、來テ祭ヲ助クル有ル故ナリ、

【疏】

唯天子祭有此也、

唯夕天子ノ祭ニ此レ有リ、

【注】

今三家、但家臣而已、何取此義、而作之於堂耶、

今ニ三家ハ、但家臣而已ナリ、何ソ此ノ義ヲ取テ、之ヲ堂

二作スヤ、

【疏】

大夫稱家、今三卿之祭、但有家臣、家臣、謂家相邑宰之屬來助祭耳、有何辟公天子穆穆、而空歌此曲於堂乎、或問曰、魯祭亦無諸侯及二王後、那亦歌此曲耶、答曰、既用天子詩樂、故歌天子詩也、或通云、既用天子禮樂、故當祭時、則備設此諸官也、或云、魯不歌此雍也、季氏自僭天子禮、非僭魯也、

大夫二家ト稱ス、今三卿ノ祭ニ、但夕家臣ノミ有リ、家臣トハ、家相邑宰ノ屬ヲ來テ祭ヲ助ケルヲ謂フ耳、何ソ辟公天子ノ穆穆タルカ有ラン、而ルヲ空ク此ノ曲ヲ堂ニ歌ハン乎、或ヒト問テ曰ク、魯ノ祭ニ亦諸侯及ヒ二王ノ後無ケン、那ソ亦此ノ曲ヲ歌フ耶、答テ曰ク、既二天子ノ詩樂ヲ用フ、故二天子ノ詩ヲ歌フ、或ル通ニ云ク、既二天子ノ禮樂ヲ用フ、故二當ニ祭ノ時ニ、備ニ此ノ諸官ヲ設ク當、或ヒト云ク、魯ニ此ノ雍ヲ歌ハ不、季氏自天子ノ禮ヲ僭ス、魯ニ僭スルニ非、

- (一) 「即」下、武内本有「是」字。
- (二) 「使」上、武内本有「先」字。

(三) 「稱」下、武内本有「也」字。

(四) 「公」、武内本作「工」。

(五) 「也」、武内本無此字。

(六) 「也」、武内本無此字。

(七) 「日」、武内本作「云」。

(八) 「曲」、武内本無此字。

(九) 「子」下、武内本有「之」字。

(一〇) 「乎」、武内本作「哉」。

(一一) 「詩」、武内本作「禮」。

【經】

子曰、人而不仁、如禮何、人而不仁、如樂何、

子ノ曰ク、人トシテ仁アラ不^スンハ、禮如何、人トシテ仁アラ不^スンハ、樂ヲ如何、

【疏】

此章、亦爲季氏出也、季氏三家、僭濫王者禮樂、其既不仁則、奈此禮樂何乎、江熙曰、所貴禮樂者、以可安上治民、移風易俗也、然其人存則興、其人亡則廢、而不仁之人、居得興之地、而無能興之道、則仁者之屬、無所施之、故歎之而已、

此ノ章モ、亦夕季氏カ爲ニ出ツ、季氏ハ三家ナリ、王者ノ禮樂ヲ僭濫ス、其レ既ニ不仁ナル則ハ、此ノ禮樂ヲ奈何セン乎、江熙カ曰ク、禮樂ヲ貴フ所ハ、上ヲ安シ民ヲ治メ、風ヲ移シ俗ヲ易フ可シ、然シテ其ノ人存スル則ハ興リ、其ノ人亡則ハ廢ル、而シテ不仁ノ人、興スコトヲ得ルノ地ニ居テ、能ク興スノ道無ンハ、仁者ノ屬、施ス所無ン、故ニ之ヲ歎スル而已、

【注】

荀氏曰、言人而不仁、必不能行禮樂也、

荀氏カ曰ク、言ハ人トシテ仁アラ不ンハ、必ス禮樂ヲ行コト能ハ不、

(一) 「曰」、武内本作「云」。

【經】

林放問禮之本、

林放禮ノ本ヲ問フ、

【疏】

問孔子求知禮之本也、

孔子ニ問テ禮ノ本ヲ知ランコトヲ求ム、

【注】

鄭玄曰、林放魯人也、

鄭玄カ曰ク、林放ハ魯人ナリ、

【經】

子曰、大哉問、

子曰、の大まは大ナル哉問カチヘルコト、

【疏】

重林放能問禮之本、故美其問、而稱之大哉也、故王弼曰、時人棄本崇末、故大其能尋本禮意也、

林放カ能ク禮ノ本ヲ問コトヲ重ス、故ニ其ノ問ヲ美メテ之レ大哉ト稱ス、故ニ王弼カ曰ク、時ノ人本ヲ棄テテ末ヲ崇フ、故ニ其ノ能ク禮ノ意ヲ尋ネ本ツクルコトヲ

大ナリトス、

【經】

禮與其奢也、寧儉、

禮ハ其ノ奢ラン與ハ、寧口儉セヨ、

【疏】

美之既竟、此答之也、奢奢侈也、儉儉約也、夫禮之本、貴在奢儉之中、不得中者、皆爲失也、然爲失雖同、而成敗則異、奢則不遜、儉則固陋、俱是致失、奢不如儉、故云禮與奢寧儉也、

之ヲ美ムルコト既ニ竟テ、此ニ之ヲ答フ、奢ハ奢侈ナリ、儉ハ儉約ナリ、夫レ禮ノ本ハ、奢儉ノ中ニ在ルコトヲ貴フ、中ヲ得不シハ、皆失ト爲ス、然シテ失ヲ爲スコト同ト雖モ、成敗ハ則チ異ナリ、奢ハ則チ不遜ナリ、儉ハ則チ固陋ナリ、俱ニ是レ失ヲ致ス、奢ハ儉ニ如カ不、故ニ禮ハ奢ラン與ハ寧口儉セヨト云フ、

【經】

喪與其易也、寧戚、

喪ハ其ノ易カン與ハ、寧口戚メ、

【疏】

易和易也、戚哀過禮也、凡喪有五服輕重者、各宜當情、以是本、若和易、及過哀、皆是爲失、會是一失、則易不若過哀、故云寧戚也、或問曰、何不答以禮本、而必言四失何也、通云、舉其四失則、知不失即其本也、其時世多失、故因舉失中之勝、以誠當時也、

易ハ和易ナリ、戚ハ哀ノ禮ニ過タル、凡ソ喪ニ五服ノ輕重有ルコトハ、各宜ク情ニ當ツ宜、是レ本トスル所以ナリ、和易、及ヒ哀ノ過ルカ若キンハ、皆是レ失ト爲ス、是ノ一失ニ會フトキハ、易ハ哀ノ過タルニ若カ不、故ニ寧口戚メト云フ、或ヒト問テ曰ク、何ソ答ルニ禮ノ本ヲ以テセ不シテ、必ス四失ヲ言フコトハ何ソヤ、通ニ云ク、其ノ四失ヲ舉ル則ハ、即其ノ本ヲ失セ不ルコトヲ知ル、其ノ時一世失多シ、故ニ因テ中ヲ失スルノ勝ルヲ舉テ、以テ當時ヲ誡ム、

【注】

荀氏曰、易和易也、言禮之本意、失於奢、不如儉也、喪失於和易、不如哀戚也、

荀氏カ曰ク、易ハ和易ソ、言ハ禮ノ本意、奢リニ失ス、儉ニ如カ不、喪ハ和易ニ失ス、哀戚スルニ如不、

【疏】

就注意、即所答四失、從二即是禮本也、

注ノ意ニ就二、即答ル所ノ四失、二ニ從フ即チ是レ禮ノ本ナリ、

(一) 「曰」、武内本作「云」。

(二) 「若」、武内本作「如」。

(三) 「即」、武内本無此字。

(四) 「荀氏」、武内本作「鄭玄」。

(五) 「禮」下、武内本有「之」字。

【經】

子曰、夷狄之有君、不如諸夏之亡也、

子ノ曰ク、夷狄ノ君有ルハ、諸夏ノ亡キニハ如カ不、

【疏】

此章重中國、賤蠻夷也、諸夏中國也、亡無也、言夷狄雖有

君主、而不及中國無君也、故孫綽曰、諸夏有時無君、道不都喪、夷狄強者爲師、理同禽獸也、釋惠琳曰、有君無禮、不如禮無君也、刺時季氏有君無禮也、

此ノ章ハ中國ヲ重シ、蠻夷ヲ賤ス、諸夏ハ中國ナリ、亡ハ無ナリ、言ハ夷狄ハ君主有リト雖、而トモ中國ノ君無キニ及ハ不、故ニ孫綽カ曰ク、諸夏ハ時ニ君無キコト有レトモ、道都テ喪セ不、夷狄ハ強者師ヲ爲ス、理禽獸ニ同シ、釋ノ惠琳カ曰ク、君有テ禮無キハ、禮有テ君無ニハ如カ不、時ニ季氏君有テ禮無キコトヲ刺ス(刺ル)、

【注】

荀氏曰、諸夏中國也、亡無也、

荀氏カ曰ク、諸夏ハ中國ソ、亡ハ無、

【疏】

謂中國、爲諸夏者也、夏大也、中國禮大、故謂爲夏也、諸之也、語助也、

中國ヲ謂テ、諸夏ト爲ルコトハ、夏ハ大ナリ、中國ハ

禮おほい大ナリ、故ニ謂テ夏ト爲ス、諸ハ之ナリ、語ノ助ナリ、

ヲ祭ル、

(一) 「曰」、武内本作「云」。

(二) 「惠」、武内本作「慧」。

(三) 「曰」、武内本作「云」。

(四) 「也」、武内本無此字。

(五) 「語」上、武内本有「之一」字。

【經】

季氏旅於泰山、

季氏泰山ヲ旅ス、

【疏】

又譏季氏僭也、旅祭名也、泰山魯之太山也、禮天子、祭天

下名山大川、諸侯止祭其封内、大夫位、非專封則、不得祭

山川、而季子亦僭、祭魯太山也、

又季氏カ僭ヲ譏ル、旅ハ祭ノ名ナリ、太山ハ魯ノ太山ナ

リ、禮ニ天ト子ハ、天ト下ノ名ト山大川ヲ祭ル、諸侯止タ其

ノ封内ヲ祭ル、大夫ノ位ハ、封ヲ專ラスルニ非ル則ハ、

山ト川ヲ祭ルコトヲ得不、而ルヲ季子亦僭シテ、魯ノ太山

【經】

子謂再有曰、汝不能救與、

子カク再有二謂ツテ曰ク、汝なんぢ救ムルコト能ハ不さル與、

【疏】

再有孔子弟子也、救猶諫止也、時再有仕季氏家、季氏濫
祀、故孔子問再有言、汝既仕彼家、那不能諫止其濫祀乎、

再有ハ孔子ノ弟子ナリ、救ハ諫止ノ猶シ、時ニ再有季氏

カ家ニ仕フ、季氏祀ヲ濫ル、故ニ孔子再有ニ問テ言ク、

汝なんぢ既ニ彼ノ家ニ仕フ、那ソ其ノ濫祀ヲ諫止スルコト能

ハ不さル乎、

【注】

馬融曰、旅祭名也、

馬融カ曰ク、旅ハ祭ノ名ソ、

【疏】

鄭注周禮云、旅非常祭也、今季氏祭也、^(五)今季氏祭^(六)太山非是常祭、故云旅也、

鄭カ周禮ヲ注スルニ云ク、旅ハ常ノ祭ニ非ストハ、今ノ季氏カ祭ナリ、今季氏太山ヲ祭ル是レ常ノ祭ニ非ス、故ニ旅ト云フ、

【注】

禮諸侯、祭山川、在其封内者也、

禮ニ諸侯ハ、山一川ノ、其ノ封一内ニ在ル者ヲ祭ル、

【疏】

太山在魯、魯君宜祭之耳也、^(七)

太山ハ魯ニ在リ、魯ノ君ハ宜ク之ヲ祭ル宜キ耳、^(八)

【注】

今陪臣、祭太山、非禮也、^(九)

今陪臣、太山ヲ祭ルハ、禮ニ非ス、

【疏】

陪重也、魯是天子臣、而季氏は魯臣、於天子、爲重臣、重臣、而與天子、俱祭名山、故爲非禮也、

陪ハ重ナリ、魯ハ是レ天子ノ臣ナリ、而ルヲ季氏ハ是レ魯ノ臣ナリ、天子ニ於テ、重臣ト爲、重臣トシテ、天子與、俱二名山ヲ祭ル、故ニ非禮ト爲、

【注】

冉有弟子冉求也、時仕季氏、救猶止也、

冉有ハ弟子冉求ソ、時ニ季氏ニ仕フ、救ハ止ノ猶シ、

【經】

對曰、不能、

對テ曰ク、能ハ不、

【疏】

冉有對孔子也、不能謂季氏豪僭、雖諫不能止也、

冉有孔子ニ對フ、能ハ不トハ季氏豪僭シテ、諫ムト雖フト

モ止ムルコト能ハ不ランコトヲ謂フ、

【經】

子曰、嗚呼、

子ノ曰ク、嗚呼、

【疏】

孔子更説季氏之失、故先歎而後言也、嗚呼歎也、

孔子更二季氏カ失ヲ説ク、故二先ツ歎シテ而シテ後二言フ、嗚呼トハ(嗚呼ハ)歎ナリ、

【經】

曾謂泰山不如林放乎、

曾^{スナハ}チ(曾^{カツテ})(曾^{ナンテ})泰山ヲ林放ニ如カ不ト謂^{フモ}ツテ乎、

【疏】

曾之言則也、乎助語也、孔子曰、林放尚能問禮本、况大山之神、聰明正直、而合歆此非禮之祀也乎、若遂歆此非禮之食則、此神反不如林放也、既必無歆理、豈可誣罔而祭之

乎、故云、則可謂太^(一〇)山不如林放乎、

曾カ言ハ則ナリ、乎ハ助ノ語ナリ、孔子ノ曰ク、林放ハ尚ヲ能ク禮ノ本ヲ問フ、況ヤ大山ノ神ハ、聰明正直ナリ、而ルニ此ノ非禮ノ祀ヲ歆ク合ケン乎、若シ遂ニ此ノ非禮ノ食ヲ歆クル則ハ、此レ神反テ林放ニ如カ不ルナリ、既ニ必ス歆クル理無ケン、豈ニ誣イ罔イテ之ヲ祭ル可ケン乎、故ニ云ク、則チ泰山ヲ林放ニ如カ不ト謂フ可^ハン乎、

【注】

苞氏曰、神不享非禮、林放尚知問禮、太山之神、反不如林放耶、欲誣而祭之也、

苞氏カ曰ク、神ハ非禮ヲ享ケ不、林放スラ尚ヲ禮ヲ問コトヲ知レリ、太山ノ神、反テ林放ニ如カ不ラン耶、誣イテ之ヲ祭ラマク欲ス、

- (一) 「太」、武内本作「泰」。
- (二) 「太」、武内本作「大」。
- (三) 「子」、武内本作「氏」。
- (四) 「太」、武内本作「大」。

(五) 「今季氏祭也」、武内本無此句。

(六) 「太」、武内本作「大」。

(七) 「太」、武内本作「大」。

(八) 「也」、武内本無此字。

(九) 「太」、武内本作「大」。

(一〇) 「太」、武内本作「大」。

(一一) 「問」、武内本無此字。

(一二) 「太」、武内本作「大」。

【經】

子曰君子無所爭、

子ノ曰ク君一子ハ争フ所無シ、

【疏】

此章、明射之可重也、言君子恆謙卑、自收退讓明禮、故云無所爭也、

此ノ章ニハ、射ノ重ンス可キヲ明ス、言ハ君一子ハ恆ニ謙卑ニシテ、自一收メテ退一讓シテ禮ヲ明ニス、故ニ云ク争フ所無シト、

【經】

必也射乎、

必ス射ルトキニヲヒテカ(射ルトキニシテカ)、

【疏】

言雖他事無争、而於射有争、故云必也射乎、於射所以有争者、古者生男、必設桑弧蓬矢於門左、至三日夜、使人負子出門而射、示此子方當必有事於天地四方、故云、至年長、以射進仕、禮王者將祭、必擇士助祭、故四方諸侯竝貢士於王、王試之於射宮、若形容合禮、節奏比樂、而中多者、得預於祭、得預於祭者、進其君爵土、若射不合禮樂、而中少者則、不預祭、不預祭者、黜其君爵土、此射事既重、非唯自辱、乃係累已君、故君子之人、於射而必有争也、故顏延之曰、射許有争、故可以觀無争也、范寧亦云、無争、

言ハ他ノ事ニ争フコト無シト雖モ、而トモ射ニ於テ争フコト有リ、故ニ必一射ルトキニヲヒテ乎ト云フ、射ニ於テ争フコト有ル所一以ハ、古ニハ男ヲ生トキニ、必ス桑ノ弧蓬ノ一矢ヲ門ノ左ニ設ク、三ノ日ノ夜ニ至テ、人使テ子ヲ負テ門ニ出テ射セシム、此ノ子一方ニ必一天地四方ニ事有ル當キコトヲ示ス、故ニ云ク、年一長スルニ至テ、射ヲ以

進_レ仕スト、禮ニ王ノ者祭ント將トキニ、必ス士ヲ擇テ祭ヲ助ケシム、故ニ四方ノ諸侯竝ニ士ヲ王ニ貢ス、王之ヲ射_レ宮ニ試ム、若シ形容禮ニ合イ、節_レ奏樂ニ比シテ、中タルコト多キ者ハ、祭ニ預ルコトヲ得、祭ニ預ルコトヲ得ル者ハ、其ノ君ノ爵_レ士ヲ進ム、若シ射禮樂ニ合ハ不シテ、中タルコト少キ者ハ則チ、祭ニ預ラ不_ス、祭ニ預カラ不_ル者ハ、其ノ君ノ爵_レ士ヲ黜ク、此ノ射ノ事既ニ重ンス、唯ニ自_ラ辱_レノミニ非ス、己カ_レ君ヲ係ケ_レ累ハス、故ニ君子ノ人ハ、射ニ於_テ必_ズ爭フコト有リ、故ニ顏延之カ曰ク、射トキニ爭フコト有ルコトヲ許ス、故ニ爭フコト無キコトヲ觀ツ可シ、范寧モ亦云ク、爭フコト無シト、

【注】

孔安國曰、言於射、而後有爭也、

孔安國カ曰ク、言ハ射ルトキニ於テ、而シテ後ニ爭フコト有リ、

【經】

揖讓而升下

揖_レ讓シテ升リ_レ下_テ

【疏】

射儀云、禮初主人揖賓而進、交讓而升堂、及射竟、勝負已決、下堂猶揖讓、不忘禮、故云揖讓而升下也、

射儀ニ云ク、禮ニ初メ主人賓ヲ揖シテ進ミ、交讓_レテ堂ニ升ル、射_レ竟ルニ及テ、勝負已ニ決シテ、堂ヨリ下ルトキニ猶ヲ揖讓シテ、禮ヲ忘レ不_ス、故ニ揖讓シテ升リ_レ下ト云フ、

【經】

而飲、

飲マシム、

【疏】

飲者、謂射不如者、而飲罰爵也、射勝者堂酌酒、跪飲於不_レ如者云、敬養、所以然者、君子敬讓、不以己勝爲能、不以彼負爲否、言彼所以不中者、非彼不能、政是有疾病故也、酒能養病、故酌酒飲彼、示養彼之病、故云敬養也、所以禮云、君使士射、士不能則、辭以疾、懸弧之義也、而不_レ如者、亦跪受酒而云、賜灌、灌猶飲者也、言賜飲者、服而爲敬辭也、注曰、言於射而後有爭、

飲^の者^{マシムトハ}、射ノ如カ不^まル者^{モウ}ニ、而シテ罰^さ爵^さヲ飲^まマシムルヲ謂^イフ、射ニ勝^かツ者^{モウ}堂^{タウ}ニ酒^{サウ}ヲ酌^{しやく}テ、跪^{くわい}テ如カ不^ま者^{モウ}ニ飲^まシメテ云ク、敬^{けい}テ養^{やう}フ、然^{しか}ル所^{ところ}以^{もつ}ハ、君^{きん}子^しハ敬^{けい}讓^{じやう}シテ、己^{おのれ}カ勝^かツコトヲ以^{もつ}テ能^よト爲^なス、彼^かカ負^おタルヲ以^{もつ}テ否^{いな}ト爲^なス、言^いハ彼^かカ中^{ちゆう}テ不^ま所^{ところ}以^{もつ}ハ、彼^かカ能^よク病^{びやう}ヲ養^{やう}フ、故^{ゆゑ}ニ酒^{サウ}ヲ酌^{しやく}テ彼^か疾^{しやく}病^{びやう}有^あル故^{ゆゑ}ナリ、酒^{サウ}ハ能^よク病^{びやう}ヲ養^{やう}フ、故^{ゆゑ}ニ酒^{サウ}ヲ酌^{しやく}テ彼^か飲^{いん}シメテ、彼^かカ病^{びやう}ヲ養^{やう}コトヲ示^{しめ}ス、故^{ゆゑ}ニ敬^{けい}テ養^{やう}ト云フ、所^{ところ}以^{もつ}ニ禮^{らい}ニ云ク、君^{きん}士^しヲ使^しテ射^{しや}セ使^しム、士^し能^よハ不^まル則^{すなは}ハ、辭^じスルニ疾^{しやく}ヲ以^{もつ}ス、懸^{けん}弧^こノ義^ぎナリ、而シテ如カ不^まル者^{モウ}、亦^{また}跪^{くわい}テ酒^{サウ}ヲ受^うテ而シテ云ク、灌^{くわん}ヲ賜^{たま}フ、灌^{くわん}ハ飲^{いん}ノ猶^{なほ}シ、言^いハ飲^{いん}ヲ賜^{たま}トハ、服^{ふく}シテ敬^{けい}ヲ爲^なスノ辭^じナリ、注^{ちゆう}ニ曰^いク、言^いハ射^{しや}ルトキニ於^おテ而シテ後^{のち}ニ爭^{まを}フコト有^あリトイフ、

【注】

王肅曰、射於堂、升及下、皆揖讓、而相飲也、

王肅カ曰ク、堂ニ射ルトキニ、升リ及ヒ下テ、皆揖^み讓^なシテ、相^あ飲^{いん}マシム、

【疏】

就王注意、則云揖讓而升下也、若餘人讀、則云、揖讓而升、屬上句、又云、下而飲下、屬下句、然此讀不及王意

也、

王カ注ノ意ニ就^しクトキハ、則^{すなは}チ揖^い讓^なシテ升^あリ下^{くだ}ルヲ云フ、餘^{あま}人^{ひと}ノ讀^よムカ若^{ごと}クシハ、則^{すなは}チ云ク、揖^い讓^なシテ升^あルノ升^あリハ、上^{かみ}ノ句^くニ屬^{ぞく}シ、又云ク、下^{した}テ飲^{いん}シムノ下^{くだ}リハ、下^{した}ノ句^くニ屬^{ぞく}ス、然^{しか}トモ此^こノ讀^よムハ王^{わう}カ意^いニ及^{およ}ズ、

【經】

其爭也、君子、

其ノ爭^{まを}ヒ、君^{きん}子^しナリ、

【疏】

夫^こ小人^{じん}之^の爭^{まを}、必^{かならず}攘^あ臂^へ厲^{れき}色^{しき}、今^{いま}此^こ射^{しや}、雖^{すなは}チ心^{こころ}止^{とど}ま不忘^{わす}中^{ちゆう}、而^{しか}進^{すす}退^{たい}合^が禮^{らい}、更^{さら}相^あ辭^じ讓^{じやう}、跪^{くわい}授^{じゆ}受^う、不^な乖^{あや}君^{きん}子^し之^の容^{よう}、故^{ゆゑ}云^い其^{その}爭^{まを}也^{なり}、

夫^こ小^{せう}人^{じん}ノ爭^{まを}ハ、必^{かならず}ス臂^{たて}ヲ攘^あグ色^{しき}ヲ厲^{れき}ス、今^{いま}此^こノ射^{しや}ハ、心^{こころ}ニ止^{とど}マ中^{ちゆう}テシテ忘^{わす}レ不^なト雖^{すなは}チ、而^{しか}モ進^{すす}退^{たい}禮^{らい}ニ合^がテ、更^{さら}イニ相^あヒ辭^じ讓^{じやう}シテ、跪^{くわい}テ授^{じゆ}ケ受^うク、君^{きん}子^しノ容^{よう}ニ乖^{あや}カ不^な、故^{ゆゑ}ニ其^{その}ノ爭^{まを}ハ君^{きん}子^しナリト云フ、

【注】

馬融曰、多算飲少算。君子之所爭也、

馬融カ曰ク、算多キガ算少キニ飲マシム。君子ノ争フ所ナリ、

【疏】

證其争也、君子也、算猶籌也、射者比結朋黨、各有算數、
 每中則以算表之、若中多則算多、故云多算也、中少則算
 少、故云少算也、凡情得勝則、自爲矜貴、今射雖多算、
 當猶自酌酒、以飲少算、不敢自高、是君子之所争也、故
 云、君子之所争也、然釋此者云、於射無争、非今所安、
 聊復記之、李充曰、君子謙卑、以自收、後己先人、受勞辭
 逸、未始非讓、何争之有乎、射藝競中、以明能否、而處心
 無措者、勝負若一、由此觀之、愈知君子之無争也、樂肇
 曰、君子於射、講藝明訓、考德觀賢、繁揖讓、以成禮、崇
 五善、以興教、故曰、君子無所争、必也射乎、言於射、尤
 必君子之無争、周官所謂、陽禮教讓則、民不爭者也、君子
 於禮、所主在重、而所略在輕、若升降揖讓、於射則争、是
 爲輕、在可讓、而重在可争、豈所謂禮敬之道哉、且争無益
 於勝功者也、求勝在己、理之常也、雖心存中質、不可謂
 争矣、故射義曰、失諸正鵠、還求諸身、求中以辭養、不爲

争勝、以恥人也、又曰、射仁道也、發而不中、不怨勝己
 者、求反諸己而已、因稱此言、證無争焉、誠以争名施於
 小人、讓分定於君子也、今說者云、必於射、然後有争、此
 爲反論文、背周官、違禮記、而後有争之言、得通考諸經傳
 則、無争之證、益明矣、

其ノ争ハ、君子ナリトイフコトヲ證ス、算ハ籌ノ猶シ、
 射ルトキニ朋黨ヲ比結シテ、各算ノ數有リ、中ツル毎ニ
 則チ算ヲ以テ表ス(表ス)、若シ中ツルコト多キ則ハ
 算多シ、故ニ算多シト云フ、中ツルコト少キ則ハ算少
 シ、故ニ算少シト云フ、凡ソ情ニ勝ツコトヲ得ル則ハ、
 自矜リ貴シト爲、今射ルトキニ算多シト雖、當ニ猶
 ヲ自酒ヲ酌テ、算少ニ飲マシム、敢テ自高シトセ不
 是レ君子ノ争フ所ナリ、故ニ云ク、君子ノ争フ所ナリ
 ト、然ルニ此ヲ釋スル者ノ云ク、射ニ於争フコト無シト、
 今安ニスル所ニ非ス、聊カ復タ之ヲ記ス、李充カ曰ク、
 君子ハ謙卑ニシテ、以テ自收メテ、己ヲ後ニシ人ヲ
 先ニス、勞ヲ受ケ逸ヲ辭ス、未タ始ヨリ讓ルコト非ルニ
 未、何ソ争フコト有ラン乎、射藝ハ競ヒ中テテ、能
 否ヲ明ス、而トモ心措クコト無キニ處スル者ハ、勝負一
 ノ若シ、此ニ由テ之觀レハ、愈君子ノ争フコト無コト
 ヲ知ヌ、樂肇カ曰ク、君子ハ射ニ於、藝ヲ講工訓ヲ明

ニシ、徳ヲ考ヘ賢ヲ觀テ、揖讓ヲ繁クシテ、禮ヲ成シ、
 五善ヲ崇テ、教ヲ興ス、故ニ曰ク、君子ハ争フ所無シ、
 必ス射ルトキニヲヒテカト、言ハ射ニ於テ、尤モ必君子
 ノ争フコト無キナリ、周官ニ謂ハ所ル、陽禮ニ讓ヲ教ル
 則ハ、民争ハ不ル者ナリ、君子ノ禮ニ於ケルコト、主ト
 スル所重キニ在テ、略スル所輕ニ在リ、若シ升リ降テ
 揖讓シテ、射ニ於テ則チ争ハハ、是レ輕シト爲ルコト、讓
 ル可ニ在、重スルコト争フ可ニ在リ、豈ニ謂ハ所ル禮ノ敬
 ノ道ナラン哉、且タ争コト勝ツ功ニ益無キ者ナリ、勝ツコ
 トヲ求ムルコト己ニ在ルハ、理ノ常ナリ、心ニ質ニ中テ
 ント存スト雖、争ト謂フ可不、故ニ射義ニ曰ク、諸正
 鵠ニ失スルトキハ、還テ身ニ求ム（求ムル）、中テンコト
 ヲ求テ養ヲ辭ス、争イ勝ツコトヲ爲シテ、以テ人ヲ恥シ
 メ不、又曰ク、射ハ仁道ナリ、發シテ中タラ不レハ、己
 ニ勝ツ者ヲ怨ミ不、求テ己ニ反ル而已、因テ此ノ言ヲ
 稱シテ、争フコト無キコトヲ證ス、誠ニ以テ争ノ名ハ小
 人ニ施ス、讓ノ分ハ君子ニ定ルナリ、今説者ノ云ク、
 必ス射ルトキニ於テ、然シテ後ニ争フコト有リト、此レ論
 文ニ反キ、周官ニ背キ、禮記ニ違スルコトヲ爲シテ、而シ
 テ後ニ争フコト有リト言フ、諸ノ經傳ヲ通シ考ルコトヲ
 得ル則ハ、争フコト無キノ證、益明ケシ、

- (一) 「將」、武内本作「得」。
- (二) 「得」上、武内本有「則」字。
- (三) 「曰」、武内本作「云」。
- (四) 「無」、武内本作「有」。
- (五) 「云」、武内本作「之」。
- (六) 「飲」上、武内本有「而」字。
- (七) 「堂」、武内本作「黨」。
- (八) 「之」、武内本無此字。
- (九) 「士」、武内本無此字。
- (一〇) 「疾」、武内本作「病」。
- (一一) 「者」、武内本無此字。
- (一二) 「注曰、言於射而後有争」、武内本無此句。
- (一三) 「小」、武内本作「少」。
- (一四) 「受」上、武内本有「跪」字。
- (一五) 「子」下、武内本有「也」字。
- (一六) 「證」上、武内本有「此」字。
- (一七) 「算」、武内本作「籌」。
- (一八) 「算」、武内本作「籌」。
- (一九) 「自」上、武内本有「敢」字。
- (二〇) 「云」上、武内本有「亦」字。
- (二一) 「存」、武内本作「在」。
- (二二) 「求反」、武内本作「反求」。

(二三) 「證」上、武内本有「以」字。

【經】

子貢問曰、巧笑倩兮、美目盼兮、素以爲絢兮、何謂也、

子貢問テ曰ク、巧ニ笑フコト倩タリ、美目盼タリ、素キ
以テ絢ヲ爲ストハ、何ント「謂フコトソヤ、

【疏】

此是、衛風碩人閔莊姜之詩也、莊姜有容有禮、衛侯不好
德、而不答、故衛人閔之也、巧咲、咲之美者也、倩巧笑貌
也、言人可伶、則笑巧、而貌倩然也、美目、目之美者
也、盼動目貌也、言人可伶、則目美、而貌盼然也、素白
也、絢文貌也、謂用白色、以分間五采、使成文章也、言莊
姜既有盼倩之容、又有禮、自能結束、如五采得白、分間
明、乃文章分明也、子夏讀詩不達此語、故云何謂、以問孔
子也、

此ハ是レ、衛風碩人ノ莊姜ヲ閔ムノ詩ナリ、莊姜ハ容
有リ禮有リ、衛侯徳ヲ好マ不シテ、答セ不、故ニ衛人
ヲ閔ム、巧ニ咲トハ、咲コトノ美ナル者ナリ、倩トハ巧
ニ笑フ貌ナリ、言ハ人ノ伶ム可キハ、笑コト、巧ニシテ、

貌倩、倩然タリ、美目ハ、目ノ美ナル者ナリ、盼トハ目
ヲ動ス貌ナリ、言ハ人ノ伶ム可キハ、目美ニシテ、貌盼
盼然タリ、素ハ白ナリ、絢(絢)ハ文貌ナリ、謂ル白
色ヲ用テ、五采ヲ分間シテ、文章ヲ成サ使ム、言ハ莊
姜既ニ盼倩ノ容有、又夕禮有リ、自能ク結束スルコ
ト、五采ノ白ヲ得テ、間ヲ分チ明ニシテ、乃チ文章分
明ナルカ如シ、子夏詩ヲ讀テ此ノ語ニ達セ不、故ニ何ント
謂フコトヲヤト云テ、以テ孔子ニ問フ、

【注】

馬融曰、倩笑貌、盼動目貌也、絢文貌也、此上二句、在衛
風碩人之二章、巧咲及美目、即見衛風碩人第二章、其下一
句逸也、

馬融カ曰ク、倩ハ笑フ貌、盼ハ目ヲ動ス貌ナリ、絢ハ文
ノ貌ナリ、此ノ上ノ二句ハ、衛風碩人ノ二ノ章ニ在リ、
巧ニ咲フト及ヒ美目ハ、即チ衛風碩人ノ第二ノ章ニ見ヘ
タリ、其ノ下ノ一句ハ逸ヒタリ、

【疏】

素以爲絢之一句也、已散逸則、衛風所無也、

素シロキ以テ絢アヤヲ爲ストイフノ一ノ句ナリ、已ニ散逸スル則ハ、衛風ニ無キ所ナリ、

【經】
子曰、繪事後素、

子ノ曰のたまはク、繪エノ事ハ素シロキヲ後ニス、

【疏】
答子夏也、繪畫也、言此上三句、是明美人先有其質、後須其禮、以自約束、如畫者先雖布衆采、蔭映、然後必用白色、以分間之則、畫文分明、故曰、繪事後素也、

子夏ニ答ナリ、繪ハ畫ナリ、言ハ此ノ上ノ三ノ句ハ、是レ美一人ノ先ツ其ノ質のチ有テ、後其ノ禮マテヲ須テ、自約束スルコトヲ明ス、畫者ノ先ツ衆采ヲ布シイテ、蔭映スト雖モ、然シテ後ニ必ス白シロ色ヲ用テ、以テ之ヲ分間スル則ハ、畫文分明ナルカ如シ、故ニ曰ク、繪ノ事ハ素キヲ後ニス、

【注】
鄭玄曰、繪畫文也、

鄭玄カ曰ク、繪ハ畫文ソ、

【疏】
又刺縫成文、則謂之繡、畫之成文、謂之爲繪也、

又刺サ縫テ文ヲ成スヲハ、之ヲ繡ト謂ヒ、之二畫テ文ヲ成スヲハ、之ヲ謂テ繪ト爲ス、

【注】
凡畫繪、先布衆采、然後以素分其間、以成其文、喻美女雖有倩盼美質、亦須禮以成也、

凡ソ繪ヲ畫クコト、先ツ衆采ヲ布シイテ、然シテ後ニ素キヲ以テ其ノ間ヒマヲ分テ、以テ其ノ文ヲ成ス、美一人ノ倩盼シロノ美質有リト雖、亦禮マテヲ須テ成ルニ喩フ、

【經】
曰禮後乎、

曰イハク禮ヲ後ニストイフカ、

【疏】

子夏聞孔子云繪事後素、而解特喻人雖可憐、必後用禮、故云禮後乎、

子夏孔子ノ繪ノ事ハ素キヲ後ニスト云フヲ聞テ、而シテ特ニ人ハ恰ム可シト雖、必ス後ニ禮ヲ用ルニ喻フルコトヲ解ス、故ニ云ク禮ヲ後ニストイフカト、

【注】

孔安國曰、孔子言、繪事後素、子夏聞而解知以素喻禮、故曰禮後乎、

孔安國カ曰、孔子ノ言ク、繪ノ事ハ素キヲ後ニスト、子夏聞テ素キヲ以テ禮ニ喩ルコトヲ解リ知ル、故ニ曰ク禮ヲ後ニストイフカト、

【經】

子曰、起予者商也、始可與言詩已矣、

子ノ曰ク、予ヲ起ス者ハ商ナリ、始メテ與ニ詩言フ可ラク已、

【疏】

起發也、予我也、孔子但言、繪事後素、而子夏仍以素喻禮、是達詩人之旨、以起發我談、故始可與言詩也、

起ハ發ナリ、予ハ我、孔子但言ク、繪ノ事ハ素キヲ後ニスト、而ルヲ子夏仍テ素キヲ以テ禮ニ喩ルコトヲ、是レ詩人ノ旨ニ達シテ、我カ談ヲ起テ發ス、故ニ始テ與ニ詩言フ可キナリ、

【注】

苞氏曰、予我也、孔子言、子夏能發明我意、可與共言詩已矣、

苞氏カ曰ク、予ハ我ナリ、孔子ノ言ク、子夏能ク我カ意ヲ發明ス、與ニ共ニ詩言フ可ラク已、

【疏】

沈居士曰、孔子始云、未若貧而樂道、富而好禮、未見貧者所以能樂道、富所以能好禮之由、子貢答曰、切磋琢磨、所以得好禮也、則是非但解孔子旨、亦是更廣引理、以答也、故曰、告諸往、而知來者也、孔子云、繪事後素、本政是以素喻禮、子夏答云、禮後乎、但是解夫子語耳、理無所廣、

故云起予、而不云知來也、

沈居士カ曰ク、孔子始メテ云ク、未タ若カ未貧シテ道ヲ樂ミ、富テ禮ヲ好マンモノニハ、未貧キ者能ク道ヲ樂ム所以、富テ能ク禮ヲ好ム所以ノ由ヲ見未ト、子貢答テ曰ク、切磋琢磨ハ、禮ヲ好ムコトヲ得ル所以ナリ、則チ是レ但タ孔子ノ旨ヲ解スルノミニ非ス、亦是レ更ニ廣理ヲ引テ、以テ答フ、故ニ曰ク、往ヲ告ルニ、而モ來ヲ知レル者ナリト、孔子ノ云ク、繪ノ事ハ素ヲ後ニス、本政ニ是レ素ヲ以テ禮ニ喩フ、子夏答テ云ク、禮ヲ後ニストイフカト、但タ是レ夫子ノ語ヲ解スル耳、理廣クスル所無シ、故ニ予ヲ起スト云テ、來ヲ知ルト云ハ不、

(一) 「貢」、武内本作「夏」。

(二) 「笑」、武内本作「咲」。

(三) 「笑」、武内本作「咲」。

(四) 「結」、武内本作「約」。

(五) 「明」、武内本無此字。

(六) 「咲」、武内本作「笑」。

(七) 「巧咲及美目、即見衛風碩人第二章」、武内本爲疏

文。

(八) 「仍」下、武内本有「知」字。

【經】

子曰、夏禮、吾能言之、杞不足徵也、

子曰、曰ク、夏ノ禮ヲ、吾能ク之ヲ言カントスレトモ、杞微スニ足ラ不、

【疏】

此章、明夏殷之後失禮也、夏禮謂禹時禮也、即孔子往杞所得、夏時之書也、杞夏之後所封之國也、徵成也、夏桀者失國、周殷封其後東婁公於杞、當于周末、而其君昏闇、故孔子言、夏家之禮、吾能言之、但杞君昏闇愚、不足與共成其先氏之禮、故云、杞不足徵也、

此ノ章ハ、夏殷ノ後ノ禮ヲ失スルコトヲ明ス、夏ノ禮トハ禹ノ時ノ禮ヲ謂フ、即チ孔子杞ニ往テ得ル所、夏ノ時ノ書ナリ、杞ハ夏ノ後ノ封セラ所ルノ國ナリ、徵ハ成ナリ、夏ノ桀ハ國ヲ失ス、周殷其ノ後ノ東婁公ヲ杞ニ封ス、周ノ末ニ當テ、其ノ君昏闇ナリ、故ニ孔子ノ言ク、夏一家ノ禮ヲ、吾能ク之ヲ言カントスレトモ、但タ杞ノ君昏闇愚ニシテ、與ニ共ニ其ノ先氏ノ禮ヲ成スニ足ラ不、故ニ云ク、杞徵スニ足ラ不、

【經】
殷禮、吾能言之、宋不足徵也、

殷ノ禮ヲ、吾能ク之ヲ言スレトモ、宋徵スニ足不、

ヲ成スニ足ラ不、

【經】
文獻不足故也、

文獻足ラ不ル故ナリ、

【疏】
殷禮、殷湯之禮、即孔子往宋所得、坤乾之書也、宋殷之後、所封之國也、紂失國、周封微子於宋也、孔子曰、殷湯之禮、吾亦能言、但于時宋君昏亂、不足以與共成之也、

【疏】
解所以不足成義也、文文章也、文文章也、文文章也、言杞宋二君無文章賢才、故我不足與成之、

殷ノ禮トハ、殷ノ湯ノ禮ナリ、即チ孔子宋ニ往テ得ル所ノ、坤_一乾ノ書ナリ、宋ハ殷ノ後ノ、封セラ所ルノ國ナリ、紂國ヲ失ス、周微子ヲ宋ニ封ス、孔子ノ曰ク、殷湯ノ禮ヲ、吾亦タ能ク言スレトモ、但夕時于宋ノ君昏亂ニシテ、與ニ共ニ之ヲ成スニ足ラ不、

成スニ足不ル所以ノ義ヲ解ク、文ハ文一章、獻ハ賢ナリ、言ハ杞宋ノ二君文章賢才無シ、故ニ我與ニ之ヲ成スニ足ラ不、

【注】
苞氏曰、徵成也、杞宋二國名也、夏殷之後也、夏殷之禮、能吾說之、杞宋之君、不足以成之也、

【經】
足則、吾能徵之矣、
足ンナハ、吾能ク徵シテン、

苞氏カ曰ク、徵ハ成、杞宋ハ二國ノ名ナリ、夏殷ノ後ノ、夏殷ノ禮ヲ、能ク吾之ヲ説カントスレトモ、杞宋ノ君、之

【疏】
若文章才賢足則、吾豈不與成之乎、故云足則吾能徵之

矣、

若シ文章才一賢足シナハ、吾豈ニ與ニ之ヲ成サ不シヤ、故ニ足シナハ吾能ク之ヲ徴シテント云フ、

【注】

鄭玄曰、獻猶賢也、我能不以其禮成之者、以此二國之君、文章賢才不足故也、

鄭玄カ曰ク、獻ハ賢ノ猶シ、我能ク其ノ禮ヲ以之ヲ成サ不ルコトハ、此ノ二國ノ君ノ、文一文章賢才足ラ不ルヲ以テノ故ナリ、

(一) 「也」、武内本無此字。

(二) 「者」、武内本無此字。

(三) 「周」、武内本無此字。

(四) 「東婁公」、武内本無此三字。

(五) 「于」、武内本無此字。

(六) 「聞」、武内本無此字。

(七) 「氏」、武内本作「代」。

(八) 「曰」、武内本作「云」。

(九) 「能吾」、武内本作「吾能」。

(一〇) 「之」下、武内本有「也」字。

(一一) 「才賢」、武内本作「賢才」。

(一二) 「吾能」、武内本無此二字。

(一三) 「徴」、武内本作「成」。

【經】

子曰、禘自既灌、而往者、吾不欲觀之矣、

子ノ曰ク、禘既ニ灌シテ自リ、往、吾觀マク欲セ不、

【疏】

此章、明魯祭失禮也、禘者大祭名也、周禮四時祭名、春曰祠、夏曰禘、秋曰嘗、冬曰烝、又四時之外、五年之中、別作二大祭、一名禘、一名祫、而先儒論之不同、今不具說、且依注梗概、而談也、謂爲禘者、禘也、謂審禘昭穆也、灌者獻也、酌鬱鬯酒、獻尸、灌地以求神也、禮禘必以毀廟之主、陳在太祖廟、未毀廟之主、亦升於太祖廟、序禘昭穆、而後共合食堂上、未陳列主之前、王與祝入太祖廟室中、以酒獻尸、尸以祭灌於地、以求神、求神竟而出堂、列定昭穆、備成祭禮、時魯家逆祀、尸主鬪次、當於灌時、未列昭穆、猶有可觀、既灌以後、逆列已定、故孔子云、不欲觀也、往猶後也、不言祫、唯云禘者、隨爾時所見也、

此ノ章ニハ、魯ノ祭ノ禮ヲ失スルコトヲ明ス、禘ハ大祭ノ名ナリ、周禮ニ四時ノ祭ノ名アリ、春ヲハ祠ト曰ヒ、夏ヲハ禘ト曰ヒ、秋ヲハ嘗ト曰ヒ、冬ヲハ烝ト曰フ、又四時ノ外、五年ノ中ニ、別ニ二ノ大祭ヲ作ス、一ヲハ禘ト名ケ、一ヲハ嘗ト名ク、而ルヲ先儒之ヲ論スルコト同カラ不、今ハ具ニ説カ不、且タ注ノ梗概ニ依テ、談セン、謂ル禘爲ルコトハ、諦ナリ、謂ル昭穆ヲ審ニシテ、諦ニス、灌ハ獻ナリ、鬱鬯酒ヲ酌テ、尸ニ獻ス、地ニ灌テ神ヲ求ム、禮ニ禘ハ必ス毀廟ノ主ヲ以、陳ネテ太祖ノ廟ニ在ク、未毀廟ノ主モ、亦太祖ノ廟ニ升ゲテ、昭穆ヲ序イテ、諦カニス、而シテ後ニ共ニ堂上ニ合食ス、主ヲ前ニ陳列セ未ルノ、王ト祝與太祖ノ廟ノ室中ニ入テ、酒ヲ以尸ニ獻ス、尸テ以テ祭テ地ニ灌テ、神ヲ求ム、神ヲ求ルコト竟テ堂ニ出テ、昭穆ヲ列ニ定シテ、備ニ祭ノ禮ヲ成ス、時ニ魯ノ家逆ニ祀シテ、尸主次ヲ齎ス、灌クノ時ニ當テ、昭穆ヲ列セ未ルトキハ、猶ヲ觀ツ可キコト有リ、既ニ灌シテ以テ後、逆列已ニ定マル、故ニ孔子ノ云ク、觀マク欲セ不ト、往ハ後ノ猶シ、裕ヲ言ハ不シテ、唯タ禘ヲ云フコトハ、爾ノ時ノ見ル所ニ隨フ、

【注】

孔安國曰、禘禘之禮、爲序昭穆也、

孔安國カ曰ク、禘禘ノ禮ハ、昭穆ヲ序テンカ爲ナリ、

【疏】

列諸主、在太祖廟堂、太祖之主、在西壁東向、太祖之子爲昭、在太祖之東、而南向、太祖之孫爲穆、對太祖之子、而北向、以次東陳、在北者曰昭、在南者曰穆、所謂父昭子穆也、昭者明也、尊父、故曰明也、穆敬也、子宜敬於父也、

諸主ヲ列シテ、太祖ノ廟堂ニ在ク、太祖之主ハ、西壁ニ在テ東向ス、太祖ノ子ヲ昭ト爲、太祖ノ東ニ在テ、南向ス、太祖ノ孫ヲ穆ト爲、太祖ノ子ニ對シテ、北向ス、次テヲ以東ニ陳ス、北ニ在ル者ヲ昭ト曰ヒ、南ニ在ル者ヲ穆ト曰フ、謂ハ所ル父昭子穆ナリ、昭ハ明ナリ、父ヲ尊フ、故ニ明ト曰フ、穆ハ敬ナリ、子ハ宜ク父ヲ敬フ宜シ、

【注】

故毀廟之主、及群廟之主、皆合食於太祖、

故ニ毀廟ノ主、及ヒ群廟ノ主、皆太祖ニ合食ス、

【疏】

孔及先儒義云、禘祫禮同、皆取毀廟主、及未毀廟之主、竝升列昭穆、在太祖廟堂ナリ、

孔及ヒ先儒ノ義ニ云ク、禘祫ノ禮同シ、皆毀ノ廟ノ主、及ヒ未毀ノ廟ノ主ヲ取テ、竝ニ升ケテ昭穆ヲ列ネテ、太祖ノ廟ノ堂ニ在ク、

【注】

灌者、酌鬱鬯、灌於太祖、以降神也、

灌クトハ、鬱鬯ヲ酌テ、太祖ニ灌テ、神ヲ降ス、

【疏】

鬱鬯、一煮鬱金之草、取汁釀黑秬一杯二米者、爲酒、酒成

則、氣芬芳調暢、故呼爲鬯、亦曰秬鬯也、若又擣鬱金、取汁和莎、沛於此、暢則呼爲鬱鬯、但先儒舊論、灌法不同、

一云、於太祖室裏龕前、東向束白茅、置地上、而持鬯酒、灌白茅上、使酒味、滲入淵泉、以求神也、而鄭康成不正的

道灌地、或云灌尸、或云灌神、故郊特牲云、周人尚臭、灌用鬯臭、鬱合鬯臭陰、達於淵泉、灌以珪璋、用玉氣也、既

灌然後迎牲、致陰氣也、鄭注云、灌謂以玉瓚、酌暢始獻神

也、又祭統云、君執圭瓚灌尸、大宗執璋瓚亞灌、鄭注云、天子諸侯之祭禮、先有灌尸之事、乃後迎牲、案鄭二注、或神或尸、故解者、或云灌神、是灌地之禮、灌尸、是灌人之禮、而鄭注尚書大傳則云、灌是獻尸、尸乃得獻、乃祭酒以灌地也、

鬱鬯ハ、一ニハ鬱金ノ草ヲ煮、汁ヲ取テ黑秬ノ一杯ニ米ヲ釀シテ、酒ト爲ス、酒成ル則ハ、氣芬芳トシテ調暢ス、故ニ呼テ鬯ト爲、亦ハ秬鬯ト曰フ、若シクハ又鬱金ヲ擣イテ、汁ヲ取テ和莎シテ、此ヲ沛ム、暢フル則ハ呼テ鬱鬯ト爲、但タ先儒ノ舊論、灌法同カラ不、一ニハ云ク、太祖ノ室裏ノ龕前ニ於テ、東向シテ白茅ヲ束テ、地上ニ置テ、鬯酒ヲ持テ、白茅ノ上ニ灌テ、酒味ヲ使テ、淵泉ニ滲ラシ入ラ使、神ヲ求ム、而ルヲ鄭康成正^レの地ニ灌クト道ハ不、或ハ云ク尸ニ灌ク、或ハ云ク神ニ灌クト、故ニ郊特牲ニ云ク、周人ハ臭ヲ尚フ、灌クコト鬯臭ヲ用フ、鬱鬯ニ合テ陰ニ臭カシメテ、淵泉ニ達ス、灌クニ珪璋ヲ以テスルコトハ、玉氣ヲ用フレハナリ、既ニ灌テ然シテ後ニ牲ヲ迎テ、陰氣ヲ致ス、鄭力注ニ云ク、灌ハ圭瓚ヲ以テ、暢ヲ酌テ始テ神ニ獻スルヲ謂フ、又祭統ニ云ク、君ハ玉瓚ヲ執テ尸ニ灌テ、大宗ハ璋瓚ヲ執テ亞ギニ灌ク、鄭力注ニ云ク、天子ノ諸

侯ノ祭禮ニ、先ツ尸ニ灌クノ事有テ、乃チ後ニ牲ヲ迎フ、鄭カニノ注ヲ案スルニ、或ハ神或ハ尸ナリ、故ニ解一者、或ハ神ニ灌クトハ云ク、是レ地ニ灌クノ禮ナリ、尸ニ灌クトハ、是レ人ニ灌クノ禮ナリ、而ルニ鄭カ尚書ノ大傳ヲ注スルニ則チ云ク、灌クトハ是レ尸ニ獻ス、尸乃チ獻スルコトヲ得テ、乃シ酒ヲ祭テ地ニ灌ク、

【注】

既灌之後、別尊卑、序昭穆、

既ニ灌テ後ニ、尊卑ヲ別テ、昭穆ヲ序ツ、

【疏】

謂灌竟、尸出堂時也、

灌キ^一竟テ、尸堂ニ出ル時ヲ謂フ、

【注】

而魯爲逆祀、躋僖公、亂昭穆、故不欲觀之矣、

而ルヲ魯爲ニ逆^一祀シテ、僖公ヲ躋^アゲテ、昭穆ヲ亂ル、故ニ觀マク欲セ^ナ不、

【疏】

躋升也、僖公閔公俱是莊公之子、僖庶子而年長、閔適^(二)而幼、莊公薨、立^(一)閔公爲君則、僖爲臣事閔、閔薨而僖立爲君、僖後雖爲君、而昔經^(三)是閔臣、至僖薨、列主應在閔下、而魯之宗人夏父弗忌佞僖公之子文公、云、吾聞新鬼大、故鬼小、故升僖於閔上、逆^(四)祀亂昭穆、故孔子不欲觀之也、

躋^キハ升ナリ、僖公閔公ハ俱ニ是レ莊公ノ子ナリ、僖ハ庶子ニシテ年^一長ス、閔ハ適ニシテ幼ナリ、莊公薨トキニ、閔公ヲ立テ君ト爲ル則ハ、僖ハ臣ト爲テ閔ニ事フ、閔薨トキニ僖立テ君爲リ、僖後ニ君爲リト雖、昔^一是レ閔ノ臣タルコトヲ經、僖薨トキニ至テ、主ヲ列コト閔カ下ニ在ル應シ、而ルヲ魯ノ宗人夏父弗忌僖公ノ子文公ニ佞^一シテ、云ク、吾聞^レク新鬼ハ大ニシテ、故^一鬼ハ小ナリト、故ニ僖ヲ閔ノ上ニ升テ、逆^一祀シテ昭穆ヲ亂ル、故ニ孔子之ヲ觀マク欲^一不、

【經】

或問禘之說、

或ヒト禘ノ說ヲ問フ、

【疏】

或人問孔子不欲觀禘、故問孔子、求知禘義之舊說也、

或ル人孔子ノ禘ヲ觀マク欲セ不トイフヲ聞ク、故ニ孔子

ニ問テ、禘ノ義ノ舊ノ說ヲ知ント求ム、

【經】

子曰、不知也、

子ノ曰ク、知ラヌ、

【疏】

孔子答或人曰、不知禘禮舊說也、所以然者、若依舊說、

而答之則、魯乖禮之事顯、若依舊而說之則、又乖正教、既

欲爲魯諱、故云不知也、

孔子或ル人ニ答テ曰ク、禘禮ノ舊ノ說ヲ知ラ不、然カ

ル所以ハ、若シ舊ノ說ニ依テ、之ニ答ル則ハ、魯ノ禮ニ乖

クノ事顯ル、若シ魯ニ依テ之ヲ說ハ、又正ノ教ニ乖ク、既

ニ魯ノ爲ニ諱ント欲ス、故ニ知ラ不ト云フ、

【注】

孔安國曰、答以不知者、爲魯君諱、

孔安國カ曰ク、答ルニ知ラ不トイフヲ以テスルコトハ、魯ノ君ノ爲ニ諱テナリ、

【疏】

臣爲國諱惡、則是禮也、

臣トシテ國ノ爲ニ惡ヲ諱ムハ、則チ是レ禮ナリ、

【經】

知其說者之於天下也、其如示諸斯乎、

其ノ說ヲ知レルコトノ天下ニ於ケルコト、其レ斯ヲ示ス

カ如キ乎トイヒテ、

【疏】

孔子爲國諱、而答以不知、遂不更說則、千載之後、長言禘

禮爲聖所不知、此事永絶、故更向或人、陳其方便也、言若

欲知禘說、其自不難、於天下之人、莫不知矣、人人皆知、

如、示以掌中之物、無不知了者也、故云之於天下也、其如

示諸斯也、斯此也、此此孔子掌中也、

孔子國ノ爲ニ諱テ、答ルニ知ラ不ルヲ以テス、遂ニ更ニ

説カ不^レル則ハ、千^一載ノ後、長ク禘ノ^レ禮ハ聖ノ知レラ不^レル所爲^タリト言ハ^ン、此ノ事永ク^レ絶^ン、故ニ更ニ或ル^レ人ニ向テ、其ノ方^レ便ヲ陳フ、言ハ若シ禘ノ説ヲ知^ント欲ハ、其^レ自^ラ難カラ^ス不^ス、天^一下ノ人ニ於テ、知ラ不^トイフコト莫ケン、人^一人皆^テ知^ンコト、示スニ掌ノ^レ中ノ物ヲ以テスルカ如ケン、知^リ了^ラ不^ル者無ケン、故ニ云ク天^一下ニ於ケルコト、其^レ斯ヲ示カ如カト、斯ハ此ナリ、此レトハ孔子ノ掌ノ中ニ此ソ、

【經】
指其掌、

其ノ掌ヲ指ス、

【疏】

此記者所言、以釋孔子語也、孔子既云易知、而申掌、又以一手、自指所申之掌、以示或人云、其如示諸此也、是孔子自指掌也、

此レハ記者ノ言フ所^レ、孔子ノ語ヲ釋ス、孔子既ニ知リ易ト云テ、掌ヲ申ヘテ、又一^レ手ヲ以、自^レ申ル所ノ掌ヲ指シテ、或ル^レ人ニ示シテ云ク、其レ此ヲ示スカ如キカ

ト、是レ孔子自^ラ掌ヲ指スナリ、

【注】

苞氏曰、孔子謂或人言、知禘禮之說者、於天下之事、如指示掌中之物、言其易了也、

苞氏カ曰ク、孔子或ル^レ人ニ謂テ言ク、禘^レ禮ノ説ヲ知レルコトノ、天^一下ノ事ニ於ケルコト、指シ^レ示スニ掌ノ^レ中ノ物ヲ以テスルカ如シ、言ハ其^レ了^リ易シ、

- (一) 「且」、武内本作「且」。
- (二) 「禮禘」二字、武内本作「禘禮」。
- (三) 「大」、武内本作「太」。
- (四) 「主」上、武内本有「之」字。
- (五) 「一」、武内本作「者」。
- (六) 「杯」、武内本作「杯」。
- (七) 「的」、武内本作「酌」。
- (八) 「玉」、武内本作「圭」。
- (九) 「大」、武内本作「太」。
- (一〇) 「乃」、武内本作「及」。
- (一一) 「適」、武内本作「嫡」。
- (一二) 「立」上、武内本有「而」字。

(二三) 「經是」二字、武内本作「是經」。

(二四) 「逆」上、武内本有「而」字。

(二五) 「求」上、武内本有「以」字。

(二六) 「之」、武内本作「禮」。

(二七) 「曰」、武内本作「云」。

(二八) 「欲」、武内本無此字。

(二九) 「諱」下、武内本有「也」字。

(三〇) 「掌」上、武内本有「其」字。

【經】

祭如在、

祭ルコト在スカ如クス、

【疏】

此以下二句、乃非孔子之言、亦因前而發也、爲魯祭臣處其君上、是不如在、故明宜如在也、此先說祭人鬼也、人子奉親、事死如事生、是如在也、

此ヨリ以下ノ二句ハ、孔子ノ言ニ非、前ニ因テ發ス、魯ノ祭ニ臣ノ其ノ君ノ上ニ處ルコトヲ爲ス、是レ在スカ如クナラズナリ、故ニ宜ク在スカ如クナル宜キコトヲ明

ス、此ハ先ツ人鬼ヲ祭ルコトヲ說ク、人ノ子ノ親ニ奉ルコト、死ニ事ルコト生ニ事ルカ如クス、是レ在スカ如スルナリ、

【注】

孔安國曰、言事死如事生也、

孔安國カ曰ク、言ハ死ニ事ルコト生ニ事ルカ如クス、

【疏】

所以、祭之日思親居處、啖語、及所好樂嗜慾、事之如生存時也、

所以ニ、祭ノ日ニ親ノ居處、啖語、及ヒ好樂嗜慾スル所ヲ思テ、之ニ事コト生ニ存ノ時ノ如クス、

【經】

祭神如神在、

神ヲ祭ルコト神在カ如クス、

【疏】

此謂祭天地山川百神也、神不可側^三、而必心期對之如在此也、

此ハ天^一地山川百^一神ヲ祭ルヲ謂フ、神ハ側ル可ラ不^す、而ルニ必ス心ニ之ニ對スルコト此^二在スカ如コトヲ期ス、

【注】

孔安國曰、謂祭百神也、

孔安國カ曰ク、百^一神ヲ祭ルヲ謂フ、

【疏】

孔所以知前是祭人神鬼、後是祭百神者、凡且稱其在^四、以對不在也、前既直云如在、故則知是人鬼、以今之不在、對於昔之在也、後既云祭神如神在、再稱於神、則知神無存沒、期之則在也、

孔前ハ是レ人ノ神^一鬼ヲ祭り、後ハ是レ百^一神ヲ祭ルコトヲ知ル所^一以ハ、凡ソ其ノ在スコトヲ稱シテ、在サ不^ルニ對ス、前^二既直ニ在カ如シト云フ、故ニ則チ知ル是レ人^一鬼ナルコトヲ、今^二在サ不^ルヲ以テ、昔^二在スニ對ス、後

ニ既ニ云ク神ヲ祭ルコト神ノ^一在スカ如クスト、再ヒ神ヲ稱スルコトハ、則チ知ヌ神ハ存^レ沒無コトヲ、之ヲ期スル則ハ在ス、

【經】

子曰、吾不與祭、如不祭、

子^{のたまは}ノ曰ク、吾^わ祭リニ與カラ不^さレハ、祭ラ不^さルカ如シ、

【疏】

既竝須如在、故說者引孔子語、證成己義也、孔子言、我或疾、或行、不得自祭、使人攝之、雖使人代攝、而於我心、不盡、是與不祭同也、

既ニ竝ニ須^{すへから}ク在スカ如クス須シ、故ニ說^一者孔子ノ語ヲ引テ、己カ義ヲ證シ^{アカ}成ス、孔子ノ言^{のたまは}ク、我^わ或ハ疾^{やま}シ、或ハ行テ、自^{みづから}祭コトヲ得^ず不^さ、人ヲ使テ之ヲ攝セ使ム、人ヲ使テ代リ^シ攝セ使ムト雖、我カ^{いへ}心ニ於テ、盡サ不^シ、是レ祭ラ不^さル與同シ、

【注】

苞氏曰、孔子或出或病、而不自親祭、使攝者爲之、故不致

敬於心、與不祭同也、

苞氏カ曰ク、孔子或ハ「出テ或ハ」病シテ、自「親」祭ヲ不、攝「者」ヲ使テ之ヲ爲サ使ム、故ニ敬ヲ心ニ致サ不レハ、祭ラ不ル與同シ、

(一) 「也」、武内本無此字。

(二) 「之」字、武内本作「事」。

(三) 「側」、武内本作「測」。

(四) 「且」、武内本作「且」。

(五) 「於」、武内本無此字。

【經】

王孫賈

王孫賈

【疏】

王孫賈者、周靈王之孫、名賈也、是時仕衛爲大夫也、

王孫賈ハ、周ノ靈王ノ孫ナリ、名ハ賈、是ノ時衛ニ仕テ大夫爲リ、

【經】

問曰、與其媚於奧、寧媚於窻何謂也、

問テ曰ク、其レ奧ニ媚ン與リハ、寧口窻ニ媚ヨトハ何ント謂フコトソヤ、

【疏】

此前世俗舊語也、媚趣向也、奧内也、謂室中西南角、室向東南、開戸、西南安牖、牖内隱奧、無事、恆令尊者、所居之處也、窻謂人家爲飲食之處也、賈仕在衛執政、爲一國之要、能爲人之益、欲自比如窻、雖卑外、而實要爲衆人所急也、又侍君之近臣、以喻奧也、近君之臣、雖近君爲尊、而交無事如室之奧、雖尊而無事也、竝於人無益也、時孔子至衛、賈誦此舊語、以感切孔子、欲令孔子求媚於己、如人之媚窻也、故云、與其媚於奧、寧當媚窻、問於孔子何謂、使孔子悟之也、

此ハ前二世ノ俗ノ舊ノ語ナリ、媚トハ趣ト向ナリ、奧ハ内ナリ、室ト中ノ西ト南ノ角ヲ謂フ、室ハ東ト南ニ向テ、戸ヲ開テ、西ト南ニ牖ヲ安ク、牖ノ内ハ隱ト奧ニシテ、無ト事ナリ、恆ニ尊者ヲ令テ、居ル所ヲ令ルノ處ナリ、窻トハ人家ノ飲食ヲ爲ス處ヲ謂フ、賈仕ヘテ衛ニ在リ政ヲ執テ、

一國ノ要爲リ、能ク人ノ益爲リ、自比シテ竈ノ如クナリト欲フ、卑外ナリト雖モ、實一衆人ノ急トスル所爲リ、又君ニ侍スル近臣ヲハ、奥ニ諭フ、君ニ近クノ臣ハ、君ニ近テ尊爲リト雖モ、交リ無事ナルコト室ノ奥ノ如シ、尊ト雖モ事無シ、竝二人ニ於テ益無シ、時ニ孔子衛ニ至ル、賈此ノ舊語ヲ誦シテ、孔子ヲ感切シテ、孔子ヲ令テ媚ヲ己ニ求ムルコト、人ノ竈ニ媚フルカ如クナラ令メマク欲ス、故ニ云ク、其レ奥ニ媚シ與リハ、寧口當ニ竈ニ媚フ當シトハ、孔子ニ何ント謂フコトソヤト問テ、孔子ヲ使テ之ヲ悟ラ使ム、

【注】

孔安國曰、王孫賈衛大夫也、奥内也、以諭近臣也、

孔安國カ曰ク、王孫賈ハ衛ノ大夫、奥ハ内、近臣ニ諭フ、

【注】

竈以諭執政也、賈者執政者也、欲使孔子求昵之、故微以世俗之言、感動之也、

竈ヲハ執政ニ諭フ、賈ハ政ヲ執レル者ナリ、孔子ヲ使テ求メ昵カ使メマク欲ス、故ニ微ク世俗ノ言ヲ以テ、之

ヲ感動ス、

【疏】

昵猶親近也、欲令孔子求親近於己、故說世俗之言、微以感動之也、

昵ハ親近ノ猶シ、孔子ヲ令テ親近ヲ己ニ求メ令メマク欲ス、故ニ世俗ノ言ヲ說テ、微ク以テ之ヲ感動ス、

【經】

子曰、不然、獲罪於天、無所禱、

子曰、不然、然ハアラス、罪ヲ天ニ獲ツルトキハ、禱ルニ所無シ、

【疏】

孔子讖賈之詐、故以此言、距之也、言我不被時用、是由君命、何能細爲曲情、以求於汝輩、譬如世人得罪於天、亦無所細祈禱祭邪之神也、

孔子賈カ詐リヲ識テ、故ニ此ノ言ヲ以テ、之ヲ距ク、言ハ我時ニ用ヒ被レレルコトハ、是レ君ノ命ニ由ル、何ソ

能ク細ク曲ク情ヲ爲テ、汝カ輩ニ求メンヤ、譬ハ世人ノ罪ヲ天ニ得ルトキハ、亦細ク衆ノ神ニ祈リ禱ル所無キカ如シ、(譬ハ世人ノ罪ヲ天ニ得ルカ如シ、細ク衆ノ神ニ祈リ禱ル所無ケン)

【注】

孔安國曰、天以諭君也、孔子距之曰、如獲罪於天、無所禱於衆神也、

孔安國カ曰ク、天ヲハ君ニ諭フ、孔子之ヲ距イテ曰ク、如シ罪天ニ獲ツルトキハ、衆ノ神ニ禱ルニ所無シ、

【疏】

若不依注則、復一釋、樂肇曰、奧尊而無事、竈卓而如有求、時周室衰弱、權在諸侯、賈自周出、仕衛、故託世俗言、以自解於孔子、孔子曰、獲罪於天、無所禱者、明天神無上、王尊無二、言當事尊、卑不足媚也、

若シ注ニ依ラ不ル則ハ、復タ一釋アリ、樂肇カ曰ク、奧ハ尊ニシテ事無シ、竈ハ卑ニシテ求ルコト有ルカ如シ、時ニ周室衰一弱ニシテ、權諸侯ニ在リ、賈周自リ出テテ、衛ニ仕フ、故ニ世俗ノ言ニ託シテ、自孔子ニ解ク、孔子

ノ曰ク、罪ヲ天ニ獲ツルトキハ、禱ルニ所無ントハ、明ケシ天ノ神上無シ、王尊ニ無シ、言ハ尊ニ事ルニ當テ、卑ハ媚ニ足ラ不、

(一) 「前」、武内本無此字。

(二) 「令」、武内本無此字。

(三) 「禱」下、武内本有「也」字。

(四) 「如」、武内本無此字。

【經】

子曰周監於二代、郁郁乎、文哉、

子ノ曰ク周ヲ二代ニ監ムレハ、郁郁乎トシテ、文ナル哉、

【疏】

周周代也、監視也、二代夏殷也、郁郁、文章明著也、言以周世、比視於夏殷則、周家文章、最著明大備也、

周ハ周ノ代ナリ、監ハ視ナリ、二代ハ夏殷ナリ、郁郁ハ、文章ノ明著ナルナリ、言ハ周ノ世ヲ以テ、夏殷ニ比視スレハ、周家ノ文章ハ、最著明ニシテ大ニ備ハレリ、

【經】
吾從周

吾わハ周ニ從ハン

【疏】

周既極備、爲教所須、故孔子欲從周也、

周ハ既ニ極ソナハリメ「備」テ、教ノ須モチムル所ト爲ス、故ニ孔子周ニ從
ハマク欲ホツス、

【注】

孔安國曰、監視也、言周文章、備於二代、當從周也、

孔安國カ曰ク、監ハ視、言ハ周ノ文一章、二ソナハリ代ヨリ備レ
リ、當ニ周ニ從フ當シ、

【經】

子入大廟、

子大ト廟ニ入テ、

【疏】
周公廟也、孔子仕魯助祭、故得入周公廟也、

周公ノ廟ナリ、孔子魯ニ仕テ祭ヲ助ク、故ニ周公ノ廟ニ入
ヲ得、

【注】

苞氏曰、大廟周公廟也、孔子仕魯、魯祭周公而助祭焉也、

苞氏カ曰ク、大ト廟ハ周公ノ廟ソ、孔子魯ニ仕フ、魯周公
ヲ祭ルトキニ祭ヲ助ケシム、

【疏】

孔子仕魯、

孔子魯ニ仕フトイフ、

【經】

每事問、

事每ト二問、

【疏】

大廟中事、及物孔子每事、輒問於廟中令長也、

大廟ノ中ノ事、及ヒ物孔子事毎ニ、輒チ廟中ノ令長ニ問フ、

【經】

或曰、孰謂鄒人之子知禮乎、入大廟每事問、

或ルヒトノ曰ク、孰カ鄒人ノ子ヲ禮ヲ知レリト謂フ乎、大廟ニ入テ事毎ニ問、

【疏】

孰誰也、鄒孔子父叔梁紇所治邑也、故謂孔子爲鄒人子也、世人皆傳孔子知禮、或人疑云、知禮者、自當遍識一切、不應有問、今孔子入廟、每事輒問則、是不知禮也、故曰、誰謂鄒人子、知禮乎、

孰ハ誰ナリ、鄒ハ孔子ノ父叔梁紇カ治ムル所ノ邑ナリ、故ニ孔子ヲ謂テ鄒人ノ子ト爲、世人皆孔子禮ヲ知レリト傳フ、或ル人疑テ云ク、禮ヲ知ル者ハ、自當ニ遍ク一切ヲ識ル當、問コト有ル應不、今孔子廟ニ入テ、事毎ニ輒

チ問フ則ハ、是レ禮ヲ知レラ不ルナリ、故ニ曰ク、誰カ鄒人ノ子ヲ、禮ヲ知レリト謂フ乎、

【注】

孔安國曰、鄒孔子父叔梁紇所治邑也、

孔安國カ曰ク、鄒ハ孔子ノ父叔梁紇カ治ムル所ノ邑ナリ（邑ソ）、

【注】

時人多言、孔子知禮、或人以爲、知禮者、不當復問也、

時ノ人多ク、孔子ヲ禮ヲ知レリト言フ、或ル人以爲ラク、禮ヲ知ル者ハ、復タ當ニ問フ當不ト（或ル人、禮ヲ知ル者ハ、復タ當ニ問フ當不ト以爲ヘリ）、

【經】

子聞之曰、是禮也、

子聞テ曰ク、是レ禮ナリ、

【疏】

孔子聞或人譏己多問、故釋之也、所以云是禮者、宗廟事重、不可輕脫、愈知愈問、是敬慎之禮也、

孔子或ル人ノ己カ多ク問トコヲ譏ルト聞テ、故ニ之ヲ釋ス、是レ禮ナリト云フ所以ハ、宗廟ノ事ハ重シテ、輕脱ス可^{へからず}不^{いよいよ}、愈^{いよいよ}知テ愈^{いよいよ}問フ、是レ敬慎ノ禮ナリ、

【注】

孔安國曰、雖知禮之、當復問、慎之至也、

孔安國カ曰ク、禮ヲ知レリト雖、當ニ復問フ當キハ、慎ノ至レルナリ、

(一) 武内本無此疏文。

【經】

子曰、射不主皮、

子ノ曰ク、射ルコト皮ヲシモ主トセ不^す、

【疏】

射者、男子所有事也、射乃多種、今云、不主皮者、則是將祭、擇士之大射也、張布爲棚、而用獸皮、帖其中央、必射之取中央、故謂主皮也、然射之爲禮、乃須中質、而又須形容兼美、必使威儀中禮、節奏比樂、然後以中皮、爲美、而當周衰之時、禮崩樂壞、其有射者、無復威儀、唯競取主皮之中、故孔子抑而解之云、射不必在主皮也、

射ハ、男ノ子ノ事有ル所ナリ、射ハ乃シ種多シ、今云ク、皮ヲシモ主トセ不トハ、則チ是レ將ニ祭ント將テ、士ヲ擇フノ大射ナリ、布ヲ張テ棚ト爲テ、獸ノ皮ヲ用ツテ、其中ノ中央ニ帖ク、必ス之ヲ射ルヲ中央ニ取ル、故ニ主皮ト謂フ、然シテ之ヲ射ルニ禮爲ルコト、乃シ須ク質ニ中ツ須シ、而シテ又須ク形容モ兼ネ美ナル須、必ス威儀ヲ使テ禮ニ中テ、節奏樂ニ比セ使メテ、然シテ後ニ皮ニ中ツルヲ以テ、美ナリト爲、而ルヲ周衰ノ時ニ當テ、禮壞レ樂壞レテ、其ノ射有ル者、復威儀無シ、唯々競ツテ主皮ノ中央ニ取ル、故ニ孔子抑テ之ヲ解テ云ク、射コト必ス皮ヲシモ主トスルニ在ラ不、

【注】

馬融曰、射有五善、

馬融方曰ク、射ルトキニ（射ニ）五善有リ、

【疏】

引周禮卿大夫射五物之法、以證之也、

周禮ノ卿大夫ノ射ノ五物ノ法ヲ引テ、之ヲ證ス、

【注】

一曰和、志體和也、

一二曰ク和、志テイ體和ラクソ、

【疏】

和志、謂將射、必先正志、志和則、身體和韻、故云體和也、

和志トハ、謂ル將ニ射ト將テ、必ス先ツ志ヲ正ス、
志こころ

和スル則ハ、身しん體和韻ス、故ニ體たい和クト云フ、

【注】

二曰和容、有容儀也、

二二曰ク和容、容儀有ルソ、

【疏】

二則使行步舉動、和柔、所以有容儀也、

二ニハ則チ行歩舉動ヲ使テ、和柔ナラ使ム、容儀有ル

所以ナリ、

【注】

三曰主皮、能中質也、

三二曰ク主皮、能ク質ニ中ツルソ、

【疏】

先和志、有容儀、後乃取中於質、質即棚也、

先ツ志ヲ和シ、容儀有テ、後ニ乃シ質ニ中ツルニ取ル、

質ハ即チ棚ナリ、

【注】
四曰和頌、合雅頌、

四二曰夕和頌、雅頌ニ合フソ、

【疏】

射時有歌樂、言雖能中質、而放捨節奏、必合與雅頌之聲、
和合也、天子以騶虞爲節、諸侯以狸首、大夫以菜蘋、士以
菜蘩爲節、故孔子曰、何以射、何以聽、言射節以與樂聲、
合如一也、

射ノ時ニ歌ノ樂有リ、言ハ能ク質ニ中ツト雖モ、放捨節ノ
奏、必ス雅頌ノ聲與、和合ス合シ、天子ハ騶虞ヲ以テ
節ヲ爲ス、諸侯ハ狸首ヲ以テシ、大夫ハ菜蘋ヲ以テ
士ハ菜蘩ヲ以テ節ヲ爲ス、故ニ孔子ノ曰ク、何ヲ以テ
カ射セン、何ヲ以テカ聽カン、言ハ射ノ節樂ノ聲與、合フ
一ノ如シ、

【注】

五曰興武、與舞同也、

五二曰夕興武、舞與同シ、

【注】

匪唯聲合雅頌而已、乃至使射容、與樂舞趣興、相會進退同
也、然馬注、與鄉射五物、小異、亦可會也、不須委曲細通
也、

唯夕聲ノ雅頌ニ合フ而已ニ匪ス、乃シ射ノ容ヲ使テ、
樂舞ノ趣興與、相ヒ會ツテ進退同ヲ使ムルニ至ル、然
ルニ馬カ注、鄉射ノ五物與、小シ異ナリ、亦夕會ス可
シ、須ク委曲ニ細通ス須不、

【注】

天子有三侯、

天子ニ三侯有リ、

【疏】

侯即射棚也、謂棚爲侯者、天子中之、以威服諸侯。諸侯中
之則、得爲諸侯、故禮云、謂射之爲諸侯也、尚書云、侯以
明之是也、

侯ハ即チ射ノ棚ナリ、謂ル棚ヲ候ト爲ルコトハ、天子ハ
之ニ中テテ、諸侯ヲ威服シ。諸侯ハ之ニ中ツルトキハ、

諸侯爲ルコトヲ得、故ニ禮ニ云ク、之ヲ射テ諸侯ト爲ル
ト謂ヘリ、尚書ニ云ク、侯以テ之ヲ明ニストイフ是ナ
リ、

【注】

以熊虎豹皮、爲之、

熊虎豹ノ皮ヲ以テ、之ヲ爲レリ、

【疏】

三獸之皮、各爲一侯、故有三侯也、所以用此三獸者、三獸
雄猛、今取射之、示能伏服猛也、天子大射、張此三侯、天
子射猛虎、諸侯射熊、卿大夫射豹也、此注言熊者、隨語
便、無別義也、

三獸ノ皮ヲ、各一侯ト爲、故二三侯有リ、此ノ三獸
ヲ用ル所以ハ、三獸ハ雄猛ナリ、今取テ之ヲ射テ、能
ク猛ヲ伏服スルコトヲ示ス、天子ノ大射ニ、此ノ三侯
ヲ張ル、天子ハ猛虎ヲ射、諸侯ハ熊ヲ射、卿大夫ハ豹ヲ
射ル、此ノ注ニ熊ヲ言コトハ、語ノ便ニ隨フ、別義無シ、

【注】

言射者、不但以中皮爲善、亦兼取之和容也、

言ハ射ハ、但夕皮ニ中ツルヲ以テシモ善ト爲不、亦夕兼テ
和容ヲ取ル、

【經】

爲力不同科、

力ヲ爲ルコト科同カラ不ルハ、

【疏】

爲力謂力役之事也、科品也、古者役使人、隨其強弱、爲科
品、使之。有上中下三等、周末則一概使之、無復強弱三
科、與古爲異、此明古不同科也、

力ヲ爲ルトハ力役ノ事ヲ謂フ、科ハ品ナリ、古ニハ人ヲ
役使スルコト、其ノ強弱ニ隨テ、科品ヲ爲テ、之ヲ使
フ、上中下ノ三等有リ、周末ニハ一概ニ之ヲ使フ。
復タ強弱ノ三科無シ、古與異ナリト爲、此ハ古科ヲ同
セ不ルコトヲ明ス、

【經】

古之道也、

古ノ道ナリ、

【疏】

射不主皮、及爲力不同科、二事、皆是古有道之時法也、故云古之道也、

射ルコト皮ヲシモ主トセ不、及ヒ力ヲ爲ルコト科同カラ不、二ノ事ハ、皆是レ古ノ有道ノ時ノ法ナリ、故ニ云ク古ノ道ナリト、

【注】

馬融曰、爲力、爲力役之事也、亦有上中下、設三科焉、故曰不同科也、

馬融カ曰ク、力ヲ爲ルトハ、力ノ役ノ事ヲ爲ルソ、亦上中下有テ、三ノ科ヲ設ケタリ、故ニ曰ク科同カラ不ト、

(一) 「合」、武内本作「令」。

(二) 「曰」、武内本作「云」。

(三) 「也」、武内本無此字。

(四) 「此」上、武内本有「然」字。

(五) 「言」上、武内本有「先」字。

(六) 「古」上、武内本有「與」字。

(七) 「之」、武内本無此字。

【經】

子貢欲去告朔之餼羊、

子貢告朔ノ餼羊ヲ去テマク欲、

【疏】

告朔者、人君毎月旦、於廟、告此月朔之至也、禮天子毎月之旦、居於明堂、告其時帝、布政讀月令之書畢、又還大廟、告於太祖、諸侯無明堂、但告於大廟、竝用牲、天子用牛、諸侯用羊、于時魯家昏亂、自魯文公、而不復告朔、以至子貢之時也、時君雖不告朔、而其國之舊官、猶進告朔之羊、子貢見告朔之禮、久廢而空有其羊、故使除去其羊也、云餼者、腥羊也、腥牲曰餼、

告朔トハ、人君月旦毎ニ、廟ニ於、此ノ月朔ノ至ルコトヲ告ク、禮二天子八月ノ旦毎ニ、明堂ニ居テ、其ノ

時ノ帝ニ告ケ、政ヲ布イテ月令ノ書ヲ讀ミ畢テ、又大廟ニ還テ、太祖ニ告ク、諸侯ハ明堂無シ、但夕大廟ニ告ク、竝ニ牲ヲ用フ、天子ハ牛ヲ用ヒ、諸侯ハ羊ヲ用フ、時于魯^ニ家昏^一亂シテ、魯ノ文公自^{ヨリ}シテ、復夕朔ヲ告ケ不^ス、子貢カ時ニ至テ、時ノ君朔ヲ告ケ不^ト雖、其ノ國之舊^{イヘトモ}官、猶ヲ告朔ノ羊ヲ進ム、子貢告朔ノ禮ノ、久ク廢シテ空ク其ノ羊有コトヲ見ル、故ニ其ノ羊ヲ除ケ去^ステ使ム、餼ト云フコトハ、腥^{ナマクサ}キ（腥^キ）羊ナリ、腥牲ヲ餼ト曰フ、

【注】

鄭玄曰、牲生曰餼、

鄭玄カ曰ク、牲ノ生ヲ餼ト曰フ、

【疏】

鄭注詩云、牛羊豕爲牲、繫養者曰牢、熟曰雍、腥曰餼、生曰牽、而鄭今云、牲生曰餼者、當腥與生是通名也、然必是腥也、何以知然者、猶生養則、子貢何所以養愛乎、政是殺而腥送、故賜愛之也、

鄭カ注ノ詩ニ云ク、牛羊豕^シヲ牲ト爲、繫^ツキ養^フ者ヲ牢^{ラウ}

ト曰フ、熟スルヲ雍ト曰フ、腥ヲ餼ト曰フ、生ケルヲ牽ト曰フ、而ルヲ鄭カ今云ク、牲ノ生ヲ餼ト曰フコトハ、當ニ腥ト生與ハ是レ名ヲ通ス當シ、然ラハ必ス是レ腥ナリ、何ヲ以^モカ然ルト知ルトナレハ、猶ヲ生養ナラハ、子貢何ノ所以ニカ養愛セシ乎、政ニ是レ殺シテ而シテ腥ヲ送ナリ、故ニ賜之ヲ愛ス、

【注】

禮人君、毎月告朔於廟、有祭謂之朔享也、

禮二人^一君、月毎ニ朔ヲ廟ニ告ス、祭ルコト有ル朔享ト謂フ、

【疏】

告朔之祭周禮謂爲朔享也、鄭注論語云、諸侯用羊、天子用牛、侃案魯用天子禮、告朔應用牛、而今用羊者、天子告朔時帝、事大、故用牛、魯不告帝、故依諸侯用羊也

告朔ノ祭ヲ周禮ニハ謂テ朔享ト爲、鄭カ注ノ論語ニ云ク、諸侯ハ羊ヲ用フ、天子ハ牛ヲ用フ、侃案スルニ魯ハ天子ノ禮ヲ用フ、朔ヲ告クルニ牛ヲ用フ應シ、而ルヲ今羊ヲ用ルコトハ、天子ハ朔ヲ時ノ帝ニ告ク、事大ナリ、故ニ牛

ヲ用フ、魯ハ帝ニ告ケ不、故ニ諸侯ニ依テ羊ヲ用フ

【注】

魯自文公始不視朔者、子貢見其禮廢、故欲去其羊也、

魯ハ文公自リ始テ朔ヲ視不、子貢其ノ禮ノ廢タルヲ見ル、故ニ其ノ羊ヲ去テマク欲ス、

【疏】

文公是僖公之子也、起文公爲始、而不視告於朔也、始文經宣成襄昭定至哀公時、子貢定末及哀時也、然謂月旦爲朔者、朔者蘇也、生也、言前月已死、此月復生也、

文公ハ是レ僖公ノ子ナリ、文公ヨリ起テ始ト爲テ、朔ヲ視告ケ不、文ヨリ始テ宣成襄昭定ヲ經テ哀公ノ時ニ至ル。子貢定ノ末及ヒ哀ノ時ニ當レリ、然シテ月旦ヲ謂テ朔爲ルコトハ、朔ハ蘇ナリ、生ナリ、言ハ前月已ニ死シテ、此ノ月復タ生ス、

【經】

子曰、賜也、汝愛其羊、我愛其禮、

子ノ曰ク、賜、汝ハ其ノ羊ヲ愛ス、我ハ愛其ノ禮ヲ愛ス、

【疏】

孔子不許子貢去羊也、言子貢欲去羊之意、政言既不告朔、徒進羊爲費、故云愛羊也、而我不欲去羊者、君雖不告朔、而後人見有告朔之羊、猶識舊有告朔之禮、今既已不告、若又去羊則、後人無復知有告朔之禮者、是告朔禮都亡已、我今猶欲使人見羊、知其有禮、故云、我愛其禮也、

孔子子貢カ羊ヲ去トイフコトヲ許サ不、言ハ子貢羊ヲ去マク欲ルノ意ハ、政ニ言ハ既ニ朔ヲ告ケ不、徒タニ羊ヲ進ルヲ費ト爲、故ニ羊ヲ愛スト云フ、而ルヲ我羊ヲ去マク欲不ルコトハ、君朔ヲ告ケ不ト雖モ、而トモ後人告朔ノ羊有ルコトヲ見テ、猶ヲ識ラン舊告朔ノ禮有ルコトヲ、今ニ既已ニ告ケ不、若シ又羊ヲ去テハ、後ノ人復タ告朔ノ禮有ルコトヲ知ル者無ケン、是レ告朔ノ禮都亡セン已、我今猶ヲ人ヲ使テ羊ヲ見テ、其ノ禮有ルコトヲ知ラシメマク欲ス、故ニ云ク、我ハ其ノ禮ヲ愛スト、

【注】

苞氏曰、羊在猶所以識其禮也、羊亡禮遂廢也、

苞氏カ曰ク、羊^レ在ルハ猶^レヲ其ノ禮ヲ識ル所^レ以ナリ、羊^レ亡クンハ禮^レ遂ニ廢タレナン、

(一) 「所」、武内本無此字。

(二) 「朔」、武内本作「朝」。

(三) 「朔」、武内本作「朝」。

(四) 「牛」下、武内本有「矣」字。

(五) 「定」上、武内本有「當於」二字。

(六) 「末」、武内本作「未」。

【經】

子曰、事君盡禮、人以爲諂也、

子ノ曰ク、君ニ事ルニ禮ヲ盡クセハ、人^レ以テ諂^ヘリト爲^ス、

【疏】

當于今時、臣皆佞諂阿黨、若見有能盡禮竭忠於君者、因共翻謂爲諂、故孔子明言以疾當時也、

今ノ時ニ當テ、臣皆佞^ニ諂^テ阿^ニ黨^ス、若シ能ク禮ヲ盡シ忠ヲ君ニ竭クスモノ者有ルヲ見テハ、因テ共ニ翻ツテ謂テ諂ヘ

リト爲^ス、故ニ孔子明カニ言テ當時ヲ疾ム、

【注】

孔安國曰、時人事君者、多無禮、故以有禮者爲諂也、

孔安國カ曰ク、時ノ人君ニ^{ツカヘマツ}事^ル、多ク禮無シ、故ニ禮有ル者ヲ以テ諂ヘリト爲^ス、

(一) 「人」、武内本無此字。

【經】

定公問、君使臣、臣事君如之何、

定公問ハク、君臣ヲ使ヒ、臣君ニ事ヘンコト如^イ之^カ何^ン、

【疏】

定公哀公父也、亦失禮、而臣不服、亦定公患之、故問孔子、求於君使臣、臣事君之法禮也、

定公ハ哀公ノ父ナリ、亦禮ヲ失シテ、臣服^レセ不^ク、亦定公之ヲ患フ、故ニ孔子ニ問テ、君ノ臣ヲ使ヒ、臣ノ君ニ^{ツカヘマツ}事^ルノ法^レ禮ヲ求ム、

【注】

孔安國曰、定公魯君諡也、時臣失禮、定公患之、故問也、

孔安國カ曰ク、定公魯ノ君ノ諡、時ノ臣禮ヲ失ス、定公之ヲ患フ、故二問フ、

【經】

孔子對曰、君使臣以禮、臣事君以忠、

孔子對ヘテ曰ク、君臣ヲ使フニ禮ヲ以テスレハ(以テス)、臣君ニ事ルニ忠ヲ以ス、

【疏】

孔子答因斥定公也、言臣之從君、如草從風、故君能使臣、得禮則、臣事君必盡忠也、君若無禮則、臣亦不忠也、

孔子答因テ定公ヲ斥ル、言ハ臣ノ君ニ從コト、草ノ風ニ從カ如シ、故ニ君能ク臣ヲ使フニ、禮ヲ得ル則ハ、臣君ニ事ルコト必ス忠ヲ盡ス、君若シ禮無キ則ハ、臣モ亦忠アラ不、

【經】

子曰、關雎樂而不淫、

子曰、關雎ハ樂而(樂ミ)淫セ不、

【疏】

關雎者、即毛詩之初篇也、時人不知關雎之義、而橫生非毀、或言其姪、或言其傷、故孔子解之也、關雎樂得淑女、以配君子、是共為政風之美耳、非為淫也、故云、樂而不淫也、故江熙云、樂在得淑女、疑於為色、所樂者德、故有樂而無淫也、又李充曰、關雎之興、樂得淑女、以配君子、憂在進賢、不淫其色、是樂而不淫也、

關雎ハ、即チ毛詩ノ初メノ篇ナリ、時ノ人關雎ノ義ヲ知ラ不、而シテ横ニ非リ毀ルコトヲ生ス、或ハ言ク其レ姪ナリト、或ハ言ク其レ傷ルト、故ニ孔子之ヲ解ク、關雎ハ淑ノ女ヲ得テ、君ノ子ニ配シテ、是レト共ニ政風ノ美ヲ為スコトヲ樂ム耳、淫ヲ為ルニ非ス、故ニ云ク、樂而淫セ不、故ニ江熙カ云ク、樂ハ淑ノ女ヲ得ルニ在リ、色ノ為ニスルコトヲ疑フ、樂ム所ハ德ナリ、故ニ樂ミ有テ淫無シ、又李充カ曰ク、關雎ノ興、淑ノ女ヲ得テ、以テ君子ニ配スルコトヲ樂ム、憂ヘ賢ヲ進ムルニ在リ、其色ニ淫

セ不^す、是レ樂テ（樂メトモ）淫セ不^さルナリ、

【經】

哀而不傷、

哀メトモ（哀テ）傷ラ不^す、

【疏】

關雎之詩、自是哀思窈窕、思賢才故耳、而無傷害善之心、故云哀而不傷也、故李充曰、哀窈窕、思賢才、而無傷害善之心、是哀而不傷也、

關雎ノ詩ハ、自^{ワのつから}是レ哀テ窈^イ窕^ウヲ思フ、賢オヲ思フ故耳、而シテ善ヲ傷ルノ心無シ、故ニ云ク哀メトモ傷ラ不^す、故ニ李充カ曰ク、窈^イ窕^ウヲ哀テ、賢^イオヲ思フ、而シテ善ヲ傷ルノ心無シ、故ニ云ク哀メトモ傷不^す、故ニ李充カ曰ク、窈^イ窕^ウヲ哀テ、賢^イオヲ思フ、而シテ善ヲ傷ルノ心無シ、是レ哀テ傷ラ不^さルナリ、

【注】

孔安國曰、樂而不至淫、哀而不至傷、言其和也、

孔安國カ曰ク、樂メトモ淫^{スル}ニ至ラ不^す、哀メトモ傷ルニ至ラ不^す、言ハ其レ和スルソ、

【疏】

鄭玄曰、樂得淑女、以爲君子之好仇、不爲淫其色也、寤寐思之、哀世失夫婦之道不得此人。不爲感傷其愛也

鄭玄カ曰ク、淑^イ女ヲ得テ、君^イ子ノ好キ^イ仇^イ爲ランコトヲ樂ム、其ノ色ニ淫^スルニ不^す、寤^イテモ^イ寐^イテモ之ヲ思フ、世ノ夫^イ婦^イノ道ヲ失シテ此ノ人ヲ得^ス不^さルコトヲ哀ム。其ノ愛ニ感^イ傷^イスルコトヲ爲サ不^す

(一) 「亦」、武内本無此字。

(二) 「淫」、武内本作「姪」。

(三) 「淫」、武内本作「姪」。

(四) 「淫」、武内本作「姪」。

【經】

哀公問社於宰我、

哀公社ヲ宰我ニ問フ、

【疏】

社稷也、哀公見社稷種樹之不同、故問宰我也、哀公魯君也、宰我孔子弟子、姓宰名字字子我也、鄭論本云、問主也、

社ハ社^一稷、哀公社稷ノ種ル樹ノ同カラ不^{さる}コトヲ見ル、故ニ宰我ニ問フ、哀公ハ魯ノ君ナリ、宰我ハ孔子ノ弟子、姓ハ宰名ハ予字ハ子我、鄭カ論ノ本ニ云ク、主ヲ問フト、

【經】

宰我对曰、夏后氏以松、殷人以柏、周人以粟、

宰我对ヘテ曰ク、夏后氏ハ松ヲ以テシ、殷人ハ柏ヲ以シ、周人ハ粟ヲ以ス、

【疏】

宰我答社稷樹、三代所居不同、故有松柏之異也、然夏稱后氏、殷周稱人者、白虎通曰、夏以揖讓、受禪爲君、故褒之稱后、后君也、又重其世、故氏係之也、殷周以干戈、取天下、故貶稱人也、白虎通又云、夏得禪授、是君與之、故稱君也、殷周從人民之心、而取之、是由人得之、故曰人也、

宰我社稷ノ樹ノ、三代居ル所同カラ不^{トコロ}、故ニ松^一柏ノ異

有ルコトヲ答フ、然ルニ夏ニハ後^一氏ト稱シ、殷周ニハ人ト稱スルコトハ、白虎通ニ曰ク、夏ハ揖讓ヲ以テ、禪リヲ受テ君爲リ、故ニ之ヲ褒テ後ト稱ス、後ハ君ナリ、又其ノ世ヲ重ンス、故ニ氏ヲ之ニ係ク、殷周ハ干戈ヲ以テ、天^一下ヲ取ル、故ニ貶シテ人ト稱ス、白虎通ニ又云ク、夏ハ禪リ授ルコトヲ得、是レ君之ヲ與フルナリ、故ニ君ト稱ス、殷周ハ人^一民ノ心ニ從テ、之ヲ取ル、是レ人ニ由テ之ヲ得ルナリ、故ニ人ト曰フ、

【經】

曰、使民戰粟也、

曰ク、民使テ戰^シ粟ナラ使、

【疏】

曰者謂也、宰我見哀公失德民不畏服、無戰粟悚敬之心、今欲微諷哀公、使改德修行、故因於答三代木竟、而又矯周樹用粟之義也、言周人所以用粟謂種粟、而欲使民戰粟故也、今君是周人而社既種粟、而民不戰粟、何也、然謂曰爲謂者、猶曰者未仁、及不曰如之何之類也、

曰ハ謂ナリ、宰我哀公徳ヲ失シテ民畏服セ不、戰栗(棟)敬ノ心無キヲ見ル、今微ク哀公ヲ諷シテ、徳ヲ改メ行ヲ修メ使マク欲ス、故ニ三代ノ木ヲ答ヘ竟ルニ因テ、而シテ又タ周ノ樹ノ栗ヲ用ルノ義ヲ矯ス、言ハ周人ノ栗ヲ用ル所以ハ謂ル栗ヲ種テ、民ヲ戰栗ナラ使メント欲ルカ故ナリ、今ノ君ハ是レ周人ニシテ社ニ既ニ栗ヲ種フ、而ルニ民戰栗ナラ不ルコトハ、何ソヤ、然ルニ曰ヲ謂テ謂ト爲ルコトハ、曰ハ未タ仁アラ未、及ヒ之ヲ如何ト曰ハ不ルノ類ノ猶シ、

【注】

孔安國曰、凡建邦立社、各以其土所宜之木、

孔安國カ曰ク、凡ソ邦ヲ建テ社ヲ立ツルニハ、各其ノ土ノ宜所ノ木ヲ以ス、

【注】

出周禮也、然社樹、必用其土所宜之木者、社主土生、土生必令得宜、故用土所宜木也、夏居河東、河東宜松、殷居亳、亳宜柏、周居鄆鎬、鄆鎬宜栗也、

周禮ヨリ出ツ、然シテ社ノ樹ニハ、必ス其ノ土ノ宜キ所ノ

木ヲ用コトハ、社ハ土生ヲ主トス、土生ハ必ス宜コトヲ得令ム、故ニ土ノ宜キ所ノ木ヲ用フ、夏ハ河東ニ居ル、河東ハ松ニ宜シ、殷ハ亳ニ居ル、亳ハ柏ニ宜シ、周ハ鄆鎬ニ居ル、鄆鎬ハ栗ニ宜シ、

【注】

宰我不本其意、妄爲之說、

宰我其ノ意ヲ本ツケ不、妄ニ之カ説ヲ爲ス、

【疏】

本在隨土所宜、而宰我妄說其義、是不本其意也、

本土ノ宜キ所ニ隨フニ在リ、而ルヲ宰我妄ニ其ノ義ヲ説ク、是レ其ノ意ヲ本ツケ不ルナリ、

【注】

因周用栗、便云、使民戰栗也、

周ノ栗ヲ用ルニ因テ、便チ云ク、民ヲ使テ戰栗ナラ使メントナリ、

【疏】

便謂周粟是、使民戰粟也、依注意、即不得如先儒言、曰使民戰粟、是哀公語也、

便チ謂ル周ノ粟ハ是レ、民ヲ使テ戰栗ナラ使メントナリ、注ノ意ニ依レハ、即チ先儒ノ言ノ如コトヲ得不、曰ク民ヲ使テ戰栗ナラ使メントナリトハ、是レ哀公ノ語ナリ、

【經】

子聞之

子聞テ

【疏】

孔子聞之宰我説、使民戰粟之言也、

孔子ノ宰我カ説テ、民ヲ使テ戰栗ナラ使メントイフノ言ヲ聞テ、

【經】

曰、成事不説、

ノたまは 曰ク、成リンシ事ヲハ説カ不、

【疏】

聞而譏宰我也、言種粟是隨土所宜、此事之成著乎三代、汝今妄説曰、使民戰粟、是壞於禮政、故云成事不説也、

聞テ宰我ヲ譏ルソ、言ハ粟ヲ種コトハ是レ土ノ宜シキ所ニ隨フ、此レ事ノ成テ三代ニ著レタルナリ、汝今妄ニ説テ曰ク、民ヲ使テ戰栗ナラ使メント、是レ禮政ヲ壞ル、故ニ云ク成リンシ事ヲハ説カ不、

【注】

苞氏曰、事已成、不可復説解、

苞氏カ曰ク、事ノ已ニ成リンシヲハ、復説テ解ク可ラ不、

【疏】

依注、亦得爲向解也、

注ニ依ルニ、亦向ノ解爲ルコトヲ得タリ、

【經】

遂事不諫、

遂ケンシ事ヲハ諫メ不^ス、

【疏】

此指哀公也、言哀公爲惡已久、而民不戰栗、其事畢遂此、豈汝之可諫止也、

此レハ哀公ヲ指ス、言ハ哀公惡ヲ爲スコト已ニ久シテ、民戰栗ナラ不^ス、其ノ事此ニ畢リ、遂ク、豈ニ汝之ヲ諫メ止ム可ンヤ、

【注】

荀氏曰、事已遂、不可復諫止也、

荀氏カ曰ク、事ノ已^{すてに}遂ケンシヲハ、復諫メ止ム可^{へか}ラ不^す、

【疏】

亦得爲向解也、

亦向^{サキ}ノ解^{たる}爲コトヲ得、

【經】

既往不咎、

既ニ往^インシヲハ咎^{トカ}メ不^す、

【疏】

此指^三宰我也、言汝不本樹意、而妄爲他說、若餘人爲此說則、爲可咎責、今汝好爲謬失、而此事既已往、吾不復追咎汝也、是咎之深也、猶於予與何誅之類也、

此レハ宰我ヲ指ス、言ハ汝樹ノ意ヲ本ツケ不^すシテ、妄^{またり}ニ他ノ說ヲ爲ス、若シ餘一人此ノ說ヲ爲サハ、咎^セメ責ム可シト爲^ス、今汝好^{いんちのみ}テ謬^{ヒラ}失ヲ爲ス、此ノ事既^{ことス}已^ニ往^インヌ、吾復汝ヲ追イ^す咎^メ不^す、是レ之ヲ咎ムルコトノ深キナリ、予ニ於テ與何ソ誅^セメントイフノ類ノ猶シ、

【注】

荀氏曰、事既往、不可復追非咎也、

荀氏カ曰ク、事ノ既ニ往^インシヲハ、復タ追テ非^シリ咎^{トカ}ム可^{へか}ラ不^す、

【疏】
亦得爲向說也

亦向ノ說爲ルコトヲ得

【注】
孔子非宰我、故歷言此三者、欲使慎其後也、

孔子宰我ヲ非ル、故ニ此ノ三ノ者ヲ歷言テ、其ノ後ヲ慎シマ使メマク欲ス、

【疏】

然此注亦得爲向者之解、又一家云、三語竝譏宰我也、故李充曰、成事不說、而哀譽成矣、遂事不諫、哀謬遂矣、既往不咎、而哀政往矣、斯似譏宰我、而實以廣道消之慨、盛德衰之歎、言不咎者、咎之深也、案李充說、是三事竝譏宰我、無令後日復行也、然成遂往說諫咎之六字、先後之次相配之旨、未都可見、師說云、成是自初成之時、遂談是其事既行之日、既往指其事、已過之後也、事初成、不可解說、事政行不可諫止、事已過、不可追咎也、先後相配、各有旨也、

然ルニ此ノ注モ亦向ノ解爲ルコトヲ得、又タ一家ニ云ク、三語竝ニ宰我ヲ譏ル、故ニ李充カ曰ク、成シ事ヲハ説カ不、而ルニ哀カ譽成ンヌ、遂シシ事ヲハ諫メ不、哀カ謬チ遂ケヌ、既ニ往シヲハ咎メ不、而ルニ哀カ政コト往ヌ、斯レ宰我ヲ譏ルニ似テ、實ハ以テ道ノ消スルノ慨ヲ廣メ、德ノ衰ルノ歎ヲ盛ンニス、咎メ不ト言コトハ、咎ルノ深ナリ、李充カ説ヲ案スルニ、是ノ三事ハ竝ニ宰我ヲ譏ル、後一日ヲ令テ復行ハ令無ケン、然ルニ成遂往說諫咎ノ六字ハ、先後ノ次テ相ヒ配スルノ旨、未タ都テ見ル可ラ未、師ノ說ニ云ク、成トハ是レ初メ自リ成ルノ時ナリ、遂トハ是レ其ノ事ヲ談シテ既ニ行フノ日ナリ、既ニ往シトハ其ノ事ノ、已ニ過ルルノ後ヲ指ス、事ノ初ヨリ成ルヲハ、解キ説ク可ラ不、事ノ政ニ行フヲハ諫メ止ム可ラ不、事ノ已ニ過シヲハ、追イ咎ム可不、先後相ヒ配スルコト、各旨有リ、

- (一) 「粟」、武内本作「粟」。
- (二) 「后」上、武内本有「夏」字。
- (三) 「粟」、武内本作「粟」。
- (四) 「粟」、武内本作「粟」。
- (五) 「粟」、武内本作「粟」。
- (六) 「之」、武内本無此字。

- (七) 「不本其意」、武内本作「不曉其本意」。
- (八) 「本」、武内本作「木」。
- (九) 「譏」、武内本作「說」。
- (一〇) 「著」、武内本作「著」。
- (一一) 「可」、武内本無此字。
- (一二) 「指」、武内本作「斥」。
- (一三) 「此」、武内本無此字。
- (一四) 「哀」上、武内本有「而」字。
- (一五) 「譏」、武内本作「誠」。
- (一六) 「往」下、武内本有「及」字。
- (一七) 「是」下、武内本有「其事」二字。
- (一八) 「談」、武内本無此字。

【經】

子曰、管中之器小哉、

子ノ曰ク、管中カ器小ナル哉ヤ、

【疏】
管仲者、齊桓公之相管夷吾也、齊謂之仲父、故呼爲管仲也、器者、謂管仲識量也、小者不大也、言管仲識量不可大也、

管仲ハ、齊ノ桓公ノ相管夷吾ナリ、齊ニ之ヲ仲父ト謂フ、故ニ呼テ管仲ト爲、器トハ、管仲カ識量ヲ謂フ、小トハ大ナラズ、言ハ管仲カ識量大ナリトス可ラズ、

【注】

言、其器量小也、

言ハ、其ノ器量小シキナリ、

【疏】

孫綽曰、功有餘、而德不足、以道觀之、得不曰小乎、

孫綽カ曰ク、功餘有リ、而トモ德足ラズ、道ヲ以之ヲ觀レハ、小ト曰ハズコトヲ得ン乎、

【經】

或曰、管仲儉乎、

或ヒトノ曰ク、管仲儉アリヤ、

【疏】

或人聞孔子云、管仲器小、便謂管仲慳儉、故問云儉乎、

或ル人孔子ノ云ク、管仲カ器、小ナリトイフヲ聞テ、便
チ謂ラク管仲ハ慳儉ナリト(便チ管仲ハ慳儉ナリト謂ヘ
リ)、故ニ問テ云ク儉ナリ乎ト、

【注】

苞氏曰、或人見孔子小之、以爲謂之大儉乎也、

苞氏カ曰ク、或ル人孔子ノ小シキナリトイフヲ見テ、以
爲ラク之ヲ大儉ナリト謂フト(之ヲ大儉ナリト謂フト以
謂ヘリ)、

【經】

曰、管氏有三歸、官事不攝、焉得儉也、

曰ク、管氏三歸有リ、官ノ事攝セ不、焉ソ儉ヲ得ン、

【疏】

孔子又答或人、説管仲不儉也、三歸者、管仲娶三國女、爲
婦也、婦人謂嫁曰歸也、禮諸侯一娶三國九女、以一大國、
爲正夫人、正夫人之兄弟女一人、又夫人之妹一人、謂之姪
婦、隨夫人來爲妾、又二小國之女來、爲媵、媵亦有姪婦、
自隨、既每國三人、三國故、九人也、大夫婚不越境、但一

國取三女、以一爲正妻、二人姪婦從爲妾也、管仲是齊大
夫、而一娶三國九人、故云有三歸也、又諸侯國大事多、故
立官各職、每人輒爲一官、若大夫則不得官官置人、但每一
人、輒攝領數事、管仲是大夫、而立官各人、不須兼攝、故
云官事不攝也、既女多官廣、費用不少、此則非儉者所爲、
故云焉得儉也、

孔子又或ル人ニ答テ、管仲カ儉ナラ不ルコトヲ説ク、三
歸トハ、管仲ハ三國ノ女ヲ娶ツテ、婦ト爲、婦人ハ嫁ヲ
謂テ歸ト曰フ、禮ニ諸侯ハ一リニシテ三國ノ九女ヲ娶
ル、一ノ大國ヲ以テ、正夫人ト爲、正夫人ノ兄弟ノ
女一人、又夫人ノ妹一人、之ヲ姪婦ト謂フ、夫人
ニ隨テ來ルヲ妾ト爲、又二ノ小國ノ女ノ來ヲ、媵ト爲、
媵モ亦姪婦有テ、自隨フ、既ニ國毎ニ三人、三國ナ
ルカ故ニ、九人ナリ、大夫ノ婚ハ境ヲ越ヘ不、但タ一
國ヨリ三女ヲ取ル、一リヲ以テ正妻ト爲、二人姪婦ノ
從フヲ妾ト爲、管仲ハ是レ齊ノ大夫ナリ、而ルニ一リトシ
テ三國ノ九人ヲ娶ル、故ニ云ク三歸有リト、又諸侯
ハ國大ニシテ事多シ、故ニ官ヲ立テ職ヲ各ニシテ、人毎
ニ輒チ一官ト爲、若シ大夫ハ則チ官官二人ヲ置コトヲ得
不若キンハ、但タ一人毎ニ、輒チ數事ヲ攝領ス、管仲
ハ是レ大夫ナリ、而ルヲ官ヲ立テ人ヲ各ニシテ、兼攝ス

ルコトヲ須^モイ不^ス、故ニ云ク官ノ事攝セ不^ト、既ニ二女^ノ多ク官^ノ廣フシテ、費^ノ用少ナラ不^ス、此レ則チ儉^ノ者爲ル所ニ非ス、故ニ云ク焉^ノ儉ヲ得^ン也、

【注】

荀氏曰、三歸者、娶三姓女也、

荀氏カ曰ク、三^ノ歸トハ、三^ノ姓ノ女ヲ娶^ル、

【疏】

然勝與夫人、與大國宜同姓、今雖三國、政應一姓、而云三姓者、當是誤也、

然ルニ勝^{ヨリ}ト夫一人與^トハ、大^ノ國與宜ク同^ト姓ナル宜^シ、今三^ノ國ト雖モ、政^ニ一^ノ姓ナル應^シ、而ルヲ三^ノ姓ト云フコトハ、當ニ是レ誤ナル當^シ、

【注】

婦人謂嫁爲歸、攝猶兼也、

婦一人ハ嫁ヲ謂テ歸ト爲^ス、攝ハ兼ノ猶^シ、

【疏】

攝竝也

攝ハ竝ナリ

【注】

禮國君事大、官各有人、大夫并兼、今管仲家臣備職、非爲儉也、

【疏】

大夫稱家、大夫之臣曰家臣、家臣宜并事、今云不攝、是不并、不并是不儉也、家臣、謂家相邑宰之屬也、

大夫ニ家ト稱ス、大夫ノ臣ヲ家^ノ臣ト曰フ、家^ノ臣ハ宜ク事ヲ并ハス宜^シ、今攝セ不^ト云フコトハ、是レ并セ不^ルナリ、并セ不^ルハ是レ儉ナラ不^ルナリ、家^ノ臣トハ、家相邑宰ノ屬ヲ謂フ、

【經】
曰、然則管仲知禮乎、

のたまは
曰ク、然ラハ則チ管仲禮ヲ知レルヤ、

【疏】

又或人問也、或人聞孔子云不儉、故更問云、若如此則、是管仲知禮乎、然猶如此也、

又或ル^レ人問フ、或ル^レ人孔子ノ儉ナラ^ズ不ト云ヲ聞ク、故ニ更ニ問テ云ク、若シ此ノ如キンハ、是管仲禮ヲ知ルヤ、然ハ此ノ如シトイフカ猶シ、

【注】

苞氏曰、或人以儉問、故答以安得儉、或人聞不儉、更謂爲得禮也、

苞氏カ曰ク、或^レ人儉ヲ以^モ問フ、故ニ答ルニ安ソ儉ヲ得ントイフヲ以テス、或^レ人儉ナラ^ズ不トイフヲ聞テ、更ニ謂ラク禮ヲ得タリト爲^スト(更ニ禮ヲ得タリト爲^スト謂ヘリ)、

【經】
曰邦君樹塞門、管氏亦樹塞門、

のたまは
曰ク邦君ハ樹シテ門ニ塞ク、管氏モ亦タ樹シテ門ニ塞ク、

【疏】

又答或人云、管仲不知禮也、邦君謂諸侯也、樹塞門、謂立屏、以障隔門、別外内、禮天子諸侯、竝有之也、臣來朝君、至屏而起敬、天子尊遠、故外屏於路門之外、爲之、諸侯尊近、故内屏於内門之内、爲之、今黃閣板障是也、卿大夫以簾、士以帷、又竝不得施之於門、政當在庭階之處耳、管仲是大夫亦學諸侯於門立屏、故云亦樹塞門、

又或ル^レ人ニ答テ云ク、管仲禮ヲ知レラ^ズ不、邦君トハ諸侯ヲ謂フ、樹シテ門ニ塞^ムトハ、謂ル屏ヲ立テ、門ヲ障ヘ^ル隔テテ、外^レ内ヲ別ツ、禮ニ天子諸侯ハ、竝ニ之レ有リ、臣^レ來テ君ニ朝スルトキニ、屏ニ至テ敬ヲ起ス、天子ハ尊^レ遠シ、故ニ路門ノ外ニ屏シテ、之ヲ爲^ス、諸侯ハ尊^レ近シ、故ニ内門ノ内ニ屏シテ、之ヲ爲^ス、今ノ黃閣板障是ナリ、卿大夫ハ簾ヲ以シ、士ハ帷ヲ以ス、竝ニ門ニ之ヲ施スコトヲ得不、政ニ當ニ庭階ノ處ニ在ル當キ

耳、管仲ハ是レ大夫ナリ亦諸侯ヲ學テ門ニ於屏ヲ立ツ、故ニ云ク樹シテ門ニ塞クト、

【經】

邦君爲兩君之好、有反坫、管氏亦有反坫、

邦君兩君ノ好ヲ爲ストキニ、反坫有リ、管氏モ亦タ反坫有リ、

【疏】

又明失禮也、禮諸侯與鄰國君、相見、共於廟飲燕、有反坫之禮、坫者築土爲之、形如土堆、在於兩楹之間、飲酒行獻酬之禮、更酌、酌畢則、各反其酒爵於坫上、故謂此堆爲反坫、大夫無此禮、而管仲亦僭爲之、故云亦有反坫也、

又禮ヲ失スルコトヲ明ス、禮ニ諸侯鄰國ノ君與、相ヒ見トキハ、共ニ廟ニ於飲燕シテ、反坫ノ禮有リ、坫ハ土ヲ築テ之ヲ爲ス、形土堆ノ如シ、兩楹ノ間ニ在リ、酒ヲ飲ムトキニ獻酬ノ禮ヲ行テ、更ニ酌ム、酌ミ畢ル則ハ、各其酒爵ヲ坫上ニ反ス、故ニ此ノ堆ヲ謂テ反坫ト爲、大夫ハ此ノ禮無シ、而ルヲ管仲亦僭シテ之ヲ爲ス、故ニ云ク亦反坫有リト、

【注】

鄭玄曰、反坫反爵之坫也、

鄭玄カ曰ク、反坫ハ反爵ノ坫ノ、

【疏】

爵謂杯也

爵ハ謂ル杯ナリ

【注】

在兩楹之間、

兩楹ノ間ニ在リ、

【疏】

兩楹者、古者屋當棟下、隔之、棟後謂之室、棟前謂之堂、假三間堂、而中央之間、堂無西東壁、其柱盈盈而立、故謂柱爲楹、東柱爲東楹、西柱爲西楹、西楹之東、東楹之西、即謂此地、爲兩楹間也、

兩楹ハ、古ニハ屋棟下ニ當テ、之ヲ隔テテ、棟ノ後ヲ

之ヲ室ト謂ヒ、棟ノ前ヲ之ヲ堂ト謂フ、三ノ間ノ堂ヲ假ラ
ン、中ノ央ノ間、堂ニ西ノ東ノ壁無シ、其ノ柱盈ト盈トシテ
立ツ、故ニ柱ヲ謂テ楹ト爲、東ノ柱ヲ東ノ楹ト爲、西ノ柱ヲ
西ノ楹ト爲、西ノ楹ノ東、東ノ楹ノ西ヲ、即チ此ノ地ヲ謂
テ、兩ノ楹ノ間ト爲、

【注】

人君有別外内於門、樹屏以蔽之、

人ノ君外ノ内ヲ門ニ別ツコト有リ、樹ノ屏シテ之ヲ蔽ス、

【疏】

今黃閣用板爲鄣、古者未必用板、或用土、今大廟中門内、
作屏鄣是也

今ノ黄閣ハ板ヲ用テ鄣ト爲、古ニハ未タ必シモ板ヲ用ヒ
未、或ハ土ヲ用フ、今ハ大廟ノ中ノ門ノ内ニ、屏ノ鄣ヲ作
ス是ナリ

【注】

若與隣國君、爲好會、其獻酢之禮更酌、

若シ隣ノ國ノ君與、好ノ會ヲ爲ストキハ、其ノ獻ノ酢ノ禮
更ノ酌ム、

【疏】

初主人酌酒、與賓曰獻、賓飲獻畢、而酌與主人曰酢、主
人飲酢畢、又酌與賓曰酬、古者賓主各杯、故云更酌也、

初メ主人酒ヲ酌テ、賓ニ與ルヲ獻ト曰フ、賓獻ヲ飲ミ畢
テ、酌テ主人ニ與ルヲ酢ト曰フ、主人酢ヲ飲ミ畢テ、又
酌テ賓ニ與ルヲ酬ト曰フ、古ニハ賓ノ主杯ヲ各ニス、故ニ
云ク更ノ酌ムト、

【注】

酌畢、則各反爵於坫上、

酌ミ畢テ、則チ各爵ヲ坫ノ上ニ反ヘス、

【疏】

既云各反則、是各兩爵也、

既ニ各反ヘスト云フ則ハ、是レ各兩爵ナリ、

【注】

今管氏皆僭爲之、如是是不知禮也、

今管氏皆僭シテ之ヲ爲ス、是ノ如キンハ是レ禮ヲ知レラズルナリ、

【疏】

卑者、濫用尊者之物、曰僭也、

卑キ（卑キ）者、濫ニ尊者ノ物ヲ用ルヲ、僭ト曰フ、

【經】

管氏而知禮、孰不知禮也、

管氏而モ禮ヲ知レラハ、孰カ禮ヲ知レラズン、

【疏】

結於答也、孰誰也、言若謂管仲此事、爲知禮則、誰復是不知禮者乎、然孔子稱管仲爲仁、及匡齊、不用兵車、而今謂爲小、又有此失者、管仲中人、寧得圓足、是故雖有仁功、猶不免此失也、今李充曰、齊桓隆霸王之業、管仲成一匡之功、免生民於左衽、豈小也哉、然苟非大才者則、有偏失、

好内極奢、桓公之病也、管生方恢仁大勳、弘振風義、遺近節於當年、期遠濟乎千載、寧諦分以要治、不潔己以求名、所謂君子行道、忘其爲身者也、漏細行、而全令圖、唯大德乃堪之、季末奢淫愆違禮則、聖人明經常之訓、塞奢侈之源、故不得不貶以爲少也、

答ヲ結ス、孰ハ誰、言ハ若シ管仲カ此ノ事ヲ謂テ、禮ヲ知レリト爲ハ、誰カ復是レ禮ヲ知レラズル者ナランヤ、然ルニ孔子ハ管仲ヲ稱シテ仁アリト爲、及ヒ齊ヲ匡スニ、兵車ヲ用ヒ不、而ルヲ今謂テ小ナリト爲ルコトハ、又此ノ失有レハナリ、管仲ハ中人ナリ、寧口圓足ナルコトヲ得ンヤ、是ノ故ニ仁一功有ト雖、猶ヲ此ノ失ヲ免レ不、今李充カ曰ク、齊桓ハ覇（覇）王ノ業ヲ隆ス、管仲ハ一匡ノ功ヲ成シテ、生民ヲ左衽ニ免レシム、豈ニ小ナランヤ、然トモ苟ニ大才ノ者ニ非ンハ、偏失有ラン、内ヲ好ミ奢ヲ極ムルハ、桓公ノ病ナリ、管生方ニ仁ヲ恢ニシ勳ヲ大ニシテ、弘ニ風義ヲ振ヒ、近節ヲ當年ニ遺テ、遠濟ヲ千載二期ス、寧口諦リヲ分トシテ治ヲ要シ、己ヲ潔メ名ヲ求メ不、謂ハ所ル君子ノ道ヲ行フコト、其身ノ爲ヲ忘ルル者ナリ、細行ヲ漏シテ、令圖ヲ全フス、唯タ大德之ニ堪フ、季末奢淫ニシテ禮則ニ愆リ違ウ、聖人ハ經常ノ訓ヲ明シ、奢侈ノ源ヲ塞ク、故ニ貶

シテ少ナリト爲不ルコトヲ得不、

【經】

子謂魯太師樂曰、樂其可知也已、

子魯ノ太師ニ樂ヲ謂ツテ曰ク、樂ハ其レ知ヌ可ラク已、

【疏】

魯大師、魯之樂師也、魯國禮樂崩壞、正音不存、故孔子見魯之樂師、而語其使知正樂之法、故云、樂其可知也已、

魯ノ大師トハ、魯ノ樂師ナリ、魯國ノ禮樂崩壞レテ、正音存セ不、故ニ孔子魯ノ樂師ニ見ヘテ、而シテ其二語テ正樂ノ法ヲ知ラ使ム、故ニ云ク、樂ハ其レ知ヌ可ラク已、

【經】

始作翕如也、

始メテ作ス翕如タリ、

【疏】

此以下、竝是所語、可知之聲也、翕習也、言正樂初奏、其聲翕習而盛也、

此ヨリ以下ハ、竝ニ是レ語ル所、知ヌ可キノ聲ナリ、翕ハ習ナリ、言ハ正樂ハ初メテ奏スルトキニ、其ノ聲翕習トシテ盛ナリ、

【注】

大師樂官名也、言五音始奏、翕如盛也、

大師ハ樂官ノ名ソ、言ハ五音始テ奏スルトキニ、翕如トシテ盛ナリ、

【經】

從之純如也、

從ストキニ純如タリ、

【疏】

從放縱也、言正樂始奏、翕習以後、又舒縱其聲、其聲則純一、而和諧、言不離拆散逸也、

從ハ放縱ナリ、言ハ正_レ樂ハ始テ奏スルトキニ、翕_レ習トシテ以_レ後、又舒テ其ノ聲ヲホしいまに縱_レスレトモ、其ノ_レ聲則チこへ純一ニシテ、和諧ス、言ハ離_レ拆タタ(拆)ハナル散逸セ不_レ、

【注】

從讀曰縱也、言五音既發、放縱盡其聲、純純如和諧也、

從_レカ讀ヲハ縱ト曰フ、言ハ五_レ音既ニ發シテ、放_レチ_レ縱シテ盡ストキニ其ノ_レ聲、純_レ純_レ如トシテ和_レ諧セリ、

【經】

噉如也、

噉_レ如タリ、

【疏】

言雖純如、而如一、其音節又明亮、皎皎然也、

言ハ純_レ如トシテ、一ノ如シト雖モ、其ノ音_レ節又明_レ亮トシテ、皎_レ皎_レ然タリ、

【注】

言其音節明也、

言ハ其ノ音_レ節明ナルソ、

【經】

繹如也、

繹_レ如タリ、

【疏】

繹尋續也、言聲相尋續、而不斷絕也、

繹ハ尋_レ續ナリ、言ハ聲相ヒ尋_レ續シテ、斷_レ絶セ不_レ、

【經】

以成矣、

以テ成ル、

【疏】

以成矣、奏樂如此則、是正聲一成也、

以テ成ルトハ、樂ヲ奏スルコト此ノ如キンハ、是レ正聲
一 成ス、

【注】

縱之、以純如皦如繹如、言樂始於翁如、而成於三者也、

縱^トストキニ、純^ト如皦^ト如繹^ト如ヲ以テス、言ハ樂ハ翁^ト如^トニ
始マツテ三ニ成ル者ナリ、

【疏】

三者純、皦、繹、也

三トハ純、皦、繹ナリ、

- (一) 「中」、武内本作「仲」。
- (二) 「也」、武内本作「乎」。
- (三) 「取」、武内本作「娶」。
- (四) 「女」下、武内本有「也」字。
- (五) 「人」、武内本作「女」。
- (六) 「一」、武内本無此字。
- (七) 「君」、武内本作「國」。
- (八) 「黃」下、武内本有「門」字。

(九) 「於」、武内本無此字。

(一〇) 「門」下、武内本有「也」字。

(一一) 「楹」下、武内本有「之」字。

(一二) 「鄣」、武内本作「障」。

(一三) 「鄣」、武内本作「障」。

(一四) 「是」、武内本作「之」。

(一五) 「酌」下、武内本有「酒」字。

(一六) 「又有此失者」、武内本作「又此二失者」。

(一七) 「諦」、武内本作「謗」。

(一八) 「太」、武内本作「大」。

(一九) 「之」、武内本無此字。

(二〇) 「魯」下、武内本有「之」字。

(二二) 「折」、武内本作「折」。

【經】

儀封人

儀ハ封人

【疏】

儀衛邑名也、封人守衛邑之堺、吏也、周人謂守封壇之人、
爲封人也、

儀ハ衛ノ邑ノ名ナリ、封人トハ衛ノ邑ノ界ヲ守ル、吏ナリ、周人ハ封ノ壇ヲ守ルノ人ヲ謂テ、封人ト爲ス。

【經】

請見、

見ント請フ、

【疏】

時孔子至衛、而封人是賢者、故謂諸弟子、求見於孔子也、

時ニ孔子衛ニ至ル、而ルニ封人ハ是レ賢者ナリ、故ニ諸弟子ニ謂テ、孔子ニ見ント求ム、

【注】

鄭玄曰、儀蓋衛下邑也、封人官名也、

鄭玄カ曰ク、儀ハ蓋シ衛ノ下ノ邑ナラン、封人ハ官ノ名ナリ、

【經】

曰、君子之至於斯者、吾未嘗不得見也、從者見之、

曰ク、君子ノ斯ニ至ルヲハ、吾未タ嘗ヨリ見ルコトヲ得^スンハ未^ス、從^ス者見^スシム、

【疏】

此封人請見之辭也、既欲見孔子、而恐諸弟子、嫌我微賤、不肯爲通聞、時故引我恆例、以語諸弟子、使爲我通、也、斯此也、言從來若有君子、來至此衛地者、我嘗未不得與之相見、言皆見我也、從者、即是弟子隨孔子來者也、聞其言、而爲通達使得見也、

此レハ封人見ント請フノ辭ナリ、既ニ孔子ニ見ント欲、而ルニ諸弟子、我カ微賤ヲ嫌ツテ、肯テ通聞爲^センコトヲ恐ル、時ニ故ニ我^レ恆ノ例ヲ引テ、以テ諸弟子ニ語テ、我カ爲ニ通セ^シ使ム、斯ハ此ナリ、言ハ從來若シ君子有テ、此ノ衛ノ地ニ來リ至ルトキハ、我嘗テ之與相ヒ^レ見ルコトヲ得^スンハ未^ス、言ハ皆我ニ見ユ、從者トハ、即チ是レ弟子ノ孔子ニ隨テ來ル者ナリ、其ノ言ヲ聞テ、爲ニ通達シテ見ルコトヲ得^シ使ム、

【注】

荀氏曰、從者是弟子隨孔子行者也、通使得見者也、

荀氏カ曰ク、從一者ハ是レ弟子ノ孔子ニ隨テ行ク一者ソ、
通シテ見コトヲ得セ使、

【經】
出曰、二三子、何患於喪乎、

出テ曰ク、二三子、何ソ喪ヒンコトヲ患ヘンヤ、

【疏】
出謂封人見孔子竟、而出也、二三子、即是向爲封人、通聞
之弟子也、喪猶亡失也、封人見竟、出而呼孔子弟子、而語
之也云、二三子、汝何所憂患於孔子聖道亡失乎、必不亡失
也、

出トハ封人ノ孔子ニ見ヘ竟テ、出ルヲ謂フ、二三子ト
ハ、即チ是レ向ニ封人ノ爲ニ、通聞スルノ弟子ナリ、
喪ハ亡一失ノ猶シ、封人見ヘ、竟テ、出テ孔子ノ弟子ヲ呼
テ、之ニ語テ云ク、二三子、汝何ソ孔子ノ聖道ノ亡一
失スルコトヲ憂ヘ、患ル所ナランヤ、必シモ亡失セ不、

【經】
天下之無道久矣、

天下ノ道無キコト久シ、

【疏】
此封人又説孔子聖道、不亡失之由也、言事不常一、有盛必
有衰、衰極必盛、當今天下亂離無道已久、久亂必應復興、
興之所寄、政當在孔子聖德之時、喪亡也、

此レハ封人又孔子ノ聖道ノ、亡一失セ不ランノ由ヲ説ク、
言ハ事ハ常ニ一ナラ不、盛ナルコト有ルトキハ必ス衰ルコ
ト有リ、衰極ルトキハ必ス盛ナリ、今ニ當テ天下ノ亂離
無道已ニ久シ、久ク亂ルトキハ必ス復タ興ル應シ、興ル
ノ寄ル所、政ニ當ニ孔子ノ聖德ノ時ニ、喪亡シナラント
スルニ在ル當シ、

【注】
孔安國曰、語諸弟子言、何患於夫子聖德、將喪亡耶、天下
之無道也、已久矣、極衰必有盛也、

孔安國カ曰ク、諸弟子ニ語テ言ク、何ソ夫子ノ聖德
ノ、將ニ喪亡シナラント將ルコトヲ患ヘン耶、天下ノ道
無キコト、已ニ久シ、極マリ衰テハ必ス盛ナルコト有
リ、

【經】

天將以夫子爲木鐸、

天將ニ夫子ヲ以テ木_一鐸_ト爲_ス木鐸_ト將_ス、

【疏】

言今無道將興、故用孔子爲木鐸、以宣令之、

言ハ今無_レ道ナリ將ニ興_スント將_ス、故ニ孔子ヲ用テ木_一鐸_ト爲_ス木鐸_ト、之レニ宣_一令_セシム、

【注】

孔安國曰、木鐸施政教時、所振也、言天將命孔子、制作法度、以號令於天下也、

孔安國カ曰ク、木_一鐸_トハ政_一教_ヲ施_スノ時ニ、振_フ所_ノ言_ハ天將ニ孔子ニ命_シテ、法_一度_ヲ制_作シテ、天_一下_ニ號_レ令_スセント將_ス、

【疏】

鐸用銅鐵爲之、若行武教則、用銅鐵爲舌、若行文教則、用木爲舌、謂之木鐸、將行號令則、執鐸振奮之、使鳴而所教

之事也、故檀弓云、宰執木鐸、以命于宮、曰舍故而諱新、又月令云、奮木鐸以令兆民、曰雷將發聲、是其事也、孫綽曰、達哉封人栖遲賤職、自得於懷抱、一觀大聖、深明於興廢、明道內足、至言外亮、將天假斯人、以發德音乎、夫高唱獨發、而無感於當時、列國之君、莫救乎聾盲、所以臨文永慨者也、然玄風遐被、大雅流詠千載之下、若瞻儀形、其人已遠、木鐸未戢、乃知封人之談信於今矣、

鐸ハ銅_一鐵_ヲ用_テ之_ヲ爲_ス、若シ武_一教_ヲ行_フ則ハ、銅_一鐵_ヲ用_テ舌_ト爲_ス、若シ文_一教_ヲ行_フ則ハ、木_ヲ用_テ舌_ト爲_ス之_ヲ木_一鐸_ト謂_フ、號_一令_ヲ行_{ント}將_ル則ハ、鐸_ヲ執_テ之_ヲ振_ヒ奮_テ、鳴_ラシテ教_ル所_ノ事_ヲ言_ハ使_ム、故ニ檀弓ニ云ク、宰木_一鐸_ヲ執_テ、宮ニ命_シテ、曰ク故_ヲ舍_テテ新_ヲ諱_シテ、又月令ニ云ク、木_一鐸_ヲ奮_テ兆_レ民_ニ令_シテ、曰ク雷將ニ聲_ヲ發_スセント將_トイフ、是レ其_ノ事_{ナリ}、孫綽カ曰ク、達ナル_レ哉ヤ封人賤_ニ職_ニ栖_遲シテ、懷_抱ニ自得_ス、一_ニ大_ニ聖_ヲ觀_テ、深_ク興_テ廢_ヲ明_ス、明_ニ道_内ニ足_テ、至_一言_外ニ亮_{ナリ}（亮_カナリ）、將_ニ天_スノ_一人_ヲ假_テ、以_テ德_一音_ヲ發_スルカ、夫_レ高_ニ唱_獨リ_一發_スレトモ、當_レ時_ニ感_無シ、列_一國_ノ君_モ、聾_盲ヲ救_ハルルコト莫_シ、文_一臨_テ永_ク慨_ク所以_ノ者_{ナリ}、然_ルニ玄_ニ風_遐ニ_一被_テ、大_一雅_千載_ノ下_ニ流_一詠_シテ、儀_一形_ヲ瞻_ルカ若_シ、其

ノ一人已ニ遠シテ、木鐸未タ戢マラ未、乃チ知ヌ封人ノ
談今ニ信アルコトヲ、

【經】

子謂韶盡美矣、又盡善矣也、

子韶ヲ謂ク美盡セリ、又善盡セリ、

【疏】

此評虞周二代樂之勝否也、韶舜樂名也、夫聖人制樂、隨人
心而爲名、韶紹也、天下之民、樂舜揖讓、紹繼堯德、故舜
有天下、而制樂名韶也、美者堪合當時之稱也、善者理事不
惡之名也、夫理事不惡、亦未必會合當時、會合當時、亦未
必事理不惡、故美善有殊也、韶樂所以盡美、又盡善、天下
萬物樂舜繼堯、而舜從民受禪、是會合當時之心、故曰盡美
也、揖讓而代、於事理無惡、故曰盡善也、

此ハ虞周ノ二代ノ樂ノ勝ト否ヲ評ス、韶ハ舜ノ樂ノ名ナ
リ、夫レ聖人ノ樂ヲ制スルコト、人ノ心ニ隨テ名ヲ爲ス、
韶ハ紹ナリ、天下ノ民、舜ノ揖讓シテ、堯ノ德ニ紹キ、
繼コトヲ樂ム、故ニ舜天ニ下ヲ有テ、樂ヲ制スルヲ韶ト名
ク、美ハ當時ニ合フニ堪ヘタルノ稱ナリ、善ハ理事惡カ

ラ不ルノ名ナリ、夫レ理事惡カラ不レハ、亦未タ必シモ
當時ニ會ヒ合ハ未、當時ニ會ヒ合ヘトモ、亦未タ必
シモ事理惡カラ不ンハ未、故ニ美善殊ナルコト有リ、
韶樂ノ美ヲ盡シ、又善ヲ盡ス所以ハ、天下萬物舜ノ堯
ニ繼テ、舜民ニ從テ禪ヲ受コトヲ樂ム、是レ當時ノ心ニ
會ヒ合ナリ、故ニ美盡ト曰フ、揖讓シテ代ル、事理ニ
於テ惡コト無シ、故ニ善盡スト曰フ、

【注】

韶舜樂名也、謂以聖德受禪、故曰盡善也、

韶ハ舜ノ樂ノ名ナリ、聖德ヲ以テ禪ヲ受ルヲ謂フ、故ニ
善盡セリト曰フ、

【疏】

注不釋盡美、而釋盡善者、釋其異也、

注ニ美ヲ盡スコトヲ釋セ不シテ、善盡スト釋コトハ、其ノ
異ヲ釋ス、

【經】
謂武盡美矣、未盡善也、

武ヲ謂ク美盡セリ、未タ善盡サ未_ス、

【注】

武、武王樂也、天下之民、樂武王干戈、故樂名武也。天下樂武、武王從民、而伐紂、是會合當時之心、故盡美也、而以臣伐君、於事理不善、故云未盡善也、

武ハ武王ノ樂ナリ、天下ノ民、武王ノ干戈ヲ樂ム、故ニ樂ヲ武ト名ク。天下武ヲ樂コトハ、武王民ニ從テ、紂ヲ伐ツ、是レ當時ノ心ニ會ヒ合ナリ、故ニ美盡ストイフ、而ルニ臣ヲ以君ヲ伐ツ、事理ニ於テ善カラ不_ス、故ニ未タ善盡サ未云フ、

【注】

孔安國曰、武王樂也、以征伐、取天下之、故曰未盡善也、

孔安國カ曰ク、武ハ武王ノ樂ナリ、征伐ヲ以_テ、天下ヲ取ル、故ニ未タ善盡サ未ト曰_フ、

【疏】
注亦釋其異者也、

注ニ亦其ノ異ヲ釋スル者ナリ、

【經】

子曰、居上不寬、爲禮不敬、臨喪不哀、吾何以觀之哉、

子曰、居上テ寬ナラ不_ス、禮ヲ爲ルコト敬シカラ不_ス、喪ニ臨テ哀マ不_スンハ、吾何ヲ以テカ之ヲ觀ンヤ、

【疏】

此說當時失德之君也、爲君居上者、寬以得衆、而當時居上者、不寬也、又禮以敬爲主、而當時行禮者、不敬也、又臨喪以哀爲主、而當時臨喪者、不哀。此三條之事、竝爲乖禮、故孔子所不欲觀、故云、吾何以觀之哉、

此レハ當時德ヲ失スルノ君ヲ説ク、君ト爲テ上ニ居ル者ハ、寬_{コレをも}テ衆ヲ得、而ルヲ當時上ニ居ル者、寬ナラ不_ス、又禮ハ敬ヲ以テ主ト爲、而ルヲ當時禮ヲ行フ者、敬カラ不_ス、又喪ニ臨ムニハ哀ヲ以テ主ト爲、而ルヲ當時喪ニ臨ム者、哀マ不_ス。此ノ三條ノ事、竝ニ禮ニ乖クト爲、故

ニ孔子觀マク欲セ^さズル所ナリ、故ニ云ク、吾何ヲ^わ以テ
カ之ヲ觀ン哉、

- (一) 「時」、武内本作「將」。
- (二) 「令」下、武内本有「聞」字。
- (三) 「之」、武内本作「也」。
- (四) 「評」、武内本作「詳」。
- (五) 「而舜」、武内本無此二字。
- (六) 「而」、武内本無此字。
- (七) 「者」、武内本無此字。

(八佾篇担当 玉鶴)

疏

【疏】

里者鄰里也、仁者仁儀也、此篇明凡人之性易爲染著、遇善則升、逢惡則墜、故居處宜慎必擇仁者之里也、所以次前者、明季氏之惡由不近仁、今示避惡從、善宜居仁里、故以里仁、次於季氏也、

里トハ鄰^シ里ナリ、仁トハ仁^シ儀ナリ、此ノ篇ニハ凡ソ人ノ性ノ染^シ着爲易コトヲ明ス、善ニ遇フ則ハ升リ、惡ニ逢フ則ハ墜^トツ、故ニ居^ル處宜ク慎テ必ス仁者ノ里ヲ擇フ宜^シ、前ニ次ツル所^ヲ以ハ、季氏カ惡ハ、仁ニ近カラ不^ルニ由コトヲ明ス、今惡ヲ避ケ善ニ從テ、宜ク仁^ニ里ニ居ル宜コトヲ示ス、故ニ里仁ヲ以、季氏ニ次ツ、

(一) 「解」下、武内本有「凡廿六章」四字（小字單行）。

(二) 「儀」、武内本作「義」。

(三) 「著」、武内本作「箸」。

(四) 「之」、武内本無此字。

(五) 「從」、武内本作「徒」。

【經】

子曰、里仁爲美、

子ノ曰ク、里ハ仁ヲ美シト爲ス、

【疏】

里者民之所居處也、周家去王城百里謂之遠郊、遠郊內有六鄉、六鄉中五家爲比、五比爲閭、五閭爲旅、五旅爲黨、五黨爲州、五州爲鄉、百里外至二百里謂之六遂、遂中五家爲鄰、五鄰爲里、四里爲鄙、五鄙爲鄙、五鄙爲縣、五縣爲遂、二百里外至王畿、五百里之內、竝同六遂之制也、仁者博施濟衆也、言人居宅必擇有仁者之里、所以爲美也、里仁既爲美、則閭仁亦美可知也、

里ハ民ノ居ル所ノ處ナリ、周^ノ家ニ王^ノ城ヲ去ルコト百里ヲ、之ヲ遠^ニ郊ト謂フ、遠^ニ郊ノ内ニ六^ノ鄉有リ、六^ノ鄉ノ中ハ五^ノ家ヲ比ト爲ス、五^ノ比ヲ閭ト爲ス、五^ノ閭ヲ旅ト爲ス、五^ノ旅ヲ黨ト爲ス、五^ノ黨ヲ州ト爲ス、五^ノ州ヲ鄉ト爲ス、百^ノ里ノ外ニ百^ノ里ニ至ル、之ヲ六^ノ遂ト謂フ、遂ノ中ハ五^ノ家ヲ鄰ト爲ス、五^ノ鄰ヲ里ト爲ス、四^ノ里ヲ鄙ト爲ス、五^ノ鄙ヲ鄙ト爲ス、五^ノ鄙ヲ縣ト爲ス、五^ノ縣ヲ遂ト爲ス、二^ノ百^ノ里ノ外ニ王^ノ畿ニ至ルマテ、五^ノ百^ノ里ノ内、竝ニ六^ノ遂ノ制ニ同シ、仁トハ、博ク施シ

テ衆ヲ濟フ、言ハ人ノ居宅ハ、必ス仁有ル者ノ里ヲ擇
 フヲ、美ト爲ル所以ナリ、里仁既ニ美ト爲ル則ハ、間
 仁モ亦美ナルコトハ知ヌ可シ、

【注】

鄭玄曰、里者民之所居也、居於仁者之里是爲善、

鄭玄カ曰ク、里ハ民ノ居ル所ソ、仁者ノ里ニ居ル、是レ
 ヲ善シト爲ス、

【疏】

文云美、而注云善者、夫美未必善、故鄭深明居仁者里、必
 是善也、

文ニハ美ト云フ、而ルヲ注ニハ善ト云フコトハ、夫レ美ハ
 必シモ善ナラ未、故ニ鄭深ク仁者ノ里ニ居ルハ、必ス是
 レ善ナルコトヲ明ス、

【經】

擇不處仁、焉得智、

擇テ仁ニ處ラ不、焉ソ智ヲ得ン、

【疏】

中人易染、遇善則善、遇惡則惡、若求居而不擇仁里、而處
 之、則是無智之人、故云焉得智也、

中一人ハ染マリ易シ、善ニ遇フ則ハ善ニ、惡ニ遇フ則ハ惡
 シ、若シ居ヲ求テ仁里ヲ擇テ、之ニ處ラ不シハ、則チ是
 レ無智ノ人ナリ、故ニ云ク焉ソ智ヲ得ンヤ、

【注】

鄭玄曰、求善居而、不處仁者之里、不得爲有智之也、

鄭玄カ曰ク、善キ居ヲ求テ、仁者ノ里ニ處ラ不シハ、智
 有リト爲ルコトヲ得ン、

【疏】

沈居士曰、言所居之里尚以仁地爲美、況擇身所處、而不處
 仁道、安得智乎、

沈居士カ曰ク、言ハ居ル所ノ里、尚ヲ仁地ヲ以美ト
 爲、況ヤ身ノ處ル所ヲ擇テ、仁道ニ處ラ不シハ、安ソ智
 ヲ得ンヤ、

(一) 「旅」、武内本作「族」。

(二) 「旅」、武内本作「族」。

【經】

子曰、不仁者、不可以久處約、

子ノ曰ク、不仁者ハ、久ク約セハセハシキニ處ル可ヘカ不、

【疏】

此明不仁之人、居世無宜也、約猶貧困也、夫君子處貧愈久、德行無變、若不仁之人、久居約則、必斯濫爲盜、故不可久處也、

此レハ不仁ノ人ノ、世ニ居テ宜コト無コトヲ明ス、約ハ貧困ノ猶シ、夫レ君子ハ貧シキニ處ルコト愈久ケレトモ、德行變スルコト無シ、若シ不仁ノ人ハ、久ク約ニ居ル則ハ、必ス斯レ濫シテ盜ヲ爲、故ニ久ク處ル可ラ不、

【注】

孔安國曰、久困則爲非也、

孔安國カ曰ク、久ク困ム則ハ非ヲ爲、

【經】

不可以長處樂也、

長ク樂シキニ處ル可ラ不、

【疏】

樂富貴也、君子富貴愈久、愈好禮不倦、若不仁之人久處富貴、必爲驕溢也、

樂ハ富貴ナリ、君子ハ富貴愈久キトキハ、愈禮ヲ好テ倦マ不、若シ不仁ノ人ハ、久ク富貴ニ處ルトキハ、必驕溢ヲ爲ス、

【注】

孔安國曰、必驕佚也、

孔安國カ曰ク、必ス驕佚ス、

【經】

仁者安仁、

仁者ハ仁ヲ安ンス、

【疏】

辨行仁之中有不同也、若稟性自仁者、則能安仁也、何以驗之、假令行仁獲罪、性仁人、行之不悔、是仁者安仁也、

仁ヲ行フノ中^{うち}同シカラ不ルコト有ルコトヲ辨ス、若シ性ヲ稟^うクルコト自^{よのつから}仁ナル者ハ、則チ能ク仁ヲ安ンス、何ヲ以カ之ヲ^{ココロミ}驗^ミミン(驗サン)、假^{カタトヒ}令仁ヲ行テ罪ヲ獲トモ、性仁ナル人ハ、之ヲ行テ悔ヒ不^ず、是レ仁者ノ仁ヲ安ンスルナリ、

【注】

荀氏曰、唯性仁者、自然體之、故謂安仁也、

荀氏カ曰ク、唯^ち性仁ナル者ハ、自^ち然ニ之ヲ體ス、故ニ仁ヲ安ンスト謂フ、

【經】

智者利仁、

智^ち者ハ仁ヲ利トス、

【疏】

智者謂識昭前境、而非性仁者也、利仁者其見行仁者、若於彼我、皆利、則已行之、若於我、有損則、便停止、是智者利仁也、

智^ち者ハ、前^ち境ヲ識^ち昭シテ、性仁^ち者ニ非ルヲ謂フ、仁ヲ利トストハ、其レ仁ヲ行フ者、若シ彼我ニ於テ、皆利アルヲ見ル則^とハ、己^{おの}之ヲ行フ、若シ我ニ於^{おいて}、損有ル則^とハ、便チ停^ち止ス、是レ智^ち者ハ仁ヲ利スルナリ、

【注】

王肅曰、知者知仁爲美、故利行之也、

王肅カ曰ク、知^ち者ハ仁ノ美爲ルコトヲ知ル、故ニ利トシテ行フ、

(一) 「知」、原本無此字、加点者補之。

【疏】

知仁爲、美而性不體之故、有利乃行之也、

仁ノ美爲ルコトヲ知ル、而シテ性體セ不ルカ故ニ、利有ル

トキハ乃チ之ヲ行フ、

【經】

子曰、唯仁者能好、人能惡人、

子ノ曰ク、唯タ仁者ハ能ク人ヲ好シ、能人ヲ惡ンス、

【疏】

夫仁人不佞、故能言人之好惡、是能好人、能惡人也、雍也、仁而不佞、是也、

夫レ仁人ハ佞セ不^ス、故ニ能ク人ノ好^ヲ惡^ヲ言フ、是レ能ク人ヲ好シ、能ク人ヲ惡スルナリ、雍ハ、仁アリテ佞アラ^ス不トイフ、是ナリ、

【注】

孔安國曰、唯仁者、能審人好惡之也、

孔安國カ曰ク、唯タ仁者ハ、能ク人ノ好^ヲ惡^ヲ審ニ^ス、

【疏】

亦得爲向釋也、又一解云、謂極仁之人也、極仁之人、顏氏

是也、既極仁昭、故能識審他人好惡也、故繆播曰、仁者人之極也、能審好惡之表也、故可以定好惡、若未免好惡之境、何足以明物哉、

亦^{サキ}タ向^ヲノ釋^ヲ爲ルコトヲ得、又一解ニ云ク、仁ヲ極ルノ人ヲ謂フ、仁ヲ極ルノ人ハ、顏氏はナリ、既ニ仁ヲ極メテ昭^{アルカ}ナリ、故ニ能ク他人ノ好^ヲ惡^ヲ識リ審ニス、故ニ繆播カ曰ク、仁ハ人ノ極ナリ、能ク好^ヲ惡^ヲ表ルルヲ(表ヲ)審ニス、故ニ以テ好^ヲ惡^ヲ定ム可シ、若シ未^{イマ}好^ミ惡^ムノ境ヲ免レ未^ナンハ、何ソ物ヲ明ニスルニ足ラン哉、

【經】

子曰苟志於仁矣、無惡也、

子ノ曰ク、苟^{マコト}ニ仁ニ志ストキハ、惡シキコト無シ、

【疏】

苟誠也、言人若、誠能志在於仁則、是爲仁行之勝者、故其餘所行、皆善無惡行也、

苟ハ誠ナリ、言ハ人若シ、誠ニ能ク志^シ仁ニ在ル則ハ、是レ仁ヲ爲ルカ行ノ勝^スレタル者ナリ、故ニ其ノ餘ノ行フ

所、皆善ニシテ惡一行無シ、

【注】

孔安國曰、苟誠也、言誠能志於仁者、則其餘無惡也、

孔安國カ曰ク、苟ハ誠、言ハ誠ニ能ク仁ニ志ス者ハ、其ノ餘ハ惡シキコト無シ、

(一) 「仁」、武内本無此字。

(二) 「無」下、武内本有「復」字。

【經】

子曰、富與貴、是人之所欲也、

子曰ク、富ト貴ト貴キ與ハ、是レ人ノ欲スル所ナリ、

【疏】

富者財多、貴者位高、位高則、身爲他所崇敬、財多則爲他所愛、夫人生則、莫不貪欲此二事、故云是人所欲也、

富ハ財多シ、貴ハ位高シ、位高キ則ハ、身他ノ爲ニ崇敬セ所ル、財多キ則ハ、他ノ爲ニ愛セ所ル、夫レ人生ル

ル則ハ、此ノ二ノ事ヲ貪リ欲セ不トイフコト莫シ、故ニ云ク是レ人ノ欲スル所ナリト、

【經】

不以其道得之、不處也、

其ノ道ヲ以テ得不レハ、處ラ不、

【疏】

然二途、雖是人所貪欲、要當取之以道則、爲可居、若不用道理、而得則不可處也、

然ルニ二途ハ、是レ人ノ貪リ欲スル所ト雖、要メテ(要ス)當ニ之ヲ取ルニ道ヲ以テス當キ則ハ、居ル可シト爲、若シ道理ヲ用ヒ不シテ、得ル則ハ處ル可ラ不、

【注】

孔安國曰、不以其道、得富貴、不處也、

孔安國カ曰ク、其ノ道ヲ以テ富貴ヲ得不レハ、處ラ不

【疏】

不義而富且貴、於我如浮雲、是以君子不處也、

不義ニシテ富ミ且タ貴キハ、我ニ於テ浮ヘル雲ノ如シ、
是ヲ以テ君子ハ處ラズ、

【經】

貧與賤、是人之所惡也、

貧ト賤トハ、是レ人ノ惡ミンスル所ナリ、

【疏】

乏財曰貧、無位曰賤、賤則爲人所欺陵、貧則身困凍餒、此
二事者爲人所憎惡、故云是人之所惡也、

財ニ乏シキヲ貧ト曰ヒ、位無キヲ賤ト曰フ、賤キ則ハ人ノ
爲ニ欺陵セ所ル、貧キ則ハ身凍餒ニ困ム、此ノ二ノ事
ハ、人憎ミ惡ム所ト爲、故云ク是レ人ノ惡ム所ナリ、

【經】

不以其道、得之、不去也、

其ノ道ヲ以テ、得不レハ、去ラズ、

【疏】

若依道理則、有道者、宜富貴、無道者、宜貧賤、則是理之
常道也、今若有道而、身反貧賤、此是不以其道而得也、雖
非我道而招此貧賤、而亦安之、若命不可除去我正道、而更
作非理、邀之、故云不去也、

若シ道一理ニ依ル則ハ、有_レ道ノ者ハ、宜ク富_レ貴ナル_レ宜、
無_レ道ノ者ハ、宜ク貧_レ賤ナル_レ宜キハ、則チ是レ理ノ常ノ_レ
道ナリ、今若シ有_レ道ニシテ、身反テ貧_レ賤ナル_レハ、此レ
ハ_レ是レ其ノ道ヲ以テ得不ルナリ、我カ_レ道而モ此ノ貧賤ヲ
招クニ非ト雖、而モ亦タ之ヲ安ス、命ニ若ツテ我カ
正道ヲ除_レ去シテ、更ニ非理ヲ作シテ、之ヲ邀フ可ラ不、
故ニ云ク去ラ不ト、

【注】

時有否泰、故君子履道、而反貧賤、此即不以其道而得之者
也、雖是人之所惡、不可違而去之也、

時ニ否_レ泰有リ、故ニ君子道ヲ履シテ、反テ貧シク_レ賤シ、
此レ即チ其ノ道ヲ以、得不者ナリ、是レ人ノ惡ニスル所

ト雖モ、違ツテ去ル可へからず不す

【疏】

時有否泰、運有通塞、雖所招非己分、而不可違去我正道也、所以願安貧、不更他方橫求也、

時二否泰有り、運二通塞有り、招ク所己カ分ニ非スト雖モ、我カ正道ヲ違たかふ去ル可へからず不す、所以ニ願ヲ願ハ貧ヲ安シテ、更ニ他方ニ横ニ求メ不す、

【經】

君子去仁惡乎成名、

君一子仁ヲ去テ惡イツクン乎名ヲ成サン、

【疏】

此更明不可去正道、以求富貴也、惡乎猶於何也、言人所以得他人、呼我爲君子者、政由我爲有仁道、故耳、若捨去仁道、傍求富貴、則於何處、更得成君子之名乎、

此レハ更ニ正道ヲ去テ、富貴ヲ求ム可へからざる不すコトヲ明ス、惡一乎ハ於何ノ猶シ、言いふことハ人他人ノ、我ヲ呼テ君一子

ト爲ルコトヲ得ル所ゆまん以ハ、政ニ我仁わし道有ルカ爲ニ由ル、故耳、若シ仁道ヲ捨テ去テ、傍ニ富貴ヲ求メハ、何ノ處ニ於テ、更ニ君一子ノ名ヲ成スコトヲ得ン乎、

【注】

孔安國曰、惡乎成名者、不得成名爲君子也、

孔安國カ曰ク、惡イツクン乎名ヲ成なまントハ、名ヲ成シテ君一子爲ルコトヲ得なま不すルソ、

【經】

君子無終食之閒違仁、

君一子ハ食ヲ終フル間ヒマダモ仁ニ違フ無シ、

【疏】

終食、食間也、仁既不可去、故雖復飲食之間、亦必心無違離於仁也、

食ヲ終ルトハ、食ノ間ナリ、仁ハ既ニ去ル可へからず不す、故ニ復また飲食ノ間ト雖モ、亦必ス心仁ニ違はなヒ離はなコト無シ、

【經】
造次必於是、

造次ニシ必ス是ニ於テス、

【疏】

造次急遽也、是是仁也、言雖復身有急遽之時、亦必心存於仁也、

造次トハ急ニ遽ナルソ、是トハ仁ニ是ソ、言ハ復タ身急ニ遽ナルノ時ニ有ト雖、亦必ス心ハ仁ヲ存ス、

【經】

顛沛必於是、

顛沛ニモ必ス是ニ於テス、

【疏】

顛沛僵仆也、言雖身致僵仆、亦必心不違於仁也、

顛沛トハ僵レ仆スソ、言ハ身僵レ仆ニ致ルト雖モ、亦必ス心ハ仁ニ違ハ不、

【注】
馬融曰、造次急遽也、顛沛僵仆也、

馬融カ曰ク、造次ハ急ヤカニ遽ヤカナルソ、顛沛ハ僵レ仆スソ、

【疏】

猶倒踣也、

倒レ踣ツマツ（踣）クカ猶シ、

【注】

雖急遽僵仆、不違於仁也、

急スミヤカニ遽スミヤカニ僵レ仆スト雖モ、仁ニ違ハ不、

（二）「猶」上、武内本有「僵仆」二字。

【經】

子曰、我未見好仁者、

子ノ曰ク、我未タ見未仁者ヲ好スルモノヲ、

【疏】

歎世衰道喪、仁道絶也、言我未見有一人、見他人行仁、而好之者也、

世衰へ道喪シテ、仁道ノ絶スルコトヲ歎ス、言ハ我未タ一人有テ、他人ノ仁ヲ行フヲ見テ、之ヲ好スル者ヲ見ス、

【經】

惡不仁者、

不仁者ヲ惡スルヲサヘニ、

【疏】

又言、我亦不見一人、雖不能自行仁者、若見他人不仁而已憎惡之者也、故范寧曰、世衰道喪、人無廉恥、見仁者既不好之、見不仁者、亦不惡之、好仁惡不仁、我未覩其人也、

又言ハ、我亦一人、自仁ヲ行コト能ハ不ト雖モ、若シ他人ノ不仁ナルヲ見テ、己之ヲ憎ミ、惡ム者ヲ見不、故ニ范寧カ曰ク、世衰へ道喪シテ、人廉恥無シ、仁者ヲ見テ、既ニ之ヲ好不、不仁者ヲ見モ、亦之ヲ惡マ不、

仁ヲ好シ不仁ヲ惡スルモ、我未タ其ノ一人ヲ覩未、

【經】

好仁者無以尚之、

仁ヲ好スル者ハ尚ウルコト無シ、

【疏】

尚猶加勝也、言若好仁者、則爲德之上、無復德可加勝此也、故李充曰、所好唯仁、無物以尚之也、

尚ハ加勝ノ猶シ、言ハ若シ仁ヲ好スル者ハ、則チ德ノ上爲リ、復タ德ノ此ニ加ヘ勝ス可無シ、故ニ李充カ曰ク、好スル所唯タ仁ナラハ、物之ニ尚ウルコト無ケン、

【注】

孔安國曰、難復加也、

孔安國カ曰ク、復タ加ヘ難シ、

【經】

惡不仁者、其爲仁矣、

不仁者ヲ惡ンスルハ、其レ仁ヲ爲ルナリ、

者無往而不屈也、

【疏】

好仁者、故不可加善、若知惡憎於不仁者、其人亦即是仁、故云其爲仁也、

仁ヲ好スル者ニハ、故ニ善ヲ加フ可_ヘ不_ス、若シ不仁者ヲ惡ミ、憎コトヲ知ラハ、其ノ人亦即チ是レ仁ナリ、故ニ云ク其レ仁ヲ爲ルナリト、

【經】

不使不仁者、加乎其身、

不仁者ヲ使テ、其ノ身ニ加ヘ使メ不_ス、

【疏】

此是惡不仁者之切也、言既能惡於不仁、而身不與親狎、則不仁者、不得以非理不仁之事加陵於己身也、一云、其其於仁者也、言惡不仁之人、雖不好仁、而能惡於不仁者、不欲使不仁之人以非理加於仁者之身也、故季充曰、不仁仁者之賊也、奚不惡不仁哉、惡其害仁也、是以、爲惜仁人之篤者、不使不仁人加乎仁者之身、然後仁道無適而不申、不仁

此ハ是レ不仁者ヲ惡ムノ切ナリ、言ハ既ニ能ク不仁ヲ惡テ、身與ニ親狎セ不_スハ、則チ不仁者、非理、不仁ノ事ヲ以、己カ身ニ加ヘ陵コトヲ得_ス不_ス、一ニ云ク、其トハ仁者ニ其ソ、言ハ不仁ノ人ヲ惡ム、仁ヲ好セ不ト雖、能ク不仁者ヲ惡テ、不仁ノ人ヲ使テ、非理ヲ以仁者ノ身ニ加ヘ使_シ欲_ス不_ス、故ニ季充カ曰ク、不仁ハ仁者ノ賊ナリ、奚ソ不仁ヲ惡マ不_ス哉、其ノ仁ヲ害コトヲ惡テナリ、是ヲ以テ、仁人ヲ惜コトヲ爲スノ篤キ者ハ、不仁ノ人ヲ使テ、仁者ノ身ニ加ヘ使メ不_ス、然シテ、後仁道ハ適クトシテ申ヒ不トイフコト無シ、不仁者ハ往トシテ屈セ不トイフコト無シ、

【注】

孔安國曰、言惡不仁者、能使不仁者、不加非義於己不如好仁者、無以加尙爲之優也、

孔安國カ曰ク、言ハ不仁者ヲ惡シテ、能不仁者ヲ使テ、非義ヲ己ニ加ヘ不_ラ使ム、仁ヲ好スル者ノ、以テ加ヘ尙ルコト無キカ、優レリト爲ルニ如カ不_ス、

【疏】
如前解也、

前ノ解ノ如シ、

【經】
有能一日用其力於仁矣乎、我未見力不足者、

能ク一_レ日モ其ノ力ヲ仁ニ用ルモノ有リヤ、我レ未_レタ見_ス未_ス力ノ足ラ不_ル者ヲ、

【疏】
又歎世無有一日、能行仁者也、言人何意不行仁乎、若有一日行仁、而力不足者、我未見有此人也、言只故不行耳、若行之則、力必足也、

又世ニ一_レ日モ、能ク仁ヲ行フ者有ルコト無_{コト}ヲ歎ス、言ハ人何ノ意_ニソ仁ヲ行ハ不_ル乎、若シ一_レ日モ仁ヲ行テ、力ノ足ラ不_ル者有ルコト、我_レ此ノ_レ人有_{コト}ヲ見_未、言ハ只_レ故_ニ行ハ不_ル耳、若シ之ヲ行ハハ、力必_ス足_タナン、

【注】
孔安國曰、言人無能一日用其力修仁者耳、我未見欲爲仁、而力不足者也、

孔安國カ曰ク、言ハ人能ク一_レ日モ其ノ力ヲ用テ仁ヲ修ムル者ノ無カラマク耳、我レ未_レタ見_未仁ヲ爲_セマク欲_ハシテ、力ノ足ラ不_ル者ヲ、

【經】
蓋有之乎、我未之見也、

蓋シ之レ有ラン、我未_レタ見_未、

【疏】
孔子既言無有、復恐爲頓誣於世、故追解之云、世中蓋亦、當有一日行仁者、特是自未嘗聞見耳、

孔子既_ニ言_ク有_ルコト無_シト、復恐_ラクハ頓_ニ世_ヲ誣_シユルト爲_シンコトヲ、故_ニ追_テ之_ヲ解_キ云_ク、世_ノ中_ニ蓋_シ亦、一_レ日モ仁ヲ行フ者有_ル當_シ、特_ニ是_レ自_未嘗_テ聞_見セ_未ル耳、

【注】

孔安國曰、謙不欲盡誣時人、言不能爲仁、故云、爲仁能有耳、我未之見也、

孔安國カ曰ク、謙シテ盡ク時ノ人ヲ誣イテ、仁ヲ爲ルコト能ハ不ト言ハマク欲不、故ニ云ク、仁ヲ爲ルコト能ク有ラン耳、其レ我未タ見未ト、

【疏】

誣猶調也、世有、而我云無、是爲調也、君子可欺不可調、故云蓋有之、

誣ハ調ノ猶シ、世ニ有ラン、而ルヲ我レ無シト云フコトハ、是レ調ト爲ン、君一子ハ欺ク可ク、調フ可不、故ニ云ク蓋シ之レ有ラン、

(一) 「也」、武内本無此字。

(二) 「切」、武内本作「功」。

(三) 「之一下」、武内本有「也」字。

【經】

子曰、民之過也、各於其黨、

子ノ曰ク、民ノ過ハ（過ハ）、各其ノ黨ニ於テス、

【疏】

過猶失也、黨類也、人之有失、各有黨類、小人不能爲君子之行、則非小人之失也、猶如耕夫不能耕、乃是其失、若不能書、則非耕夫之失也、若責之、當就其輩類責也、

過ハ失ノ猶シ、黨ハ類ナリ、人ノ失有ル、各黨類有リ、小一人君一子ノ行ヲ爲ルコト能ハ不ルハ、小一人ノ失ニ非シ猶シ耕一夫耕スコト能ハ不ルハ、乃チ是レ其ノ失ナリ、若シ書スルコト能ハ不ルハ、耕一夫ノ失ニ非ルカ如シ、若シ之ヲ責メハ、當ニ其ノ輩類ニ就テ責ム當、

【經】

觀過斯知仁矣、

過ヲ觀テンハ斯ニ仁ヲ知ル、

【疏】

若觀人之過、能隨類而責、不求備一人、則知此觀過之人、有仁心人也、若非類而責、是不仁人、故云觀過斯知仁矣、

若シ人ノ過ヲ觀テハ、能ク類ニ隨テ責ム、一人ニ備コトヲ求メ不^スンハ、則チ此レ過ヲ觀ル人、仁^ト心有ル人ト知ラン、若シ類ニ非^{ラス}シテ責ムルハ、是レ不^レ仁ノ人ナリ、故ニ云ク過ヲ觀テ斯ニ仁ヲ知ル、

【注】

孔安國曰、黨黨類也、小人不能爲君子之行、非小人之過也、當恕而無責之、觀過使賢愚、各當其所則、爲仁也、

孔安國カ曰ク、黨ハ黨^ト類^トソ、小^ト人^トノ君^ト子^トノ行^ヲ爲^ルコト能^ハ不^ルハ、小^ト人^トノ過^ニ非^ス、當^ニ恕^テ責^ムルコト無^クル當^シ、過^ヲ觀^テ賢^ヲ愚^ヲ使^テ、各^々其^ノ所^ニ當^ラ使^ムル則^ハ、仁^ト爲^ス、

【疏】

殷仲堪解少異於此、殷曰、言人之過失各由於性類之不同、直者以改邪爲義、失在於寡恕、仁者以惻隱爲誠、過在於容非、是以與仁同過、其仁可知、觀過之義、將在於斯者、

殷仲堪力解ハ少シ此レニ異ナリ、殷カ曰ク、言ハ人ノ過^ト失^ト、各^々性^ト類^トノ同^クラ不^ルニ由^ル、直^ト者^ハ邪^ヲ改^ムル以^テ義^ト爲^ス、失^ハ怒^リ寡^キニ在^リ、仁^ト者^ハ惻^レ隱^ヲ以^テ誠

ト爲^ス、過^ハ非^ヲ容^ルルニ在^リ、是^ヲ以^テ仁^ト與^過ヲ同^ス、其^ノ仁^知又^可シ、過^ヲ觀^ルノ義、將^ニ斯^ニ在^ラント將^ル者^{ナリ}、

(一) 「少」、武内本作「小」。

(二) 「斯者」下、武内本有「也」字。

【經】

子曰、朝聞道、夕死可矣、

子ノ曰ク、朝^ニ道^ヲ聞^テンハ(聞^カシメ^テンハ)、夕^ニ死^スストモ可^{ナリ}、

【疏】

歎世無道、故言設使朝聞世有道、則夕死無恨、故云可矣、樂肇曰、道所以濟民、聖人存身、爲行道也、濟民以道、非爲濟身也、故云誠令道朝聞於世、雖夕死可也、傷道不行、且明己憂世不爲身也、

世^ノ無^レ道^ヲ歎^ス、故^ニ言^ク設^テ使^朝ニ世^ノ有^レ道^ヲ聞^テンハ、夕^ニ死^スストモ恨^ミ無^{ケン}、故^ニ云^ク可^{ナリ}ト、樂肇カ曰ク、道^ハ民^ヲ濟^フ所^以ナリ、聖^ト人^ノ身^ヲ存^{コト}ト、

道ヲ行カ爲ナリ、民ヲ濟ニ道ヲ以ス、身ヲ濟ハント爲ルニ非、故ニ云ク誠ニ道ヲ令テ朝ニ世ニ聞カ令メテンハ、夕ニ死スト雖モ可ナリ、道ノ行ハレ不コトヲ傷ム、且タ己世ヲ憂ルコト身ノ爲ニセ不コトヲ明ス、

【注】

言將至死、不聞世之有道也、

言ハ將ニ死ニ至ント將ルマテニ、世ノ道有ルコトヲ聞カ不、

(一) 「設」、武内本作「假」。

【經】

子曰、士志於道、而恥惡衣惡食者未足與議也、

子ノ曰ク、士道ニ志シテ、惡衣惡食ヲ恥ルハ、未タ與ニ議ルニ足ラ未、

【疏】

若欲志於道而耻惡衣惡食者、此則是無志之人、故不足與共謀議於道也、一云、不可與其共行仁義也、李充曰、夫貴形

骸之内者、則忘其形骸之外矣、是以昔之有道者、有爲者、乃使家人忘其貧、王公忘其榮、而況於衣食也、

若シ道ニ志サント欲シテ惡衣惡食ヲ耻チン者ハ、此レ則チ是レ志無キノ人ナリ、故ニ與ニ共ニ道ヲ謀リ議ルニ足ラ不、一ニ云ク、其レ與共ニ仁義ヲ行フ可ラ不、李充カ曰ク、夫レ形骸ノ内ヲ貴フ者ハ、其ノ形骸ノ外ヲ忘ル、是ヲ以テ昔ノ有道人者、有爲ノ(爲ルコト有ル)者ハ、家人ヲ使其ノ貧ヲ忘レ使、王公ヲシテ其ノ榮ヲ忘レシム、而ルヲ況ヤ衣食ニ於テヤヤ、

【經】

子曰、君子之於天下也、無適也、無莫也、義之與比也、

子ノ曰ク、君一子ノ天下ニ於ケルコト、適ルコトモ無ク、莫ルコトモ無シ、義ト與ニ比ス、

【疏】

范寧曰、適莫猶厚薄也、比親也、君子與人無有偏頗厚薄、唯仁義是親也、

范寧カ曰ク、適一莫ハ厚薄ノ猶シ、比ハ親ナリ也、君一子

ハ人與偏^ト頗厚^ト薄有ルコト無シ、唯夕仁^ト義^ト是レ親ス、

【注】

言君子之於天下、無適無莫、無所貪慕也唯義之所在、

言ハ君子ノ天下ニ於ケルコト、適コトモ無ク莫コトモ無シトハ、貪リ慕フ所無ク、唯夕義ノ在ル所ノママナリ、

(一) 「與」、武内本無此字、

【經】

子曰、君子懷德、

子ノ曰ク、君子ハ德ヲ懷^{ヤス}ンス、

【疏】

懷安也、君子身之所安、安安於有德之事、

懷ハ安、君子ハ身ノ安ニスル所ナリ、安トハ有^レ德ノ事ヲ安ニス、

【注】

孔安國曰、懷安也、

孔安國カ曰ク、懷ハ安、

【經】

小人懷土、

小人ハ土ヲ懷^{ヤス}ンス、

【疏】

小人不貴於德、唯安於鄉土、不期利害、是以安不能遷也、

小人ハ德ヲ貴ハ^ズ不^ズ、唯夕郷土ヲ安シテ、利害ヲ期セ^ズ不^ズ、是ヲ以安シテ遷ルコト能ハ^ズ不^ズ、

【注】

孔安國曰、重遷也、

孔安國カ曰ク、遷テンコトヲ重ニス、

【疏】

重猶難也、以遷徒爲難、不慕勝而數遷也、一云、君子者人君也、小人者民下也、上之化下、如風靡草、君若化民安德則、下民安其土、所以不遷也、故李充曰、凡言君子者、德足軌物、義兼君人、不唯獨善而已也、言小人者、向化從風、博通下民、不但反是之謂也、故曰、君子之德風、小人之德草也、此言乎、導之以德者、則民安其居而樂其俗、隣國相望、而不相與往來、化之至也、是以大王在岐、下輦成都、仁政感民、猛虎弗避、鍾儀懷土、而謂之君子、然則民之君子、君之小人也、斯言例也、

重ハ難ノ猶シ、遷リ^{ウツ}徒ルヲ以テ難シト爲、勝^{マギ}レルヲ慕テ^{シハハ}數^{シハハ}遷ラ不、一ニ云ク、君^イ子トハ人^イ君ナリ、小人トハ民^イ下ナリ、上ノ下ヲ化スルコト、風ノ草ヲ靡カスカ如シ、君^イ若シ民^イヲ化シ德ヲ安ル則ハ、下^イ民其ノ土ヲ安ス、遷ラ不^スル所以ナリ、故ニ李充カ曰ク、凡ソ君^イ子ト言ハ、德物ニ軌タルニ足リ、義人ニ君タルヲ兼ヌ、唯タ獨リ善ナル而已^スニ不、小人ト言フハ、化ニ向ヒ風ニ從テ、博ク下^イ民ニ通ス、但タ是ニ^イ反スルコトノ謂ニ不、故ニ曰ク、君^イ子ノ德ハ風ナリ、小人ノ德ハ草ナリ、此^イ言（小人ノ德ハ草トハ、此ノ言乎）、之ヲ導クニ德ヲ以スル者ハ、則チ民其ノ^イ居ヲ安シテ、其ノ俗ヲ樂ム、隣國相^イ望テ、相ヒ

與ニ往^イ來セ不、化ノ至ナリ、是ヲ^イ以大王岐ニ在テ、輦ヨ

リ下レハ都ト成ル、仁^イ政ノ民ヲ感コト、猛虎ヲモ避ケ弗、鍾儀土ヲ懷ス、而ルヲ之ヲ君^イ子ト謂フ、然ラハ則チ民ノ君^イ子ハ、君ノ小人ナリ、斯ノ言ノ例ナリ、

【經】

君子懷刑、

君^イ子ハ刑ヲ懷ンス、

【疏】

刑法也、言君子之人安於法則也、

刑ハ法ナリ、言ハ君^イ子ノ人ハ法則ヲ安スルナリ、

【注】

孔安國曰、安於法、小人懷惠、

孔安國カ曰ク、法ヲ安ス、小人ハ惠ヲ懷ンス、

【疏】

惠恩惠利人也、小人不安法、唯知安利惠也、又一云、人君

若安於刑辟則、民下懷利惠也、故李充曰、齊之以刑則、民惠利矣、夫以刑制物者、刑勝則民離、以利望上者、利極則生叛也、

惠ハ恩ト惠人ヲ利スルナリ、小一人ハ法ヲ安ンセ不、唯タ利ト惠ヲ安コトヲ知ル、又一ニ云ク、人君若シ刑ト辟ヲ安スル則ハ、民ト下利惠ヲ懷ンス、故ニ李充カ曰ク、之ヲ齊ルニ刑ヲ以スル則ハ、民惠ト利トス、夫レ刑ヲ以物ヲ制スル者、刑勝ツ則ハ民離ル、利ヲ以上ヲ望ム者、利ト極ル則ハ叛トヲ生ス、

【注】

荀氏曰、惠恩惠也、

荀氏カ曰ク、惠ハ恩ト惠ト、

- (一) 「安」、武内本無此字。
- (二) 「徒」、武内本作「徒」。
- (三) 「乎」、武内本作「君」。
- (四) 「者」、武内本無此字。
- (五) 「言」下、武内本有「言」字。

【經】
子曰、放於利而行、

子ノ曰ク、利ニ放テ行フトキハ、

【疏】

放依也、謂每事依財利、而行者也、

放ハ依ナリ、謂ル事毎ニ財利ニ依テ、行フ者ナリ、

【注】

孔安國曰、放依也、每事依利、而行之者、

孔安國カ曰ク、放ハ依、事毎ニ利ニ依テ、行ソ、

【經】

多怨、

怨ミ多シ、

【疏】

若依利而行者、則爲怨府、故云多怨、

若シ利ニ依テ行フ者ハ、則チ怨_レ府ヲ爲ス、故ニ怨多シト云フ、

【注】

孔安國曰、取怨之道也、

孔安國カ曰ク、怨ヲ取ルノ道ソ、

(一) 「者」下、武内本有「也」字。

【經】

子曰、能以禮讓、爲國乎何有、

子ノ曰ク、能ク禮_レ讓ヲ以テ、國ヲ爲メハ何ンカ有ラン、

【疏】

爲猶治也、言人君能用禮讓、以治國則、於國事不難、故云何有、言其易也、故江熙曰、范宣子讓、其下皆讓之、人懷讓心則治國易也、

爲ハ治ノ猶シ、言ハ人君能ク禮_レ讓ヲ用テ、國ヲ治ムル則ハ、國事ニ於テ難カラ不_レ、故ニ何ンカ有ラント云

フ、言ハ其レ易シ故ニ、江熙カ曰ク、范宣子讓ル、其ノ下モ皆ナ之ヲ讓ル、人讓_レ心ヲ懷ク、則ハ國ヲ治ムルコト易シ、

【注】

何有者、言不難之也、

何カ有ントハ、言ハ難カラルルヲ、

【經】

不能以禮讓、爲國、如禮何、

禮_レ讓ヲ以テ、國ヲ爲ムルコト能ハ_レ不_レンハ、禮ヲ如何_ニ

【疏】

若昏闇之君、不用禮讓、以治國則、如治國之禮何、故江熙曰、不能以禮讓、則下有爭心、錐刀之末、將盡爭之、唯利是恤、何遑言禮也、

若シ昏闇ノ君、禮_レ讓ヲ用テ、以テ國ヲ治メ_レ不_レンハ、國ヲ治ムルノ禮ヲ如何_ニ、故ニ江熙カ曰ク、禮_レ讓ヲ以テスルト能ハ_レ不_レンハ、下モ爭_レ心有ラン、錐_レ刀ノ末マテニ、將ニ

盡ニ之ヲ 争あらそはント將ス、唯夕利是ヲ 恤ム(恤ム)、何ノ
違イトツキカ禮ヲ言ハヒン、

【注】

荀氏曰、如禮何者、言不能用禮也

荀氏カ曰ク、禮ヲ如何トハ、言ハ禮ヲ用ルコト能ハ不
(不)、

(一) 「不」下、武内本有「爲」字。

【經】

子曰、不患無位、患所以立、

子ノ曰ク、位無コトヲ患ヘ不レ、立たン所ゆゑん以んヲ患ヘヨ、

【疏】

時多患無爵位、故孔子抑之也、言何患無位、但患己才闇無
德、以處立於位耳、

時ニ多ク爵位無コトヲ患フ、故ニ孔子之ヲ抑フ、言ハ何
ソ位無コトヲ患シ、但ニ己才闇ク德無クシテ、以テ位

ニ處リ立ンコトヲ患ヘヨ、

【經】

不患莫己知也、求爲可知也、

己ヲ知ルコト莫なコトヲ患ヘ不レ、求メテ知ヌ可ヘキコトヲ
爲セヨ、

【疏】

又言、若有才伎、則不患人不見知也、故云、不患莫己知
也、若欲得人見知、唯當先學才伎、使足人知、故云求爲可
知也、

又言ク、若シ才伎有ラハ、則チ人ニ知ラ見ルコトヲ患
ヘ不、故ニ云ク、己ヲ知ルコト莫コトヲ患ヘ不レト、
若シ人ニ知見ンコト得ンコトヲ欲ハ、唯夕當先ツ學テ才
伎、ラ人ノ知ルニ足ラ使ム當シ、故ニ云ク求メテ知ンヌ
可コトヲ爲ヨト、

【注】

荀氏曰、求善道而孝行之則、人知己也、

荀氏カ曰ク、善道ヲ求メテ之ヲ學ニ行フ則ハ、人已ヲ知ル、

會、故得其歸、事雖殷大、可以一名舉總其會、理雖博、可以至約窮也、譬猶以君御民、執一統衆之道也、

【經】

子曰參乎、

子ノ曰ク參、
のたまは

【疏】

呼曾子名、欲語之、參曾子名也、

曾子カ名ヲ呼テ、之ヲ語ント欲、
かたから 參ハ曾子カ名ナリ、

【經】

吾道一以貫之哉、

吾カ道ハ一以テ貫セリ、
これをも

【疏】

所語曾子之言也、道者孔子之道也、貫猶統也、譬如以繩穿物、有貫統也、孔子語曾子曰、吾教化之道、唯用一道、以貫統天下萬理也、故王弼曰、貫猶統也、夫事有歸、理有

曾子ニ語ル所ノ言ナリ、道トハ孔子ノ道ナリ、貫ハ統ノ猶シ、譬ハ繩ヲ以物ヲ穿テ、貫統スルコト有カ如シ、孔子曾子ニ語テ曰ク、吾カ教化ノ道、唯タ一_ノ道ヲ用テ天下ノ萬_ノ理ヲ貫統ス、故ニ王弼カ曰ク、貫ハ統ノ猶シ、夫レ事ニ歸スルコト有リ、理ニ會フコト有リ、故ニ其ノ歸スルコトヲ得ルトキハ、事殷シニ_一大ト雖、一_ノ名ヲ以、擧ク可シ、其_ノ會フコトヲ摠フルトキハ、理博シト雖、至_一約ヲ以窮ム可シ、譬ハ君ヲ以テ民ヲ御ムルカ猶シ、一ヲ執テ衆ヲ統ルノ道ナリ、

【經】

曾子曰唯、

曾子カ曰ク唯、
イ

【疏】

唯猶今應爾也、曾子曉孔子言、故直應爾而已、不諮問也、唯ハ今ノ應_一爾ノ猶シ、曾子孔子ノ言ヲ曉ル、故ニ直_二應_一

爾スル而「已」、諮「問セ」（諮イ問ハ）不、

【注】

孔安國曰、直曉不問、故答曰唯也、

孔安國カ曰ク、直^{クタ}二「曉^{サトリ}テ問ハ不、故ニ答テ唯ト曰フ、

【經】

子出、

子出テヌ、

【疏】

當是孔子往曾子處、得曾子答竟後、而孔子出戶去、

當ニ是レ孔子曾子カ處ニ往ク當シ、曾子カ答ヲ得竟テ後、
而シテ孔子戸ヲ出テ去ル、

【經】

門人問曰、何謂也、

門人問テ曰ク、何ント「謂フコトヲヤ、

【疏】

門人、曾子弟子也、不解孔子之言、故問於曾子也、

門人トハ、曾子カ弟子ナリ、孔子ノ言ヲ解^{サト}ラ不、故ニ曾
子ニ問フ、

【經】

曾子曰、夫子之道忠恕而已、矣、

曾子カ曰ク、夫子ノ道ハ忠「恕マク而」已、

【疏】

曾子答弟子也、釋於孔子之道也、忠謂盡忠心也、恕謂付
我、以度於人也、言孔子之道、更無他法、政用忠恕之心、
以己測物則、萬物之理、皆可窮驗也、故王弼曰、忠者情之
盡也、恕者反情以同物者也、未有反諸其身、而不得物之
情、未有能全其恕、而不盡理之極也、能盡理極則、無物不
統、極不可二、故謂之一也、推身統物窮類、適盡一言、而
可終身行者、其唯恕也、

曾子弟子ニ答テ、孔子ノ道ヲ釋ク、忠ハ忠「心ヲ盡スヲ謂
フ、恕ハ我ヲ付^{ハカツ}テ、人ヲ度ルヲ謂フ、言^{いふこと}ハ孔子ノ道

ハ、更ニ他ノ法無シ、政ニ忠一恕ノ心ヲ用テ、己ヲ以テ物ヲ測ル則ハ、萬一物ノ理、皆窮シテ驗ム可シ、故ニ王弼カ曰ク、忠ハ情ノ盡ナリ、恕ハ情ニ反テ物ニ同シキ者ナリ、未タ其ノ身ニ反テ、物ノ情ヲ得不トイフコト有ラ未、未タ能ク其ノ恕ヲ全シテ、理ノ極ヲ盡サ不トイフコト有ラ未、能ク理ノ極ヲ盡ス則ハ、物ノ統ヘ不トイフコト無シ、極ニアル可不、故ニ之ヲ一ト謂フ、身ヲ推シテ物ヲ統ヘ類ヲ窮ム、適ニ一と言ヲ盡シテ、身ヲ終マテ行フ可キ者ハ、其レ唯タ恕ナリ、

【經】

子曰、君子喩於義、小人喩於利、

子ノ曰ク、君子ハ義ニ喩ル、小人利ニ喩ル、

【疏】

喩曉也、君子所曉於仁義、小人所曉於財利、故范寧曰、棄貨利、而曉仁義則、爲君子、曉貨利、而棄仁義則、爲小人、

喩ハ曉ナリ、君子ノ曉ル所ハ仁義ニ於テス、小人ノ曉ル所ハ財利ニ於テス、故范寧カ曰ク、貨利ヲ棄テテ曉ル仁義ニ則ハ、君子ト爲、貨利ヲ曉テ、仁義ヲ棄ル則

ハ、小人ト爲、

【注】

孔安國曰、喩猶曉也、

孔安國カ曰ク、喩ハ曉ノ猶シ、

(一) 「於」、武内本無此字。

【注】

子曰、見賢思齊焉、

子ノ曰ク、賢ヲ見テハ齊カランカラ思フ、

【疏】

言人若見賢者、當自思修礪、願與之齊等也、

言ハ人若シ賢者ヲ見テハ、當ニ自思テ修シ礪マシテ、之與齊ク等ランコトヲ願フ當シト、

【注】

荀氏曰、思與賢者等也、

荀氏カ曰ク、賢者與等ランコトヲ思フ、

【經】

見不賢者、而内自省也、

不賢者ヲ見テハ、内ニ自省ミル、

【疏】

省視也、若見人不賢者、則我更自視我心内從來所行、無此事不也、故范寧曰、顧探諸己謂之内省也、

省ハ視ナリ、若シ人ノ不賢ナルヲ見テハ、則チ我更ニ自我心ノ内ニ從來行フ所、此ノ事無シヤ不ヤト視ル、故ニ范寧カ曰、顧テ己ニ探ル、之ヲ内ニ省ルト謂フ、

(一) 「自」、武内本無此字。

【經】

子曰、事父母幾諫、

子ノ曰ク、父一母ニ事ツルニハ幾ニ諫ム、

【疏】

幾微也、子事父母、義至恭從、父母若有過失、則子不獲不致極而諫、雖復致諫、猶當微納進善言、不使領領也、此章下四章明孝、

幾ハ微ナリ、子トシテ父一母ニ事ルニ、義恭一從ヲ至トス、父一母若シ過一失有ル、則ハ子獲ニ致シ一極メテ諫メ不^スハ不^ス、復致シ一諫ムルト雖モ、猶ヲ當ニ微^ニ微^ニ善^一言^ヲ納^レ進^ム當、領^々使^メ不、此ノ章ヨリ下四章孝ヲ明^スナリ、

【注】

荀氏曰、幾微也、言當微諫納善言於父母也、

荀氏カ曰ク、幾ハ微、言ハ當ニ微クニ諫メテ善^一言^ヲ父一母ニ納ル當シ、

【經】

見志不從、又敬而以不違、

志ヲ見ルニ從ハ不キトキハ、又夕敬シテ違ハ不^ス、

【疏】

雖許有諫、若見父母志、不從己諫則、己仍起敬起孝、且不違距於父母之志也、待父母悅、乃更諫也、故禮記云、父母有過、下氣柔聲、怡色以諫、諫若不入、起敬起孝、悅則復諫是也、

諫有ルコトヲ許スト雖モ、若シ父ノ志ヲ見ルニ、己カ諫ニ從ハ不マシキ則ハ、己仍テ起ニ敬シ起ニ孝ス、且タ父ノ志ニ違イ距キ不、父ノ母ノ悅ヲ待テ、乃シ更ニ諫ム、故ニ禮記ニ云ク、父ノ母過テ有ルトキハ、氣ヲ下シ聲ヲ柔ケ、色ヲ怡シメテ以テ諫ム、諫若シ入レラレ不ルトキハ、起ニ敬シ起ニ孝ス、悅フ則ハ復タ諫ムトイフ是ナリ、

【經】

勞而不怨、

勞スレトモ怨ミ不、

【疏】

若諫又不從、或至十至百則、己不敢辭己之勞以怨於親也、故禮記云、雖撻之流血、不敢疾怨是也、

若シ諫テ又タ從ハ不ルコト、或ハ十二至リ百ニ至ル則ハ、己敢テ己カ勞ヲ辭シテ親ヲ怨ミ不、故ニ禮記ニ云ク、之ヲ撻テ血ヲ流スト雖モ、敢テ疾ミ怨ミ不トイフ是ナリ、

【注】

荀氏曰、見志者、見父母志、有不從己諫之色則、又當恭敬不敢違父母意、而遂己之諫也、

荀氏カ曰ク、志ヲ見トハ、父ノ母ノ志ヲ見ルニ、己カ諫ニ從ハマ不キノ色有ル則ハ、又當ニ恭敬シテ敢テ父ノ母ノ意ニ違ハ不シテ、己カ諫ヲ遂ク當シ、

【疏】

然夫諫之爲義、義在愛惜、既在三事同、君親宜一、若有不善、俱宜致諫、今就經記、參差有出沒、難解、案檀弓云、事親有隱無犯、事君有犯無隱、則是隱親之失、不諫親之過、又諫君之失、不隱君之過、竝爲可疑、舊通云、君親竝諫同、見孝經、微進善言、俱陳記傳、故此云事父母幾諫、而曲禮云、爲人臣者、不顯諫、鄭玄曰、合幾微諫也、是知竝宜微諫也、又若君親爲過、大甚則、亦不得不極於犯顏、故孝經曰、父有爭子、君有爭臣、又內則云、子之事親也、

三諫不從則、號泣而隨之、又云臣之事君、三諫不從則、逃之、以經就記竝是極犯時也、而檀弓所言、欲顯眞假本異、故其旨不同耳、何者父子眞屬天、性莫二、豈父有罪、子向他說也、故孔子曰、子爲父隱、父爲子隱、直在其中、故云有隱也、而君臣既義合、有殊天然、若言君之過、於政有益則、不得不言、如齊晏嬰與晉叔向、共言齊晉二君之過是也、唯值有益、乃言之、示不恆爲口實、若言之無益則、隱也、如孔子答陳司敗曰、昭公知禮是也、假使與他言父過、有益亦不得言、或問曰、春秋晉魏戊告於閻沒汝寬、言父之過、此豈不亦言乎、答春秋之書、非復常準、苟取權宜、不得格於正理也、又父子天性義主恭從、所以言無犯、是其本也、而君臣假合、義主匡弼、故云有犯、亦其本也、乃其俱宜有犯微著事同、是其具如向釋、又在三有師、檀弓云、事師無犯無隱、所以然者、師常居明德、無可隱、無可隱故、亦無犯也、

然ルニ夫レ諫ノ義爲タルコト、義愛惜ニ在リ、既ニ三ニ在テ事^{あり}同シ、君^{よろしくいさ}親宜ク一ナル宜シ、若シ不^{あり}善有ラハ、俱ニ宜^{よろしくいさ}諫ヲ致ス宜シ、今經記ニ就ケハ、參差トシテ出^{あり}沒有リ、解シ難シ、檀弓ヲ案スルニ云ク、親ニ事^{つかへま}ルコト隱スコト有リ犯コト無シ、君ニ事^{つかへま}コト犯スコト有リ隱スコト無トイフ、則ハ是レ親ノ失ヲハ隱シ、親ノ過ヲハ

諫メ不^ス、又君ノ失ヲハ諫メ、君ノ過ヲハ隱サ不^ス、竝ニ疑フ可シト爲^ス、舊^ス通ニ云ク、君^{ヤフヤク}親竝ニ諫ムルコト同シ、孝經ヲ見ルニ、微^{ヤフヤク}ニ善^{ヤフヤク}一言ヲ進ム、俱ニ記^{ヤフヤク}傳ニ陳^{ヤフヤク}ス、故ニ此ニ父^{ヤフヤク}母^{ヤフヤク}ニ事^{ヤフヤク}ルニ幾^{ヤフヤク}ニ諫ト云フ、而ルニ曲禮ニ云ク、人^{ヤフヤク}臣爲ル者ハ、顯ニ諫メ不^ス、鄭玄カ曰ク、幾^{ヤフヤク}ニ^{ヤフヤク}微^{ヤフヤク}ニ諫ム合シト、是レ知又竝ニ宜ク微^{ヤフヤク}ニ諫ム宜^{ヤフヤク}、又若シ君^{ヤフヤク}親過ヲ爲ルコト、大ニ甚シキ則ハ、亦夕顔ヲ犯コトヲ極メ不^スコトヲ得不^ス、故ニ孝經ニ曰ク、父ニ爭フ子有リ、君ニ爭フ臣有リ、又内則ニ云ク、子ノ親ニ事^{つかへま}コト、三タヒ^{いさめ}諫テ從ハ不^スル則ハ、號泣シテ之ニ隨フ、又タ云ク臣ノ君ニ事^{つかへま}コト、三ヒ^{また}諫テ從ハ不^スル則ハ、之ヲ逃ル、經ヲ以テ記ニ就クニ竝ニ是レ犯コトヲ極ル時ナリ、而ルニ檀弓ニ言フ所ハ、眞^{イカトナレハ}假本ト異コトヲ顯ント欲ス、故ニ其ノ旨同カ不^スル耳、何^ヒ者父^{イカトナレハ}子ハ眞ニ天ニ屬ス、性ニツ莫シ、豈ニ父ノ罪有トキニ、子他ニ向テ説ンヤ、故ニ孔子ノ曰ク、子ハ父ノ爲ニ隱シ、父ハ子ノ爲ニ隱ス、直キコト其ノ中ニ在リ、故ニ隱スコト有ト云フ、君^{ヤフヤク}臣ハ既ニ義トシテ合フ^ア(義ヲ以テ合フ)、天^{タカ}然ニ殊コト有リ、若シ君ノ過ヲ言テ、政ニ於テ益有ル則ハ、言ハ不^スルコトヲ得不^ス、齊ノ晏嬰ト晉ノ叔向與、共ニ齊晉二君ノ過ヲ言フカ如キ是ナリ、唯夕益有ルニ値ハハ、乃子之ヲ言フ、恆ニ口^{ツネ}實ト爲^セ不^スコトヲ示ス、若シ之ヲ言テ益無キ

則ハ、隱ス、孔子陳司敗ニ答テ曰ク、昭公知レリトイフ

カ如キ禮ヲ是ナリ、假使他與父ノ過ヲ言テ、益有トモ亦

言コトヲ得不、或ヒト問テ曰ク、春秋ニ晉ノ魏戊閻沒汝寬

ニ告テ、父ノ過ヲ言フ、此レ豈ニ亦タ言ハ不シヤ乎、答フ

春秋ノ書、復タ常ノ準ニ非ス、苟ニ權宜ヲ取テ、正理

ニ格ルコトヲ得不、又タ父子ハ天性義恭從ヲ主トス、

所以ニ犯スコト無シト言、是レ其ノ本ナリ、而ルニ君臣

ハ假ニ合フ、義匡弼ヲ（匡シ弼ク）主トス、故ニ犯スコ

ト有リト云フ、亦タ其ノ本ナリ、乃チ其レ俱ニ宜ク犯スコ

ト微ニスルコト有ル宜キコト事同コトヲ著ス、是レ

其レ俱ニ向ノ釋ノ如シ、又三ニ在トハ師有リ、檀弓ニ云

ク、師ニ事コト犯スコトモ無シ隱スコトモ無シ、然ル

所^{ゆまん}以ハ、師ハ常ニ明德ニ居テ、隱ス可キコト無シ、隱ス

可コト無キカ故ニ、亦タ犯スコト無シ、

(八) 「具」、武内本作「俱」。

【經】

子曰、父母在、子不遠遊、遊必有方、

子ノ曰ク、父^フ母^モ在^ス、父^フ母^モ在^ストキハ、子^コ遠^ク遊^ハ不^ス、遊^{コト}必^ズ方^{アリ}、
方^{アリ}、

【疏】

方常也、曲禮云、爲人子之禮、出必告、反必面、所遊必有
常、所習必有業、是必有方也、若行遊無常則、貽累父母之
憂也、

方ハ常ナリ、曲禮ニ云ク、人ノ子爲ルノ禮、出トキハ必
ス告ク、反スルトキハ必ス面ス、遊フ所必ス常有リ、
習フ所必ス業有リ、是レ必ス方有ルナリ、若シ行遊スル
コト常無キ則ハ、父^フ母^モノ憂ヲ貽シ累ス、

【注】

鄭玄曰、方猶常也、

- (一) 「至」、武内本作「主」。
- (二) 「也」、武内本無此字。
- (三) 「復」、武内本作「後」。
- (四) 「云」下、武内本有「凡」字。
- (五) 「者」、武内本作「之禮」二字。
- (六) 「秋」下、武内本有「傳」字。
- (七) 「汝」、武内本作「女」。

鄭玄カ曰ク、方ハ猶^な常ノ猶^こシ、

【經】

子曰、三年無改於父之道、可謂孝矣、

子ノ曰ク、三ノ年父ノ道ヲ改ムルコト無キヲ、孝ト謂ツ可
シ、

【注】

鄭玄曰、孝子在喪、哀戚思慕、無所改其父之道、非心之所
忍爲也、

鄭玄カ曰ク、孝子喪ニ在ルトキハ、哀戚思慕ス、其父
ノ道ヲ改ムルニ所無シ、心ノ忍テ爲ル所ニ非ス、

【經】

子曰、父母之年不可不知也、

子ノ曰ク、父ノ母ノ年ヲハ知ラ不^ナハアル可^ヘラ不^ス、

【疏】

人有年多而容少、或有年少^{コト}状老、此處不可爲定、故爲人子
者、必宜知父母之年多少也、

人ハ八年^{おほく}多シテ容^{ワかき}少コト有リ、或ハ八年^{わか}少シテ状^{かな}老ス
ル有リ、此ノ^{コト}處^ハ定メト爲可^ナラ不^ス、故人^{わかく}ノ子爲ル者ハ、
必^{かならず}宜ク父ノ母ノ年ノ多^ハ少^ヲ知ル宜シ、

【經】

一則以喜

一ヒハ以テ喜ヒ

【疏】

此宜知年之事也、知父母年高、而形猶壯、此是壽考之徵、
故孝子所以喜也、

此レハ宜ク年ノ知ル宜シ事ナリ、父ノ母ノ年高シテ、形チ
猶ヲ壯ヲ知ル、此レハ是レ壽考ノ^シ徵^シナリ、故ニ孝子ノ
喜フ所^{ゆゑ}以^んナリ、

【經】

一則以懼、

一ヒハ以懼ル、

【疏】

年實未老而、形容衰減、故孝子所以怖懼也、

年實ニ未タ老ヒ未シテ、形「容衰へ」減ス、故ニ孝子怖レ懼ル所「以ナリ、

【注】

孔安國曰、見其壽考則喜、見其衰老則懼也、

孔安國カ曰ク、其ノ壽考ヲ見ル則ハ喜ヒ、其ノ衰老ヲ見ル則ハ懼ル、

【疏】

亦得如向解、又一釋、若父母年實高、而形亦隨而老、此子亦一喜一懼也、見年高所以喜、見形老、所以懼也、而李充曰、解小異云、孝子之事親也、養則致其樂、病則致其憂、憂樂之情深則、喜懼之心篤、然則獻樂以排憂、進歡而去戚者、其唯知父母之年乎、豈徒知年數而已哉、貴其能稱年而致養也、是以唯孝子爲能達就養之方、盡將從之節、年盛則常怡、年衰則消息、喜於康豫、懼於失和、孝子之道備也矣、

亦タ向ノ解ノ如クコトヲ得、又タ一「釋アリ、若シ父ノ母ノ年實ニ高シテ、形亦タ隨テ老フ、此レ子ノ亦タ一ヒハ喜ヒ一ヒハ懼ルルナリ、年ノ高ヲ見ルハ喜フ所「以ナリ、形ノ老ヲ見ルハ、懼ルル所「以ナリ、而ルヲ李充カ曰ク、解小シ異ナリ云ク、孝子ノ親ニ事コト、養フ則ハ其ノ樂ヲ致シ、病スル則ハ其ノ憂ヲ致ス、憂ノ情深キ則ハ、喜懼ノ心篤シ、然レハ則チ樂ヲ獻テ憂ヲ排シ、歡ヲ進テ戚ヲ去フル者ハ、其レ唯タ父ノ母ノ年ヲ知シカ、豈ニ徒二年數ヲ知ル而已、其レ能ク年ニ稱テ養ヲ致スコトヲ貴フ、是ヲ以テ唯タ孝子ハ能ク就養ノ方ニ達シ、將從ノ節ヲ盡コトヲ爲ス、年盛ナル則ハ常ニ怡ヒ、年衰ル則ハ消息ス、康豫ヲ喜ヒ、失和ヲ懼ルルハ、孝子ノ道備ナリ、

(一) 「少」下、武内本有「而」字。

(二) 「状」、武内本作「體」。

(三) 「日」、武内本作「之」。

【經】

子曰、古之者、言之不妄出也、耻躬之不逮也、

子ノ曰ク、古ノ者ノ、言ヲ妄ニ出ササルコトハ、躬ノ逮ハ

不ランコトヲ耻テナリ、

【疏】

躬身也、逮及也、古人不輕出言者、耻躬行之不能及也、故子路不宿諾也、故李充曰、夫輕諾者、必寡信、多易者必多難、是以古人難之、

躬ハ身ナリ、逮ハ及ナリ、古一人ノ輕シク言ヲ出サ不
コトハ、躬ノ行ノ及コト能ハ不ランコトヲ耻ナリ、故
ニ子路ハ宿^{アラシメ}ノ諾セ不、故ニ李充カ曰ク、夫レ輕^レ諾ナル
者ハ、必ス信寡シ、易コト多キ者ハ必ス難多シ、是ヲ古ノ
人ハ之ヲ難ス、

【注】

苞氏曰、古人之言不妄出口者、爲耻其身行之將不及也、

苞氏カ曰ク、古ノ人ノ言ヲ妄^{コト}ニ口ヨリ出サ不ルコトハ、
其ノ身ノ行ノ將ニ及ハ不ラントス將ルコトヲ耻ルカ爲ナ
リ、

【經】

子曰、以約失之者鮮矣、

子曰ク、約ヲ以テ失スル者ハ鮮シ、

【疏】

鮮少也、言以儉約自處、雖不得中、而失國家者少也、故顏延之云、秉小居薄、衆之所與、執多處豐、物之所去也、

鮮ハ少ナリ、言ハ儉^レ約ヲ以テ自^{ミツ}處ルハ、中ヲ得不ト
雖、國一家ヲ失スル者ハ少シ、故ニ顏延之カ云ク、小ヲ
秉テ薄ニ居ルハ、衆ノ與スル所ナリ、多ヲ執テ豐ニ處ル
ハ、物ノ去ル所ナリ、

【注】

孔安國曰、俱不得中也、奢則驕溢則招禍儉約則無憂患也、

孔安國カ曰ク、俱ニ中ヲ得不、奢ハ驕^レ溢^レシテ則チ禍ヲ招
ク、儉^レ約ナル則ハ憂患無シ、

【經】

子曰、君子欲訥於言、而敏於行、

子曰ク、君子ハ言ニ訥クシテ、行フニ敏カラントトヲ
欲^ス、

【疏】

訥遲鈍也、敏疾速也、君子欲行先於言、故遲言而速行也、

訥ハ遲^ト鈍、敏ハ疾^ト速、君^一子^一ハ行^ノ言^ニ先^タタンコトヲ欲ス、故^ニ言^ニ遲^{シテ}行^ニ速^{ナリ}、

【注】

荀氏曰、訥遲鈍也、言欲遲鈍、而行欲敏也、

荀氏カ曰ク、訥ハ遲^ト鈍、言^ハ遲^ト鈍ナランコトヲ欲シ、行^ハ敏^トコトヲ欲ス、

【經】

子曰、德不孤、必有鄰、

子ノ曰ク、德孤ナラ不^ス、必ス隣有^リ、

【疏】

言人有德者、其人非孤寡、而必有善隣里故也、魯無君子者、子賤斯焉取斯乎、又一云、鄰報也、言德行不孤失、必爲人所報也、故殷仲堪曰、推誠相與則、殊類可親、以善接物、物亦不皆忘、以善應之、是以德不孤焉、必有隣、

言ハ人ノ德有^ル者ハ、其ノ人孤寡ニ非ス、必ス善キ隣里

有^ル故ナリ、魯ニ君^一子^一無^カリセハ、子賤斯^レ焉^一シテ斯

ヲ取^ラマシ、又一ニ云ク、鄰ハ報ナリ、言ハ德^ト行^ト孤^ト失^ナ

ラ不^ス、必ス人ノ爲^ニ報^セ所^ニ、故^ニ殷仲堪カ曰ク、誠ヲ推シ

テ相^一與^スル則^ハ、殊類親^ム可^シ、善ヲ以テ物ヲ接スル

トキハ(物ニ接ルトキハ)、物亦タ皆^一忘^レ不^ス、善ヲ以^テ

ニ應ス、是ヲ以^テ德孤ナラ不^ス、必ス隣有^リ、

【注】

方^五以類聚、同志相求也、故必有隣也、是以不孤也、

方ハ類ヲ以聚^ムル、同^一志相^一求^ム、故^ニ必ス隣有^リ、是ヲ以テ孤ナラ不^ス、

【疏】

於前解爲便也、

前ノ解ニ於テ便ト爲^ス、

(一) 「其」、武内本作「此」。

(二) 「寡」、武内本作「然」。

(三) 「也」、武内本作「云」。

(四) 「隣」下、武内本有「也」字。

(五) 「方」上、武内本有「孔安國曰」四字。

【經】

子游曰、事君數斯辱矣、朋友數斯疏矣、

子游カ曰ク、君ニ事ツルニ數スルトキハ斯レ辱シメラ
ル、朋友ニ數スルトキハ斯レ疏セラル矣、

【疏】

斯此也、禮不貴褻、故進止有儀、臣非時而見君、此必致耻
辱、朋友非時而相往數、必致疏辱也、一云、言數計數也、
君臣計數、必致危辱、朋友計數、必致疏絶也、

斯ハ此ナリ、禮ハ褻ルルコトヲ貴ハ不、故ニ進止儀有リ、
臣時ニ非シテ君ニ見トキハ、此レ必ス耻辱ヲ致ス、
朋友時ニ非シテ相イ往クコト數スルトキハ、必ス疏
辱ヲ致ス、一ニ云ク、言ハ數ハ計數ナリ、君臣計數ト
キハ、必ス危辱ヲ致ス、朋友計數スルトキハ、必ス疏
絶ヲ致ス、

【注】

孔安國曰、數謂速數之數也、

孔安國カ曰ク、數ハ速數ノ數ヲ謂フ、

【疏】

速而又數則、是不節也、

速ニシテ又數スル則ハ、是レ節アラ不ルナリ、

論語卷第二

(一) 「論語卷第二」、武内本作「論語義疏第二」。

(二) 「二」下、武内本有「經一千二百一十二字／注一
千九百三十一字」十八字(小字雙行)。卷末、武
内本「于時文明九年丁酉六月廿八日書写(寫)
畢」十六字。(「丁酉」二字、小字雙行)

(里仁篇担当 相原健右)

論語義疏卷第三 公冶雍也^三 梁國助教吳郡皇侃撰
公冶長第五^三 疏

(一) 「公冶雍也」、小字雙行。「治」下、武内本有「長」字。

(二) 「五」下、武内本有「何晏集解」四字、「凡廿九章」四字（小字雙行）。

(三) 「疏」、武内本別行跳格。

【疏】

公冶長者、孔子弟子也、此篇明時無明君、賢人獲罪者也、所以次前者、言公冶雖枉濫縲繼、而爲聖師證明、若不近仁、則曲直難辨、故公冶次里仁也、

公冶長ハ、孔子ノ弟子ナリ、此ノ篇ニハ時ニ明君無シテ、賢人ノ罪ヲ獲ルコトヲ明ス者ナリ、前ニ次ツル所以ハ、言ハ公冶枉濫縲繼セラルルト雖、而トモ聖師證明ヲ爲、若シ仁ニ近カ不シハ曲直辨シ難シ、故ニ公冶ヲ里仁ニ次ツ、

(一) 「雖」下、武内本有「在」字。

【經】
子謂公冶長、可妻也、

子公冶長ヲ謂ク、妻ス可シ、

【疏】
公冶長弟子也、可妻者、孔子欲以女嫁之、故先評論云、謂可妻也、

公冶長ハ弟子ナリ、妻ス可シトハ、孔子女ヲ以之ニ嫁セント欲ス、故ニ先ツ評論シテ云ク、妻ス可ト謂フ、

【經】

雖在縲繼之中、非其罪也、

縲繼ノ中ニ在ト雖、其ノ罪ニ非ストイヒテ、

【疏】
既欲妻之、故備論其由來也、縲黑索也、繼繫也、古者用黑索、以繫罪人也、治長賢人、于時經枉濫、在縲繼之中、雖然實其非罪也、

既ニ之ニ妻ト欲、故ニ備ニ其ノ由_レ來ヲ論ス、縲ハ黒キ_ナ、索ナリ、縲ハ_レ縲_レ（_レ縲_ク）ナリ、古ニハ黒_一索_一（_ナ索）ヲ用テ、罪_一人ヲ_レ縲_レ係ス、治長ハ賢_一人ナリ、時于_レ枉_一濫ヲ經テ、縲_一縲_一中ニ在リ、然ト雖實ニ其ノ罪ニ非ストイヒテ、

【經】
以其子妻之、

其ノ子ヲ以テ之ニ妻ス、

【疏】
論之既竟、而遂以女嫁之也、范寧云、公治行正獲罪、罪非其罪、孔子以女妻之、將以大明衰世用刑之枉濫、勸將來實守正之人也、

之ヲ論スルコト既ニ竟テ、遂ニ女ヲ以之ニ嫁ス、范寧カ云ク、公治ハ行正シテ罪ヲ獲、罪其ノ罪ニ非ス、孔子女ヲ以之ニ妻テ、將ニ以テ大ニ衰_一世ノ刑ヲ用ルコトヲ枉_一濫タルコトヲ明シテ、將_一來實ニ正ヲ守ルノ人ヲ勸メント將、

【注】
孔安國曰、公治長弟子魯人、姓公治、名長

孔安國カ曰ク、公治長ハ弟子魯_一人、姓ハ公治、名ハ長

【疏】
范寧云、名芝字子長也、

范寧カ云ク、名ハ芝字ハ子長、

【注】
縲黒索也。縲縲也。所以拘罪人也

縲ハ黒キ_一索_一、縲ハ_レ縲_レ、罪_一人ヲ_レ拘_レウ_レル_一（_レ拘_レウ_レル_一）所以ナリ

【疏】
別有一書、名爲論釋、云、公治長從衛還魯、行至_二界上_一、

聞鳥相呼、往清溪食死人肉、須臾見一老嫗當道而哭、治長問之、嫗曰、兒前日出行、于今不返、當是已死亡、不知所在、治長曰、向聞鳥相呼、往清溪食肉、是嫗兒也、嫗往、看則得其兒也、已死、則嫗告村司、村司問嫗、從何得知之、嫗曰、見治長道如此、村官曰、治長不殺人、何緣知之、因_レ録治長、付獄、主問治長、何以殺人、治長云、解

鳥語、不殺人、主曰、當試之、若必解鳥語、便相放也、若

不解、當令償死、駐治長在獄中、卒日有雀子、緣獄柵上、
相呼嘖嘖喙喙、治長含笑、吏啓主、治長笑雀語、是似解鳥
語、主教問治長、雀何所道而笑之、治長曰、雀鳴嘖嘖喙
喙、白蓮水邊有車、翻覆黍粟、牡牛折角、收斂不盡、相呼
往啄、大主未信、遣人往看、果如其言、後又解猪及燕語、
屢驗、於是得放、然此語乃出雜書、未必可信、而亦古舊相
傳云、治長解鳥語、故聊記之、

別二一書有り、名テ論釋ト爲、云ク、公治長衛従り魯二
還ル、行テ(行)二一界ノ上リニ至テ、鳥ノ相ヒ呼フヲ聞
ク、清溪ニ往テ死一人ノ肉ヲ食マムトイフ、須臾ニシテ
一老嫗(嫗)ノ道ニ當テ哭スルヲ見ル、治長之ヲ問フ、
嫗ノ曰ク、兒前日ニ出テ行テ、今ニ返ラ不、當ニ是レ已
ニ死ハス當シ、在ル所ヲ知ラ不、治長カ曰ク、向ニ鳥ノ
相ヒ呼フヲ聞クニ、清溪ニ往テ肉ヲ食マムトイフ、是レ
嫗ノ兒ナリ、嫗往テ、看レハ則チ其ノ兒ヲ得タリ、已ニ
死ス、則チ嫗村司ニ告ク、村司嫗ニ問フ、何ニ從テカ之ヲ
知ルコトヲ得タル、嫗ノ曰ク、治長ニ見ユ道フコト此ノ如
シ、村官ノ曰ク、治長人ヲ殺サ不ンハ、何ニ縁ツテカ之
ヲ知ラン、因テ治長ヲ録シテ、獄ニ付ク、主治長ニ問フ、
何ヲ以カ人ヲ殺ス、治長カ云ク、鳥ノ語ヲ解ス、人ヲ殺
サ不、主ノ曰ク、當ニ之ヲ試ム當シ、若シ必ス鳥ノ語ヲ

解セハ、便チ相ヒ放サン、若シ解セ不ンハ、當ニ死ヲ償
ハ令ム當シ、治長ヲ駐メテ獄中ニ在ク、卒日雀子有り、
獄柵ノ上ニ縁テ、相ヒ呼フコト嘖嘖喙喙タリ、治長
笑ヲ含ム、吏主ニ啓ス、治長雀ノ語ヲ笑フ、是レ鳥ノ語
ヲ解スルニ似タリ、主教ヘテ治長ニ問ハシム、雀何ノ道
フ所アツテカ之ヲ笑フ、治長カ曰ク、雀鳴テ嘖嘖喙喙
タリ、白蓮水ノ邊ニ車有テ、黍(黍)粟ヲ翻覆ス、牡牛
牛角ヲ折ル、收斂スレトモ盡キ不、相ヒ呼テ往テ啄マ
ン、大主未信セ未、人ヲ遣テ往テ看セ遣ム、果シテ其
ノ言ノ如シ、後ニ又猪(猪)及ヒ燕ノ語ヲ解ス、屢
驗アリ、是ニ於テ放タルコトヲ得タリ、然トモ此ノ語
乃チ雜書ヨリ出ツ、未タ必ス信ス可ラ未、而トモ亦太古
舊相傳ヘテ云ク、治長鳥ノ語ヲ解スト、故ニ聊カ之ヲ記
ス、

- (一) 「論」、武内本作「評」。
- (二) 「以」、武内本作「次」字。
- (三) 「云」、武内本作「曰」。
- (四) 「云」、武内本作「曰」。
- (五) 「名」下、武内本有「之」字。
- (六) 「界」、武内本作「堺」。
- (七) 「返」、武内本作「反」。

(八) 「是」上、武内本有「恐」字。

(九) 「則」、武内本作「即」。

(一〇) 「則」、武内本作「即」。

(一一) 「囚」、武内本作「囚」。

(一二) 「云」、武内本作「曰」。

(一三) 「中」、武内本作「六十日」。

(一四) 「大」、武内本作「獄」。

【經】

子謂南容、

子南容ヲ謂ク、ノたまは

【疏】

又評南容也、

又南容ヲ評ス、

【經】

邦有道、不廢、邦無道免於刑戮、

邦道有ルトキハ、廢セ不_ス、邦道無キトキハ刑_ト戮_トニ免ルト_{マヌカ}

イヒテ、

【疏】

明南容之德也、若遭國君有道則、出仕官、不廢己之才德也、若君無道則、危行言遜、以免於刑戮也、刑戮通語耳、亦含輕重也、

南容カ德ヲ明ス、若シ國_ト君_トノ有道ニ遭フ則ハ、出テ官ニ仕ヘテ、己カ才_ト德ヲ廢セ不_ス、若シ君無_ト道ナル則ハ、行ヲ危_{ヘケシ}フシ言_{コト}遜_{シタカ}ツテ、以テ刑_ト戮_トニ免ル、刑_ト戮_トハ通_ト語_{ノミ}耳、亦輕_ト重_トヲ含_トメリ、

【經】

以其兄之子妻之、

其ノ兄ノ子ヲ以テ之ニ妻ハス、

【疏】

論之既畢、孔子以己兄女妻之也、

之ヲ論スルコト既ニ畢テ、孔子己カ兄ノ女ヲ以テ之ニ妻ス、

【注】

王肅曰、南容弟子、南宮韜也、魯人也、字子容、

王肅カ曰ク、南容ハ弟子、南宮韜ソ、魯人ナリ、字ハ子容、

【疏】

姓南容、名韜也、又名閱之、

姓ハ南容、名ハ韜、又ノ名ハ閱之、

【注】

不廢、言見任用也、

廢セ不トハ、言ハ任用セ見ルソ、

【疏】

然昔時講説、好評公治南容德有優劣、故女妻、有己女兄女之異、侃謂二人無勝負也、卷舒隨世乃爲有智、而枉濫獲罪、聖人猶然、亦不得以公治爲劣也、以己女妻公治、兄女妻南容者、非謂權其輕重、政是當其年相稱、而嫁事非一時、在次耳、則可無意其間也、

然ルニ昔ノ時講説ニ、好テ公治南容德優劣有リ、

故ニ女ヲ妻スルニ、己カ女兄ノ女ノ異有リト評ス、侃

謂ラク二人ハ勝負無シト(二人ハ勝負無シト謂ヘリ)、

卷舒世ニ隨フハ乃チ有智ト爲、枉濫ニシテ罪ヲ獲、聖

人モ猶ヲ然カリ、亦タ公治ヲ以テ劣ト爲ルコトヲ得、

己カ女ヲ以テ公治ニ妻セ、兄ノ女ヲ南容ニ妻スルコトハ、

謂ル其ノ輕重ヲ權ルニ非ス、政ニ是レ其ノ年ノ相稱フ

ニ當テ、嫁事一時ニ非、次テニ在ルラク耳、則チ其ノ

間ニ意無カル可シ、

(一) 「韜」、武内本作「紹」、下同。

(二) 「容」、武内本作「宮」。

(三) 「之」、武内本作「也」。

【經】

子謂子賤、

子子賤ヲ謂ク、

【疏】

亦評子賤也、

亦子賤ヲ評ス、

【注】

孔安國曰、子賤魯人、弟子密不齊也、

孔安國カ曰ク、子賤ハ魯人、弟子密不齊ソ、

【經】

君子哉若人、

君子ナル哉 若キ人、

【疏】

此所評之事也、若人如此人也、言子賤有君子之德、故言君子哉若此人也、

此ハ評スル所ノ事ナリ、若人ハ如此人ナリ、言ハ子賤君子ノ徳有リ、故ニ言ク君子ナル哉此ノ若キ人ト、

【經】

魯無君子者、斯焉取斯、

魯ニ君子無カリセハ(無クンハ)、斯レ焉ソスヲ取ラマシ、

【疏】

因美子賤、又美魯也、焉安也、斯此也、言若魯無君子、子賤安得取此君子之行、而學之乎、言由魯多君子、故子賤學而得之、

子賤ヲ美ムルニ因テ、又魯ヲ美ム、焉ハ安ナリ、斯ハ此ナリ、言ハ若シ魯ニ君子無カリセハ、子賤安ソ此ノ君子ノ行ヲ取テ、之ヲ學フヲ得ンヤ、言ハ魯ニ君子多キニ由テ、故ニ子賤學而之ヲ得、

【注】

荀氏曰、若人者、若此人也、如魯無君子、子賤安得取此行、而學行之、

荀氏カ曰ク、若人ハ、若此人ソ、如シ魯ニ君子無カリセハ、子賤安ソ此ノ行ヲ取テ、學ヒ行フコトヲ得ンヤ、

(一) 「密」、武内本作「宓」。

(二) 「此」上、武内本有「通」字。

【經】

子貢問曰、賜也何如、

子貢問テ曰ク、賜ハ何^{イカ}如^{カン}、

【疏】

子貢聞孔子歷評諸弟子、而不及己、己獨區區己分、故因諮問何如也、

子貢孔子ノ弟^ト子ヲ歴^ト評スルヲ聞クニ、己ニ及ハ不^ス己レ獨リ己カ分ニ區^ト區タリ、故ニ因テ諮^トヒ^ト問フ何^{イカ}如^{カン}ト、

【經】

子曰汝器也、

子ノ曰ク汝ハ器ナリ、

【疏】

孔子答曰、汝是器用之人也、

孔子答テ曰^{ノたまは}ク、汝ハ是レ器^ト用ノ人ナリ、

【注】

孔安國曰、言汝是器用之人也、

孔安國カ曰ク、言ハ汝ハ是レ器^ト用ノ人ナリ、

【經】

曰何器也、

曰^{イハ}ク何ノ器^トソ、

【疏】

器有善惡、猶未知己器云何、故更問也、

器ニ善^ト惡有リ、猶ヲ未タ己カ器云^ト何ントイフコトヲ知ラ未^ス、故ニ更ニ問フ、

【經】

曰瑚璉也、

曰^{ノたまは}ク瑚^ト璉ナリ、

【疏】

此答定器有善分也、瑚璉者、宗廟寶器、可盛黍稷也、言汝是器中之貴者也、或云、君子不器、器者用必偏、瑚璉雖貴、而爲用也(三)不周、亦言、汝乃是貴器、亦用偏也、故江熙云、瑚璉置宗廟則、爲貴器、然不周於民用也、汝言語之士、束脩廊廟則、爲豪秀、乃然未必能幹煩務也、器之偏用、此其貴者、猶不足多、况其賤者乎、是以玉之碌碌、石之落落、君子皆不欲也、

此ハ器ノ善分有ルコトヲ答ヘ定ム、瑚璉ハ、宗廟ノ寶器ナリ、黍稷ヲ盛ル可シ、言ハ汝ハ是レ器中ノ貴キ者ナリ、或ヒトノ云ク、君子ハ器ナラ不、器ハ用ニ必ス偏ナリ、瑚璉ハ貴シト雖モ、用爲ルコト周カラ不、亦タ言ハ、汝ハ乃チ是レ貴キ器ナリ、亦タ用偏ナリ、故ニ江熙カ云ク、瑚璉ハ宗廟ニ置ク則ハ、貴キ器ト爲、然トモ民ノ用ニ周カラ不、汝ハ言語ノ士ナリ、廊廟ニ束脩スル則ハ、豪秀ト爲、乃チ然トモ未タ必ス能ク煩務ニ幹タラ(幹)未、器ノ偏用ナルコト、此レ其レ貴キ者ナリ、多シトスルニ足タ不猶シ、况ヤ其レ賤キ者ヲヤ、是ヲ以テ玉ノ碌碌タル、石ノ落落タルハ、君子ハ皆ナ欲不、

【注】

荀氏曰、瑚璉者黍稷之器也、

荀氏カ曰ク、瑚璉ハ黍稷ノ器ソ、

【疏】

同盛黍稷之飯也、

同ク黍稷ノ飯ヲ盛ル、

【注】

夏曰瑚、殷曰璉、

夏ニハ瑚ト曰ヒ、殷ニハ璉ト曰ヒ、

【疏】

講禮記云、夏之四璉、殷之六瑚、今云夏瑚殷璉、講者皆云、是誤也、故樂肇云、未詳也、

禮記ヲ講スルニ云ク、夏ノ四璉、殷ノ六瑚トイフ、今夏ノ瑚殷ノ璉ト云フ、講スル者皆ナ云ク、是レ誤レルナリ、故ニ樂肇カ云ク、未タ詳ナラ未、

【注】

周曰簠簋、宗廟器之貴者也、

周二ハ簠簋ト曰フ、宗廟ノ器ノ貴キ者ナリ、

【疏】

然夏殷各一名、而其形未測、及周則兩名、其形各異、外方内圓曰簠、内方外圓曰簋、俱容一斗二升、以簠盛黍稷、以簋盛稻粱、或問曰、子貢周人、孔子何不云汝是簠簋、而遠舉夏殷器也、或通云、^(八九)夫子近捨當時、而遠稱二代者、亦微有旨焉、謂湯武聖德、伊呂賢才、聖德則、與孔子不殊、賢才與顏閔豈異、而湯武飛龍、伊呂爲阿衡之任、而孔子布衣洙泗、顏回簠瓢陋巷、論其人則不殊、但是用捨之不同耳、譬此器用則一、而時有廢興者也、

然ルニ夏殷各一一名ニシテ、其ノ形ハ未タ測ラ未、周二及テハ則チ兩一名アリ、其ノ形各異ナリ、外方ニシテ内圓ナルヲ簠ト曰フ、内方ニシテ外ハ圓ナルヲ簋ト曰フ、俱ニ一斗二升ヲ容ル、簠ヲ以テハ黍稷ヲ盛リ、簋ヲ以テハ稻粱ヲ盛ル、或ヒト問テ曰ク、子貢ハ周人ナリ、孔子何ソ汝ハ是レ簠簋ト云ハ不シテ、遠ク夏殷ノ器ヲ擧クルヤ、或ル通ニ云ク、夫一子近ク當時ヲ捨テテ、遠ク二代

ヲ稱スルコトハ、亦タ微シ旨有リ、謂ル湯武ハ聖德アリ、伊呂ハ賢才アリ、聖德ハ則チ、孔子與殊ナラ不、賢才ハ顔閔與豈二異ナラシヤ、而ルニ湯武ハ飛龍シ、伊呂ハ阿衡ノ任爲リ、而ルニ孔子ハ洙泗ニ布衣ニシ、顔回ハ陋巷ニ簠瓢ス、其ノ人ヲ論スル則ハ殊ナラ不、但ニ是レ用捨ノ同カラ不ル耳、譬ハ此ノ器ノ用ハ則チ一ニシテ、時ニ廢興有ル者ナリ、

- (一) 「也」、武内本無此字。
- (二) 「脩」、武内本作「修」。
- (三) 「乃」、武内本無此字。
- (四) 「之」、武内本無此字。
- (五) 「同」、武内本作「用」。
- (六) 「講」、武内本無此字。
- (七) 「云」、武内本作「曰」。
- (八) 「通」下、武内本有「者」字。
- (九) 「云」、武内本作「曰」。

【經】

或曰、雍也仁而不佞、

或ヒトノ曰ク、雍ハ仁アリテ佞アラ不、

【疏】

或人云、弟子冉雍甚有仁德、而不能佞媚求會時也、

或ル人ノ云ク、弟_一子冉雍ハ甚タ仁_一德有テ、佞_一媚ニシテ
時ニ會_アフコトヲ求ルコト能ハ_ス不、

【注】

馬融曰、雍弟子仲弓名也、姓冉也、

馬融カ曰ク、雍ハ弟子仲弓カ名ソ、姓ハ冉、

【經】

子曰、焉用佞、

子ノ曰_ク、焉_ハソ佞_ヲ用_ン、

【疏】

距或人也、言人生在世、備仁躬自足、焉用作佞偽也、

或_レル人_一ヲ距_ク、言_ハ人_一生_テ世_ニ在_テ、仁_ヲ備_{フル}トキハ
躬_自足_ル、焉_ハソ佞_ヲ偽_ヲ作_{スコ}ト_ヲ用_ンヤ、

【經】

禦人以口給、屢憎於民、

人ニ禦_フニ口_一給_ヲ以_テシテ、屢_ニ憎_マル、

【疏】

更說佞人之爲惡也、禦猶對也、給捷也、屢數也、言佞者口
辭對人捷給、無實則、數爲人所憎惡也、

更ニ佞_一人ノ惡_ヲ爲_{スコ}ト_ヲ說_ク、禦_ハ對_ノ猶_シ、給_ハ捷_ナ
ナリ、屢_ハ數、言_ハ佞_一者_ハ口_一辭_ニ對_{シテ}捷_一給_ニシ
テ、實無_キ則_ハ、數_ハ人_ノ爲_ニ憎_ミ惡_マ所、

【經】

不知其仁也、焉用佞也、

其_ノ仁_ヲ知_ラ不、焉_ハソ佞_ヲ用_ン、

【疏】

恨佞爲惡之深、故重答距於或人也、

佞_ノ惡_ヲ爲_{スコ}ト_ノ深_{コト}ヲ恨_ム、故_ニ重_テ答_テ或_ル人

ヲ距ク、

【注】

孔安國曰、屢數也、佞人口辭捷給、數爲民所憎也、

孔安國カ曰ク、屢ハ數、佞人ハ口辭捷給ニシテ、民ノ爲ニ憎マ所、

(一) 「也」、武内本無此字。

(二) 「用」、武内本無此字。

(三) 「恨」、武内本作「憎」。

(四) 「數」、武内本作「屢」。

【經】

子使漆彫開仕、

子漆彫開ヲ使テ仕ヘ使ム、

【疏】

孔子使此弟子出仕官也、

孔子此ノ弟子ヲ使テ出テ官ニ仕ヘ使、

【經】

對曰、吾斯之未能信、

對ヘテ曰ク、吾レ斯レヲ(斯ノミシテ)未タ信セラルルコト(信スルコト)能ハ未、

【疏】

彫答也、答師稱吾者、古人皆然也、答云、言己學業未熟、未能究習則、不爲民所信、未堪仕也、一云、言時君未能信則、不可仕也、故張憑云、夫君臣之道、信而後交者也、君不信臣則、無以授任、臣不信君則、難以委質、魯君之誠、未洽於民、故曰未能信也、

彫カ答ナリ、師ニ答ルニ吾ト稱スルコトハ、古人皆然、リ、答テ云ク、言ハ己カ學業未タ熟セ未、未タ究メ習コト能ハ未ル則ハ、民ノ爲ニ信セラ所不、未タ仕ルニ堪ヘ未、一二云ク、言ハ時ノ君未タ信スルコト能ハ未ル則ハ、仕フ可不、故ニ張憑カ云ク、夫レ君臣ノ道ハ、信アツテ而シテ後ニ交ル者ナリ、君臣ヲ信セ不ル則ハ、任ヲ授ルコト無シ、臣君ヲ信セ不ル則ハ、質ヲ委シ(委ネ)難シ、魯君ノ誠、未タ民ニ洽カラ未、故ニ曰ク未タ信スルコト能ハ未ト、

【注】

孔安國曰、開弟子也、漆彫姓也、開名也、仕進之道、未能信者、未能究習也、

孔安國カ曰ク、開ハ弟子、漆彫ハ姓、開ハ名ナリ、仕進ノ道、未タ信セラルルコト能ハ未トハ、未タ究メ習コト能未、

【經】

子悦、

子悦フ、

【疏】

孔子聞開言、而欣悦之、范寧云、開知其學未習究治道、以此爲政、不能使民信己、孔子悦其志道之深、不汲汲於榮祿也、

孔子開カ言ヲ聞テ、之ヲ欣(欣フ)悦ス、范寧カ云ク、開其ノ學ノ未タ治道ヲ習ヒ究メ未ルコトヲ知ル(知ルソ)、此ヲ以テ政ヲ爲ハ、民ヲ使テ己ヲ信セ使ルコト能ハ不、孔子其ノ道ニ志スコトノ深シテ、榮祿ニ汲汲タラ

不ルコトヲ悦フ、

【注】

鄭玄曰、喜其志道深也、

鄭玄カ曰ク、其道ニ志スコトノ深キコトヲ喜フ、

- (一) 「云」、武内本作「曰」。
- (二) 「能」、武内本作「敢」。
- (三) 「之」、武内本作「也」。
- (四) 「云」、武内本作「曰」。
- (五) 「喜」、武内本作「善」。

【經】

子曰、道不行、乘桴浮於海、

子曰ク、道行ハレズ、桴ニ乗テ海ニ浮ハン、

【疏】

桴者編竹木也、大曰筏、小曰桴、孔子聖道不行於世、故或欲居九夷、或欲乘桴泛海、故云、道不行、乘桴浮於海也、

桴ハ竹ノ木ヲ編メルソ、大ナルヲ筏ト曰ヒ、小ナルヲ桴ト曰フ、孔子ノ聖道世ニ行ハレ不_ス、故ニ或ハ九_ノ夷ニ居ラマク欲シ、或ハ桴ニ乗テ海ニ泛ハント欲ス、故ニ云ク、道行ハレ不_ス、桴ニ乗テ海ニ浮ハント、

【經】

從我者、其由也與

我ニ從ハン者ハ、其レ由カ（我ニ從フ者ハ、其レ由テカ）

【疏】

由子路也、言從我浮海者、當時子路俱也、故云、其由與、

由ハ子路ナリ、言ハ我ニ從テ海ニ浮ハン者ハ、當時子路俱ナリ、故ニ云ク、其レ由カ、

【注】

馬融曰、桴編竹木也、大者曰筏、小者曰桴也、

馬融カ曰ク、桴ハ竹ノ木ヲ編メルソ、大ナルヲ筏ト曰ヒ、小ナルヲ桴ト曰フ、

【經】

子路聞之喜、

子路聞テ喜フ、

【疏】

子路聞孔子唯將己行、所喜也、

子路孔子ノ唯タ己將行ント將トイフヲ（己將イテ行ント）聞テ、喜フ所ナリ、

【注】

孔安國曰、喜與己俱行也、

孔安國カ曰ク、己與俱ニ行カンコトヲ喜フソ、

【經】

子曰、由也好勇過我、

子曰ク、由ハ勇ヲ好ムコト我ニ過タリ、

【疏】

然孔子本意、託乘桴、激時俗、而子路信之、將行既不達微旨、故孔子不復更言其實、且先云由好勇過我、以戲之也、所以是過我者、我始有乘桴之言、而子路便實欲乘、此是勇過我也、

然トモ孔子ノ本^一意ハ、桴ニ乗ルニ託シテ、時ノ俗ヲ激マ^{ハケ}ス、而ルヲ子路之ヲ信シテ、將ニ行ント將既ニ微^一旨ニ達セ不^ス、故ニ孔子復タ更ニ其ノ實ヲ言ハ不シテ、且ツ^一先ツ由ハ勇ヲ好ムコト我ニ過タリト云テ、之ニ戲ル、是レ我ニ過タル所以ハ、我始メ桴ニ乗ルノ言有リ、而ルヲ子路便チ實ニ乘ント欲^ス、此レハ是レ勇我ニ過タルナリ、

【經】

無所取材

材取ル所無シ(取ル所無イ材)

【疏】

又言、汝乃勇過勝於我、然我無處寬取爲桴之材也、

又言ハ、汝乃^な勇ナルコト我ニ過キ^ナ勝タリ、然トモ我桴^わ

ヲ爲ルノ材ヲ寬メ^一取ル處無シ、

【注】

鄭玄曰、子路信夫子欲行、故言好勇過我也、無所取材者、言無所取於桴材也、以子路不解微言故、戲之耳、

鄭玄カ曰ク、子路夫^一子ノ行カマク欲スルコトヲ信ス、故ニ^{ノたまは}言ク勇ヲ好ムコト我ニ過タリ、材取所無シトハ、言ハ桴ノ材ヲ取ル所無キソ、子路カ微言ヲ解セ不^スルヲ以テノ故ニ、之ニ戲ルラク耳、

【疏】

此注如向解也、

此ノ注モ向ノ解ノ如シ、

【注】

一曰、子路聞孔子乘桴欲^五浮海、便喜不復顧望、故孔子歎其勇曰、過我、

一二曰ク、子路孔子ノ桴ニ乗テ海ニ浮ハント欲スルヲ聞テ、便チ喜フ復タ顧^一望セ不^ス、故ニ孔子其ノ勇ヲ歎シテ

ノたまは
曰ク、我ニ過タリト、

【疏】

此又一通也、此意亦與前不乖也、

此レ又一通ナリ、此ノ意亦前與乖カ不、

【注】

無所復取哉、言唯取於己也、

復タ取ル所無イ哉トハ、言ハ唯タ己ニ取ルノミ、

【疏】

此注則微異也、哉送句也、言子路信我欲行、而所以不顧望者、言將我入海、不復取餘人哉、言唯取己也、

此ノ注ハ微シ異ナリ、哉ハ送句ナリ、言ハ子路我カ行カ
マク欲スルヲ信シテ、顧望セ不ル所以ハ、言ハ我將（將
ヒテ）海ニ入ント將、復タ餘人ニ取ラ不ル哉、言ハ唯タ
己ニ取ルノミ、

【注】
古字材哉同耳、

古ニハ字材哉同キ耳、

【疏】

古作材字、與哉字同、故今此字、雖作材、而讀義應曰哉也、又一家云、孔子爲道不行、爲譬、言我道不行、如乘小桴入於巨海、終無濟理也、非唯我獨如此、凡門徒從我者、道皆不行、亦竝由我故也、子路聞我道由、便謂由是其名、故便喜也、孔子不欲指斥其不解微、故戲云、汝好勇過我、我無所更取桴材也、

古ニ材ノ字ヲ作ルコト、哉ノ字與同シ、故今此ノ字、材ニ作ルト雖、而トモ讀テ義ハ哉ト曰フ應シ、又タ一家ニ云ク、孔子道ノ行ハレ不ルカ爲ニ、譬ヲ爲ス、言ハ我カ道行ハレ不ルコト、小桴ニ乘テ巨海ニ入ルカ如シ、終ニ濟ノ理無ケン、唯タ我獨リ此ノ如クナルノミニ非ス、凡ソ門徒ノ我ニ從フ者、道皆行ハレ不ルコト、亦タ竝ニ我ニ由ルカ故ナリ、子路我カ由ラ道ヲ聞テ、便チ謂ラク由ハ是レ其ノ名ナリト（由ハ是レ其ノ名ナリト謂ヘリ）、故ニ便チ喜フ、孔子其ノ微ヲ解セ不ルコトヲ指斥サンコ

トヲ欲セ不^ス、故ニ戲ニ^{ノたまは}云ク、汝勇ヲ好ムコト我ニ過タ
リ、我更ニ桴ノ材ヲ取ル所無シ、

- (一) 「云」、武内本作「曰」。
- (二) 「所」下、武内本有「以」字。
- (三) 「於」、武内本無此字。
- (四) 「解」、武内本作「釋」。
- (五) 「乘桴欲」、武内本作「欲乘桴」。
- (六) 「道」下、武内本有「之」字。
- (七) 「微」下、武内本有「旨」字。
- (八) 「故」下、武内本有「微」字。
- (九) 「云」、武内本作「曰」。

【經】
孟武伯問、子路仁乎、

孟武伯問ハク、子路仁アリヤ、

【疏】

武伯問孔子云、弟子中有子路、是仁人不乎、

武伯孔子ニ問テ云ク、弟子ノ中ニ子路有リ、是レ仁人ナ

リヤ不ヤ、

【經】

子曰、不知也

子ノ曰ク、知ラ不^ス

【疏】

孔子答也、所以云不知者、范寧云、仁理弘遠、仲由未能有
之、又不欲指言無仁、非獎誘之教、故託云不知也、

孔子ノ答ナリ、知ラ不ト云フ所以ハ、范寧カ云ク、仁ノ
理ハ弘遠ナリ、仲由未タ之レ有ルコト能ハ未、又指仁無
シト言ハンコトヲ欲不^ス、獎メ^ス誘ク教ニ非^シ、故ニ託テ知
ラ不ト云フ、

【注】

孔安國曰、仁道至大、不可全名也、

孔安國カ曰ク、仁道ハ至テ大ナリ、全ク名ツク可ラ不^ス、

【疏】

言子路未能全受此仁名、故云不知也、

言ハ子路全ク此ノ仁ノ名ヲ受クルコト能ハ未、故ニ知ラ^ずト云フ、

【經】

又問、

又問フ、

【疏】

武伯得答不知、而意猶未已、故更問云、子路定有仁不乎、故范寧云、武伯意有未愜、或似仲尼有隱、故再問之、

武伯知ラ不ト答フヲ得テ、意猶ヲ未タ已マ未、故ニ更ニ問テ云ク、子路定テ仁有リヤ不ヤ、故ニ范寧カ云ク、武伯意ニ未タ愜ハ未ルコト有リ、或ハ仲尼隱スコト有ルニ似タリ、故ニ再ヒ之ヲ問フ、

【經】

子曰、由也千乘之國、可使治其賦也、

子ノ曰ク、由ハ千乗ノ國ニ、其ノ賦ヲ治メ使メツ可シ、

【疏】

賦兵賦也、孔子得武伯重問、答又直云不知則、武伯未已、故且言才伎、然後更答以不知也、言子路才勇、可使治大國之兵賦任爲諸侯也、

賦ハ兵賦ナリ、孔子武伯カ重テ問フコトヲ得テ、答ヘテ又直ニ知ラ不ト云フ則ハ、武伯未タ已マ未、故ニ且ツ才^一伎ヲ言テ、然シテ後ニ更ニ答ルニ知ラ不トイフヲ以テス、言ハ子路カ才勇ニシテ、大國ノ兵賦ヲ治メ使メテ任シテ諸侯爲ラ使メツ可シ、

【注】

孔安國曰、賦兵賦也、

孔安國カ曰ク、賦ハ兵賦ソ、

【經】

不知其仁也、

其ノ仁ヲ知ラ不、

【疏】言唯知其才堪而猶不知其仁也、

言ハ唯タ其ノ才ノ堪ヘタルヲ知テ猶ヲ其ノ仁ヲ知ラ不^ス、

【經】求也何如、

求ハ何如^{イカン}、

【疏】

武伯又問孔子、弟子冉求其有仁不乎、故云何如也、

武伯又孔子ニ問フ、弟一子冉求其レ仁有リヤ不ヤ、故ニ云ク何^{イカン}如^カ、

【經】

子曰、求也千室之邑、百乘之家、可使爲之宰也、

子ノ曰ク、求ハ千一室ノ邑、百一乘ノ家ニ、之カ宰爲^カラ使メツ可シ、

【疏】

亦不答仁、而言求之才亦堪也、千室之邑、卿大夫也邑也、百乘之家、三公采地也、言才堪爲千室^(二〇)之邑宰也、

亦仁ヲ答ヘ不シテ、求カ才ノ亦堪タルコトヲ言フ、千一室ノ邑トハ、卿大夫ノ邑ナリ、百一乘ノ家トハ、三公ノ采地ナリ、言ハ才千一室ノ邑一宰爲ルニ堪タリ、

【注】

孔安國曰、千室之邑、卿大夫之邑也、卿大夫稱家、

孔安國カ曰ク、千一室ノ邑ハ、卿大夫ノ邑ナリ、卿大夫ニ家ト稱ス、

【疏】

今不復論夏殷、且作周法、周天子畿内、方千里、三公采地、方百里、卿地方五十里、大夫地方廿五里、畿外五等、公方五百里、侯方四百里、伯方三百里、子方二百里、男方百里、舊說五等之臣、其采地亦爲三等、各依其君國、十分爲之、何以然、天子畿千里、既以百里、爲三公采、五十里爲卿采、廿五里爲大夫采地、故畿外準之、上公地方五百里、其臣大采方五十里、中采方廿五里、小采方十二里

半、侯其方四百里、其臣大采方卅里、次采方廿里、小采方十里也、伯方三百里、其臣大采方卅里、中采方十五里、小采方七里半、子方二百里、其臣大采、方二十里、次采方十里、小采方五里、男者七里、其臣大采方十里、次采方五里、小采方二里半也、凡制地、方一里爲井、井有三家、若方二里半、有方一里者六、又方半里者一、則合十八家有餘、故論語云有十室之邑也、其中大小、各隨其君、故或有三百戶、是方十里者一、或有千室、是方十里者三有餘也、

今復夏殷ヲ論セ不、且ツ周ノ法ヲ作サン、周ハ天子ノ畿内ハ、方千里、三公ノ采地ハ、方百里、卿ノ地ハ方五十里、大夫ノ地ハ方廿五里、畿外ノ五等ハ、公ハ方五百里、侯ハ方四百里、伯ハ方三百里、子ハ方二百里、男ハ方百里、舊說二五等ノ臣モ、其ノ采地亦タ三等ヲ爲ス、各其ノ君國ニ依テ、十分之ヲ爲ス、何ヲ以テカ然リトナラハ、天子ハ畿千里、既二百里ヲ以テ、三公ノ采ト爲、五十一里ヲ卿ノ采ト爲、廿五里ヲ大夫ノ采地ト爲、故二畿外ハ之二準フ、上公ハ地一方五百里、其ノ臣ノ大采方五十里、中采八方廿五里、小采八方十二里半、侯ハ其ノ方四百里、其ノ臣ノ大采八方卅里、次ノ采八方廿里、小采八方十里、伯

大方三百里、其ノ臣ノ大采八方卅里、中ノ采八方五十里、小采八方七里半、子ハ方二百里、其ノ臣ノ大采八、方二十里、次ノ采八方十里、小采八方五里、男八百里、其ノ臣ノ大采八方十里、次ノ采八方五里、小采八方二里半ナリ、凡ソ地ヲ制スルニ、方一里ヲ井ト爲、井二三家有リ、若シ方二里半ナラハ、方一里ノ者六ツ、又方半里ノ者一ツ有ラン、則チ合セテ十八家有餘ナリ、故ニ論語ニ云ク十室ノ邑有リ、其ノ中大一小、各其ノ君ニ隨フ、故ニ或ハ三百戶有リ、是レ方十里ノ者一ナリ、或ハ千室有リ、是レ方十里ノ者三ツ有餘ナリ、

【注】

諸侯千乘、

諸侯八千一乘、

【疏】

謂上公也、

上公ヲ謂フ、

【注】
卿大夫也、故曰百乘也、宰家臣也、

卿大夫ナリ、故二百乗ト曰フ、宰ハ家臣ナリ、

【疏】

然百乘之家、是三公之采、鄭注雜記及此竝云、大夫百乘者、三公亦通有大夫之稱也、

然ル二百乗ノ家ハ、是レ三公ノ采ナリ、鄭カ注ノ雜記及ヒ此二竝ニ云ク、大夫ハ百乗トハ、三公モ亦通シテ大夫ノ稱有リ、

【經】

不知其仁也、

其ノ仁ヲ知ラ^ず、

【疏】

亦結答不知其仁也、

亦タ結シテ其ノ仁ヲ知ラ^ズトイフコトヲ答フ、

【經】
赤也何如、

赤ハ何^{イカ}如^シ、

【疏】

武伯又問弟子公西華、赤有仁不乎、

武伯又弟^ト子公西華ヲ問フ、赤仁有リヤ不ヤ、

【經】

子曰、赤也束帶立於朝、可使與賓客言也、

子ノ曰ク、赤ハ束帶シテ朝ニ立テテ、賓客^{トモノイ}與言ハ使メツ可^ヘシ、

【疏】

亦唯答赤之才能也、束帶立於朝、謂赤有容儀、可使對賓客言語也、故范寧云、束帶整朝服也、賓客、鄰國諸侯來相聘享也、

亦唯タ赤カ才能ヲ答フ、束帶シテ朝ニ立ルトハ、謂ル赤

容儀有り、賓客ニ對シテ言ハ語セ使メツ可シ、故ニ范寧カ云ク、束帶トハ朝服ヲ整ルソ、賓客トハ、鄰國ノ諸侯ノ來テ相ヒ聘享スルナリ、

【疏】亦不答有仁也、

亦仁有コトヲ答ヘ不、

【注】

馬融曰、赤弟子公西華也、有容儀、故可使爲行人也、

馬融カ曰ク、赤ハ弟子公西華ソ、容儀有り、故ニ行人爲ラ使メツ可シ、

【疏】

行人、謂宜使爲君出聘鄰國、及接鄰國之使來者也、周禮有大小行人職也、

行人トハ、謂ル宜ク使トシテ君ノ爲ニ出テテ鄰國ニ聘シ、及ヒ鄰國ノ使ノ來ルヲ接ス宜キ者ナリ、周禮ニ大小ノ行人職有り、

【經】

不知其仁也、

其ノ仁ヲ知ラ不、

- (一) 「云」、武内本作「曰」。
- (二) 「理」、武内本作「道」。
- (三) 「云」、武内本作「曰」。
- (四) 「云」、武内本作「曰」。
- (五) 「似」、武内本作「以」。
- (六) 「問之」、武内本作「答也」。
- (七) 「言」下、武内本有「其」字。
- (八) 「也」、武内本作「之」。
- (九) 「言」下、武内本有「求」字。
- (一〇) 「室」下、武内本有「百乘」字。
- (一一) 「廿」、武内本作「二十」、下同。
- (一二) 「方」下、武内本有「一」字。
- (一三) 「地」、武内本無此字。
- (一四) 「其」、武内本無此字。
- (一五) 「冊」、武内本作「四十」。
- (一六) 「卅」、武内本作「三十」。
- (一七) 「者」、武内本作「方」。

- (一八) 「有」、武内本作「云」。
- (一九) 「卿」、武内本無此字。
- (二〇) 「也」、武内本無此字。
- (二一) 「也」、武内本無此字。
- (二二) 「云」、武内本作「曰」。

【經】

子謂子貢曰、汝與回也孰愈、

子子貢ニ謂テ曰ク、汝ト回與孰レカ、愈レル、

【疏】

孰誰也、愈勝也、孔子問子貢、汝與顏回、二人才伎、誰勝者也、所以須此問者、繆播云、學末尚名者多、顧其實者寡、回則崇本棄末、賜之未能忘名、存名則、美著於物、精本則名損於當時、故發問、以要賜對、以示優劣也、所以抑賜而進回也、

孰ハ誰ナリ、愈ハ勝ナリ、孔子子貢ニ問フ、汝ト顏回與、二人ノ才一伎、誰カ勝レルトハ、此ノ問ヲ須フル所以ハ、繆播カ云ク、末ヲ學ヒ名ヲ尚フ者ハ多シ、其ノ實ヲ顧ル者ハ寡シ、回ハ則チ本ヲ崇テ末ヲ棄ツ、賜ハ未タ名ヲ忘

ルルコト能ハ未、名ヲ存スル則ハ、美物ニ著アル、本ニ精シキ則ハ名當ニ時ニ損ス、故ニ問ヲ發シテ、賜カ對ヲ要メテ、以テ優一劣(優一劣)ヲ示ス、賜ヲ抑テ回ヲ進ムル所以ナリ、

【注】

孔安國曰、愈猶勝也、

孔安國カ曰ク、愈ハ勝ノ猶シ、

【經】

對曰、賜也何敢望回、回也聞一以知十、賜也聞一以知二、

對ヘテ曰ク、賜ハ何ソ敢テ回ヲ望マン、回ハ一ヲ聞テ以テ十ヲ知ル、賜ハ一ヲ聞テ以テ二ヲ知ル、

【疏】

答孔子以審分也、王弼云、假數以明優劣之分、言己與顏淵、十裁及二、明相去懸遠也、張葑侯云、一者數之始、十者數之終、顏生體有識厚、故聞始則知終、子貢識劣、故聞始裁至二也

孔子ニ答テ分ヲ審カニス、王弼カ云ク、數ヲ假テ優劣ノ分ヲ明ス、言ハ己ト顔淵與、十二シテ裁カニ二二及フ、明シ相去ルコトノ懸カニ遠コトヲ、張葑侯カ云ク、一ハ數ノ始ナリ、十八數ノ終ナリ、顔生ハ有ヲ體シテ識厚シ、故ニ始ヲ聞テ則チ終ヲ知ル、子貢カ識ハ劣ナリ、故ニ始ヲ聞テ裁カニ二二至ル

【經】

子曰、弗如也、

子ノ曰ク、如カ弗、

【疏】

弗不也、孔子聞子貢之答分有懸殊、故定之云不如也、

弗ハ不ナリ、孔子子貢カ答分ノ懸殊有ルコトヲ聞テ、ニ之ヲ定メテ如カ不ト云フ、

【經】

吾與、汝弗如也、

吾ト汝與（吾汝ニ與ス）如カ弗、

【疏】

孔子既答子貢之不如、又恐子貢有怨、故又云吾與汝皆不如也、所以安慰子貢也、

孔子既ニ子貢カ如カ不ルコトヲ答フ、又子貢カ怨有ランコトヲ恐ル、故ニ又吾ト汝與皆如カ不ト云フ、子貢ヲ安慰スル所以ナリ、

【注】

荀氏曰、既然子貢弗如、

荀氏カ曰ク、既ニ子貢カ如カ弗トイフコトヲ然ス、

【疏】

釋前弗如也

前ノ如カ弗トイフコトヲ釋ス

【注】

復云、吾與爾俱不如者、蓋欲以慰子貢心也、

復云ク、吾ト爾與俱ニ如カ不トハ、蓋シ子貢カ心ヲ慰

シメマク欲ス、

【一疏】

苞意如向解、而顧歡申苞注云、回爲德行之俊、賜爲言語之冠、淺深雖殊、而品裁未辨、故使名實無濫、故假問孰愈、子貢既審回賜之際、又得發問之旨、故舉十與二、以明懸殊愚智之異、夫子嘉其有自見之明、而無矜剋之貌、故判之以弗如、同之、故以吾與汝、此言我與爾雖異、而同言弗如、能與聖師齊見、所以爲慰也、侃謂顧意、是言我與爾俱明汝不如也、非言我亦不如也、而秦道賓云、爾雅云、與許也、仲尼許子貢之不如、

苞カ意向ノ解ノ如シ、顧歡苞カ注ヲ申ヘテ云ク、回ハ德行ノ俊爲リ、賜ハ言一語ノ冠爲リ、淺深殊ナリト雖、而モ品裁未タ辨セ未、故ニ名實ヲ使テ濫ルコト無ラ使ム、故ニ假テ孰カ愈レルト問フ、子貢既ニ回賜カ際ヲ審ニス、又問コトヲ發スルノ旨ヲ得タリ、故ニ十ト二與ヲ擧テ、懸殊愚智ノ異ヲ明ス、夫ト子其ノ自見ノ明有テ、而シテ矜剋(矜リ剋ツ)ノ貌無嘉ス、故ニ之ヲ判シテ如カ弗トイフヲ以テ、之ト同ス、故ニ吾ト汝與イフヲ以テス、此ハ言ハ我ト爾與異ナリト雖モ、而モ同シ言ハ如カ弗、能

ク聖師與見ヲ齊ス、慰ヲ爲ス所以ナリ、侃謂ラク顧カ意ハ、是レ言ハ我ト爾與ハ俱ニ汝如カ不ルコトヲ明ラカニス、我モ亦タ如カ不ト言フニ非ストイフト(侃顧カ意ハ、是レ言ハ我ト爾與ハ俱ニ汝如カ不ルコトヲ明ラカニス、我モ亦タ如カ不ト言フニ非ストイフト謂ヘリ)、而シテ秦道賓カ云ク、爾雅ニ云ク、與ハ許ナリ、仲尼子貢カ如カ不トイフコトヲ許ス、

- (一) 「云」、武内本作「曰」。
- (二) 「之」、武内本作「也」。
- (三) 「云」、武内本作「曰」。
- (四) 「葑侯」、武内本作「封溪」。
- (五) 「云」、武内本作「曰」。
- (六) 「云」、武内本作「曰」。
- (七) 「故」、武内本無此字。
- (八) 「云」、武内本作「曰」。
- (九) 「如」下、武内本有「也」字。

【經】

宰予晝寢、

宰予晝寢ネタリ、

【疏】
寢眠也、宰予惰學而晝寢、

寢ハ眠ナリ、宰予學ニ惰リテ晝^{ユツタ}、寢タリ、

【注】
苞氏曰、宰予弟子宰我也、

苞氏カ曰ク、宰予ハ弟子宰我ソ、

【經】
子曰、朽木不可彫也、

子ノ曰ク、朽タル木ヲハ彫^{エリフヘカラス}可不、

【疏】
孔子責宰予晝眠、故爲之作譬也、朽敗爛也、彫彫鏤刻畫也、夫名工巧匠所彫刻、唯在好木則、其器乃成、若施工於爛朽之木則、其器不成、故云、朽木不可彫也、

孔子宰予カ晝^セ眠タルヲ責ム、故ニ之カ爲ニ譬ヲ作ス、朽ハ敗^ヤ爛^{タタ}（敗レ^ヤ爛ル）ナリ、彫ハ彫^チ鏤^ム（鏤ム）刻^チ畫^ハナ

リ、夫レ名工巧匠ノ彫^チ刻スル所ハ、唯好^タ木ニ在ル則ハ、其ノ器乃シ成ル、若シ工ヲ爛^チ朽ノ木ニ施ス則ハ、其ノ器成ラ不^ス、故ニ云ク、朽タル木ヲハ彫^チ可不、

【注】
苞氏曰、朽腐也、彫彫琢刻畫、

苞氏カ曰ク、朽^{キウ}ハ腐、彫ハ彫^チ琢刻^チ畫ソ、

【經】
糞土之牆、不可圻也、

糞^チ土ノ牆ヲハ、圻^チカニス可不、

【疏】
牆、謂牆壁也、圻謂圻^チ墁^チ、使之平泥也、夫圻墁牆壁、若牆壁土堅實者、則易平泥光飭耳、若鏤於糞土之牆則、頽壞不平、故云、不可圻也、所以言此二者、言汝今當晝而寢、不可復教、譬如爛木與糞土牆、之不可施巧也、

牆トハ、牆^チ壁ヲ謂フ、圻トハ圻^チ墁^チシテ之ヲ使テ平^チ泥ナラ使謂フ、夫レ牆^チ壁ヲ圻^チ墁スルコト、若シ牆^チ壁ノ土堅

實ナレハ、則チ平一泥光一飭(シヨク)(飭ル)シ易キ耳、若シ糞一土
ノ墻ヲ鏝カニスル則ハ、類(カク)(類ル)一壞シテ平ヲ不、故ニ
云ク、坊カニス可(ヘカラス)不、此ノ二ノ者ヲ言フ所以ハ、言
ハ汝今晝ニ當テ寢タリ、復タ教フ可(ヘカラス)不ルコト、譬ハ爛
木ト糞土ノ墻與ノ、巧ヲ施ス可(ヘカラス)不ルカ如シ

【注】

王肅曰、坊墁也、

王肅カ曰ク、坊(ヨ)ハ墁(マシ)、

【疏】

注王云、坊(ユ)鏝也、

注ニ王カ云ク、坊ハ鏝ナリトイフヲ、

【注】

二者喻雖施巧、猶不成也、

二ノ者ヲハ巧ヲ施スト雖モ、猶成ラ(タ)不(ス)ルニ喩フ、

【經】

於予與何誅、

予ニ於テ何ソ誅メン、

【疏】

誅責也、言所責者、當責有知之人、而今宰予無知則、何責
乎、予宰予、與語助也、言不足責也、言不足、則是責之
深也、

誅ハ責ナリ、言ハ責ムル所ノ者ハ、當ニ有知ノ人ヲ責ム
當シ、而ヲ今宰予無知ナル則ハ、何ソ責メンヤ、予ハ宰
予、與ハ語ノ助ナリ、言ハ責ムルニ足ラ不、足ラ不ト言フ
コトハ、則チ是レ責ムルコトノ深ナリ、

【注】

孔安國曰、誅責也、今我當何責於汝乎、深責之辭也之也

孔安國カ曰ク、誅ハ責、今我當ニ何ソ汝ヲ責ム當ケンヤ
ト、深ク責ムルノ辭ソ

【疏】

然宰我有此失者、一家云、其是中人、豈得無失、一家云、與孔子爲教、故託跡受責也、故珊瑚琳公(二二)云、宰子見時後學之徒、將有懈廢之心生、故假晝寢、以發夫子切磋之教、所以互爲影響者也、范寧(二五)云、夫宰我升堂、四科之流也、豈不免乎晝寢之咎、以貽朽糞之譏乎、時無師徒共明勸誘之教、故託夫弊跡、以爲發起也、

然ルニ宰我此ノ失有ルコトハ、一家ニ云ク、其レ是レ中人ナリ、豈ニ失無コトヲ得ンヤ、一家ニ云ク、孔子與教ヲ爲ス、故ニ跡ニ託シテ責メヲ受ク、故ニ珊瑚琳公カ云ク、宰子時ニ後學ノ徒ノ、將ニ懈廢ノ心生スルコト有ント將ルヲ見ル、故ニ晝寢タルヲ假テ、以テ夫子ノ切磋ノ教ヲ發ス、互ニ影響ヲ爲ス所以ノ者ナリ、范寧カ云ク、夫レ宰我ハ堂ニ升ル、四科ノ流ナリ、豈ニ晝寢ルノ咎ヲ免レシテ、朽糞ノ譏ヲ貽サン乎、時ニ師徒共ニ勸誘ノ教ヲ明スコト無シ、故ニ夫レ弊跡ニ託シテ、發起ヲ爲ス、

【經】

子曰、始吾於人也、聽其言、而信其行、

子ノ曰ク、始メ吾人ニ於テ(於ケルコト)、其ノ言ヲ聽テ、其ノ行ヲ信シキ、

【疏】

始謂孔子少年時也、孔子歎世醜薄之速、今異昔也、昔時猶可、故吾少時聞於人所言、便信其能有行、故云、而信其行也、

始トハ孔子少年ノ時ヲ謂フ、孔子世ノ醜(醜シ)薄ノ速ニシテ、今ノ昔ニ異ナルコトヲ歎ス、昔時ハ猶可ナリ、故ニ吾少カツシ時二人ニ於言フ所ヲ聞テ、便チ其ノ能ク行有ルコトヲ信ス、故ニ云ク、其ノ行ヲ信スト、

【經】

今吾於人也、聽其言、而觀其行、

今吾人ニ於テ(於ケルコト)、其ノ言ヲ聽テ、其ノ行ヲ觀ル、

【疏】

今謂孔子末時也、不復聽言信行、乃更聽言而必又須觀見其行也、

今トハ孔子ノ末^レ時ヲ謂フ、復言ヲ聽テ行ヲ信セ不^ス、乃チ更ニ言ヲ聽テ必ス又須ク其ノ行ヲ觀^ル見ス須シ、

【經】

於予與改是、

予ニ於是ヲ改ム、

【疏】

是此也、言我所以不復聽言信行、而更爲聽言觀行者、起於宰予而改爲此、所以起宰予而改者、我當信宰予是勤學之人、謂必不懶惰、今忽正直^{二八}晝而寢則、如此之徒、居然不復可信、故使我并不復信於時人也、

是ハ此ナリ、言ハ我復言ヲ聽テ行ヲ信セ不^ス、更ニ言ヲ聽テ行ヲ觀ルコトヲ爲ス所以ハ、宰予ヨリ起テ改ムルコト此ヲ爲ス、宰予ニ起テ改ムル所以ハ、我當ニ宰予ハ是レ勤學ノ人ト信ス、謂ラク必ス懶^レ惰ナラ不ト(必ス懶^レ惰ナラ不ト謂ヘリ)、今忽^レ正直^{二八}晝ツテ寢ル則ハ、此ノ如キノ徒、居然トシテ復信ス可^ヘ不^ス、故ニ我ヲ使テ并ニ復時ノ人ヲ信セ不^ラ使ム、

【注】

孔安國曰、改是者、始聽言信行、今更察言觀行、發於宰我^{二九}之晝寢也、

孔安國カ曰ク、是ヲ改トハ、始メハ言ヲ聽テ行ヲ信シキ、今ハ更ニ言ヲ察シ行ヲ觀ルコト、宰我カ晝^レ寢タルニ發ス、

- (一) 「寢」下、武内本有「也」字。
- (二) 「也」、武内本無此字。
- (三) 「晝」下、武内本有「也」字。
- (四) 「牆」、武内本作「牆」、下同。
- (五) 「圻」、武内本作「圻」、下同。
- (六) 「墁」、武内本作「鏝」、下同。
- (七) 「墁」下、武内本有「之」字。
- (八) 「巧」、武内本作「功」、下同。
- (九) 「注王云圻鏝也」、武内本無此六字。
- (一〇) 「足」下、武内本有「責」字。
- (一一) 「則」、武内本作「責即」。
- (一二) 「之也」、武内本無此二字。
- (一三) 「云」、武内本作「曰」。
- (一四) 「以」、武内本作「謂」。

(一五) 「云」、武内本作「曰」。

(一六) 「我」下、武内本有「者」字。

(一七) 「速」、武内本作「迹」。

(一八) 「直」、武内本無此字。

(一九) 「之」、武内本無此字。

【經】

子曰、吾未見剛者、

子ノ曰ク、吾未^わタ剛^ス者ヲ見未^ス、

【疏】

剛謂性無求^(三三)欲者也、孔子言、我未見世有剛性無慾之人也、

剛トハ性ニ求メ^レ欲スルコト無キ者ヲ謂フ、孔子ノ言ク、
我未^わタ世ニ剛性無^ス慾ノ人有ルコトヲ見未^ス、

【經】

或對曰申枋、

或ヒト對ヘテ曰ク申枋ナリ、

【疏】

或有人聞孔子語、而答之云、魯有姓申名枋者、其人剛也、

或ル人有テ孔子ノ語ヲ聞テ、之ニ答テ云ク、魯姓ハ申名ハ
枋トイフ者有リ、其ノ人剛ナリ、

【注】

荀氏曰、申枋魯人也、

荀氏カ曰ク、申枋ハ魯人ナリ、

【經】

子曰、枋也慾、焉得剛、

子ノ曰ク、枋ハ慾アリ、焉ソ剛ヲ得ン、

【疏】

孔子謂^(四)或人云、夫剛人性無求、而申枋性多情慾、多情慾
者、必求人、求人則不得是剛、故云焉得剛、

孔子或ル人ニ謂テ云ク、夫レ剛人ハ性ニ求コト無シ、
而ルヲ申枋ハ性ニ情^レ慾多シ、情^レ慾多キ者ハ、必ス人ニ求

ム、人ニ求ムル則ハ是レ剛ナルコトヲ得不^す、故ニ云ク焉^{ノたまは}
ソ剛ヲ得ン、

【注】

孔安國曰、慾多情慾也、

孔安國カ曰ク、慾ハ情慾多キソ、

(一) 「求」、武内本無此字。

(二) 「欲」、武内本作「慾」。

(三) 「語」、武内本作「説」。

(四) 「謂」、武内本作「語」。

(五) 「云」、武内本作「曰」。

【經】

子貢曰、我不欲人之加諸我也、

子貢カ曰ク、我人ノ我ヲ加カンコトヲ欲セ不^す、

【疏】

子貢自願云、無人以非理、加陵之於我也、

子貢自願テ云ク、人ノ非理ヲ以テ、我ヲ加キ陵クコト
無ランコトヲ、

【經】

吾亦欲無加諸人、

吾モ亦タ人ヲ加クコト無カラマク欲ス、

【疏】

又云、我匪唯願人不以非理、加於我、而我亦願不以非理、
加陵於人也、

又云ク、我唯タ人ノ非理ヲ以テ、我ヲ加カ不^スンコトヲ願
フノミニ匪ス、而シテ我モ亦タ非理ヲ以、人ヲ加キ陵カ
不ランコトヲ願フ、

【注】

馬融曰、加陵也、

馬融カ曰ク、加ハ陵、

【經】子曰、賜也非爾所及也、

子ノ曰ク、賜爾カ及ハン所ニ非ス、

【疏】

孔子抑子貢也、言能不招人以非理見加、及不以非理加人、此理深遠、非汝分之所能及也、爾汝也、故袁氏云、加不得理之謂也、非無過者、何能不加人、人亦不加己、盡得理賢人也、非子貢之分也、

孔子子貢ヲ抑フ、言ハ能ク人ヲ招テ非理ヲ以加カ見不、及ヒ非理ヲ以人ヲ加カ不ルコトハ、此ノ理深遠ナリ、汝カ分ノ能ク及ハン所ニ非ス、爾ハ汝ナリ、故ニ袁氏カ云ク、加トハ理ヲ得不ルノ謂ナリ、過チ無キ者ニ非ンハ、何ソ能ク人ヲ加カ不、人モ亦タ己ヲ加カ不ンヤ、盡ク理ヲ得ルノ賢人ナリ、子貢カ分ニ非ス、

【注】

孔安國曰、言不能止人、使不加非義於己之也、

孔安國カ曰ク、言ハ人ヲ止メテ、非義ヲ己ニ加ヘ不ラ使

ムルコト能ハ不、

【疏】

然不加人、人不加己、竝難可能、而注偏釋不加己者、略也、

然ルニ人ヲ加カ不、人已ヲ加カ不ルコト、竝ニ能クス可キコト難シ、而ルヲ注ニ偏ニ己ヲ加カ不ルコトヲ釋スルコトハ、略スレハナリ、

(一) 「無」、武内本作「我不願世」。

(二) 「云」、武内本作「曰」。

(三) 「之」、武内本無此字。

【經】

子貢曰、夫子之文章、可得而聞也、

子貢カ曰ク、夫ノ子ノ文ノ章ヲハ、得テ聞ツ可シ、

【疏】

子貢此歎顏氏之鑽仰也、但顏既庶幾與聖道相隣、故云鑽仰之、子貢既懸絕、不敢言其高堅、故自說聞於典籍而已、文

章者、六籍也、六籍是聖人之筌蹄、亦無關於魚兔矣、六籍者有文字章著、煥然可修耳目、故云、夫子文章可得而聞之、

子貢此ハ顔氏カ鑽^ル仰^ヲ歎^ス、但夕顔ハ既ニ庶幾聖^ノ道與^ト相^イ隣^ル、故ニ云テ之ヲ鑽^ル仰^ス、子貢ハ既ニ懸^カニ絶^ス、敢テ其ノ高^ク堅^ク言^ハ不^ス、故ニ自^ラ典^ヲ籍^ヲ聞^{コト}ヲ説^ク而^レ已^ミ、文^ト章^トハ、六^ノ籍^{ナリ}、六^ノ籍^ハ是^レ聖^ノ人^ノ筌^蹄蹄^{ナリ}、亦夕魚^ノ兔^ニ關^ルコト無^シ、六^ノ籍^ハ文^ノ字^ノ章^ノ著^{ナル}(章^カニ著^ル)有^リ、煥^シ然^トシテ耳^ト目^トニ修^シメツ可^シ、故ニ云ク、夫^ノ子^ノ文^ノ章^ヲハ得^テ聞^ツ可^シ、

【注】章明也、文彩形質著見、可得^レ以^テ耳目自修也、

章ハ明、文^ノ彩^形質^著見^レ見^ユ、得^テ耳^ト目^ヲ以^テ自^ラ修^ム可^シ、

【疏】然典籍着見、可聞可觀、今不云可見、而云可聞者、夫見之爲近、聞之爲遠、不敢言躬自近見、政寄於於遠聞之而已也、

然ルニ典籍ハ着^レ見^ユ、聞^ク可^ク觀^ル可^シ、今見^ル可^シト云ハ不^シテ、聞^ク可^シト云フコトハ、夫^レ之^ヲ見^ルヲ近^ト爲^ス、之^ヲ聞^クヲ遠^シト爲^ス、敢^テ躬^ニ自^ラ近^ク見^ルト言^ハ不^シテ、政^ニ遠^ニ聞^ニ寄^スル而^レ已^ミ、

【經】夫子之言、性與天道、不可得而聞也已矣、

夫^ノ子^ノ言^ト、性^ト天^ト道^與ハ、得^テ聞^ク可^ラ不^ラク已^ミ、

【疏】夫子之言、則謂文章之所言也、性孔子所稟以生者也、天道謂元亨日新之道也、言孔子六籍、乃是人之所見、而六籍所言之旨、不可得而聞也、所以爾者、夫子之性與天地元亨之道、合其德致、此處深遠、非凡人所知、故其言不可得聞之、

夫^ノ子^ノ言^トハ、則^チ文^ノ章^ノ言^ヲ謂^フ、性ハ孔子ノ稟^テ以^テ生^スル所^ノ者^{ナリ}、天^ノ道^トハ元^ノ亨^日新^ノ道^ヲ謂^フ、言ハ孔子ノ六^ノ籍^ハ、乃^チ是^レ人^ノ見^ル所^ト、而^シテ六^ノ籍^ニ言^フ所^ノ旨^ハ、得^テ聞^ク可^ラ不^ラ、爾^ル所^ニ以^テハ、夫^ノ子^ノ性^ハ天^ノ地^元亨^ノ道^與、其^ノ德^ニ致^ヲ合^フ、此^ノ

處^{トコロ}深遠ナリ、凡人ノ知ル所ニ非ス、故ニ其ノ言^{コト}得テ聞ク可^{ヘカ}ラ不^ス、

新之道、合德也、

【注】
性者、人之所受以生者也、

性ハ、人ノ受テ以テ生スル所ノ者ナリ、

【疏】
人稟天地五常之氣、以生、曰性、性生也、

人ハ天^一地^二五^三常^四ノ氣ヲ稟テ、以テ生^レス、性ト曰フコトハ、性ハ生ナリ、

【注】
天道者、元亨日新之道也、

天^一道^二ハ、元^三亨^四日^五新^六ノ道ナリ、

【疏】
元善也、亨通也、日新、謂日日不停、新新不已也、謂天善

道、通利萬物、新新不停者也、言孔子所稟之性、與元亨日

元ハ善ナリ、亨ハ通ナリ、日^一新^二トハ、日^一日^二ニ停ラ不^ス、新^一新^二トシテ已マ^レ不^ルヲ謂フ、天ノ善^一道^二トハ、萬^一物^二ヲ通^レ利シテ、新^一新^二トシテ停ラ^レ不^ル者ヲ謂フ、言ハ孔子ノ稟タル所ノ性ハ、元^一亨^二日^三新^四ノ道^五與^レ、德ヲ合フ、

【注】
深微、故不可得而聞也、

深^一微^二ナリ、故ニ得^レテ聞ク可^{ヘカ}ラ不^ス、

【疏】
與^(一)元^(二)亨^(三)合^(四)德^(五)、故深遠也、不可得而聞、或云、此是孔子死後、子貢之言也、故大史叔明云、文章者、六籍是也、性與天道、如何注、以此言之、是夫子死後、七十子之徒、追思曩日聖師平生之德音、難可復值、六籍^(一)則^(二)有^(三)性^(四)與^(五)天^(六)道^(七)、但垂於世者可蹤、故千載之下、可得而聞也、到^(一)於^(二)口^(三)說^(四)言^(五)吐、性與天道、蘊藉之深止乎身者、難繼、故不可得而聞也、侃案何注似不如此、且死後之言、凡者亦不可聞何獨聖乎、

元亨與德ヲ合フ、故ニ深ク遠ナリ、得テ聞ク可ラ不^レ、或ハ云ク、此レハ^レ是レ孔子死シテ後、子貢カ言ナリ、故ニ大史叔明カ云ク、文章トハ、六ノ籍是ナリ、性ト天ノ道與ハ、何カ注ノ如キンハ、此ヲ以之ヲ言フニ、是レ夫^レ子死シテ後ニ、七十ノ子ノ徒、曩^レ日聖^レ師ノ平生ノ德音ヲ追^レ思スルニ、復タ値フ可キコト難シ、六ノ籍ニハ則チ性ト天ノ道與^ト有リ、但ニ世ニ垂ルル者ハ蹤ミツ可シ、故ニ千載ノ下、得テ聞ツ可シ、口ニ説キ言ニ吐ク、性ト天ノ道與ハ、蘊^レ藉ナルコト深シ身ニ止ル者ニ到リテハ、繼キ難シ、故ニ得テ聞ク可ラ不^レ、侃何カ注ヲ案スルニ此ノ如クナラ不^ルニ似レリ、且タ死シテ後^ノ言ハ、凡ソノ者モ亦タ聞ク可^レ不^レ何ソ獨リ聖ノミナランヤ、

- (一) 「堅」、武内本作「賢」。
- (二) 「之」、武内本作「也」。
- (三) 「着」、武内本作「著」。
- (四) 「觀」、武内本作「觀」。
- (五) 「政」下、武内本有「欲」字。
- (六) 「於」、武内本無此字。
- (七) 「也」、武内本無此字。
- (八) 「則」、武内本作「即」。
- (九) 「亨」、武内本作「亨」、下同。

- (一〇) 「之」、武内本作「也」。
- (一一) 「遠」、武内本作「徵」。
- (一二) 「也」、武内本無此字。
- (一三) 「聞」下、武内本有「也」字。
- (一四) 「之」下、武内本有「與」字。
- (一五) 「則」、武内本作「即」。
- (一六) 「到」、武内本作「至」。

【經】

子路有聞、未能行、唯恐有聞、

子路聞クコト有テ、未タ行フコト能ハ未ルトキハ、唯タ恐ラクハ聞クコト有ランコトヲ恐ル、

【疏】

子路稟性、果決言無宿諾、故前有所聞於孔子則、欲修行、若未及能行則、不願更有所聞、恐行之不周、故唯恐有聞也、

子路性ヲ稟タルコト、果決ニシテ言宿^{コトヲアラカシ}メ^宿諾スルコト無シ、故ニ前^{サキ}ニ孔子ニ聞ク所有ル則ハ、修^レ行センコトヲ欲ス、若シ未タ能ク^レ行フニ及ハ未ル則ハ、更ニ聞ク所有ラ

ンコトヲ願ハ不、恐ハ之ヲ行フコトノ周カラ不^{あまね}ンコトヲ、
故ニ唯タ聞クコト有^さンコトヲ恐ル、

【注】

孔安國曰、前所聞、未能及得行、故恐後有聞、不得竝行也、

孔安國カ曰ク、前ニ聞ク所、未^{とこ}タ能ク行フコトヲ得ルニ及ハ未、故ニ後ニ聞クコト有テ、竝ニ行フコトヲ得^さ不^らンコトヲ恐ル、

(一) 「則」、武内本作「即」。

【經】

子貢問曰、孔文子、何以謂之文也、

子貢問テ曰ク、孔文子ヲハ、何ヲ以テカ之ヲ文ト謂フ、

【疏】

衛大夫孔叔圉、以文爲諡、子貢疑其太高、故問於孔子、問其何德、而諡文也、

衛ノ大夫孔叔圉ナリ、文ヲ以テ諡ト爲、子貢其ノ太高コトヲ疑フ、故ニ孔子ニ問テ、其ノ何ノ德アリテカ、文ト諡スト問フ、

【注】

孔安國曰、孔文子衛大夫孔叔圉也、文諡也、

孔安國カ曰ク、孔文子ハ衛ノ大夫孔叔圉ノ、文ハ諡、

【經】

子曰敏而好學、不恥下問、是以謂之文也、

子ノ曰ク敏ニシテ學ヲ好ム、下ニ問ニ恥チ不、是ヲ以之ヲ文ト謂フ、

【疏】

答所以諡文之由也、敏疾速也、言孔圉之識智疾速、而所好在學、若有所不知則、不耻諮問在己下之人、有此諮問行、故謂爲文也、

文ト諡スル所以ノ由ヲ答フ、敏ハ疾速ナリ、言ハ孔圉カ識智疾速ニシテ、好ム所ハ學ニ在リ、若シ知ラ不^らル所

有ル則ハ、己カ下ニ在ルノ人ニ諮ヒ^レ問フコトヲ耻チ不^ス、此ノ諮ヒ^レ問フノ行有リ、故ニ謂テ文ト爲^ス、

【注】

孔安國曰、子産鄭大夫公孫僑也、

孔安國カ曰ク、子産ハ鄭ノ大夫公孫僑^{キョウ}ソ、

【注】

孔安國曰、敏者識之疾也、下問問凡在己下者也、

【經】

其行己也恭、

孔安國カ曰ク、敏トハ識ルコトノ疾^トキノ、下^レ問トハ凡ソ己カ下ニ在ル者^トニ問ソ、

其レ己ヲ行フニ恭アリ、

(一) 「於」、武内本無此字。

(二) 「子」下、武内本有「也」字。

(三) 「諮問」、武内本作「諸」。

【疏】

一也、言其行身、己於世常恭從、不逆忤人物也、

【經】

子謂子産、有君子之道四焉、

一ナリ、言ハ其レ身ヲ行フ、己^{おの}世ニ於テ常ニ恭從ニシテ、人^{サカ}物ニ逆イ^{サカ}忤ハ不^ス、

子^{サン}子^ノ産^ノヲ^ノ謂^ハク、君^ノ子^ノノ^道四ツ有リ、

【經】

其事上也敬、

【疏】

言子産有四德、竝是君子之道也、

其レ上ニ^{つかま}事ツルニ敬アリ、

言ハ子産四^レ德有リ、竝ニ是レ君^ノ子^ノノ^道ナリ、

【疏】

是二也、人若事君親及凡在己上者、必皆用敬也

是レ二ナリ、人若シ君親及ヒ凡ソ己カ上ニ在ル者ニ事フルニ、必皆敬ヲ用フかならずみナ

【經】

其養民也惠

其レ民ヲ養フニ惠アリ

【疏】

三也、言其養民、皆用恩惠也、故孔子謂爲古之遺愛也

三ナリ、言ハ其レ民ヲ養ニ、皆恩惠ヲ用フ、故ニ孔子謂古ノ遺愛ト爲スミテ

【經】

其使民也義、

其レ民ヲ使フニ義アリ、

【疏】

四也、義宜也、使民不奪農務、各得所宜也

四ナリ、義ハ宜ナリ、民ヲ使ニ農ノ務ヲ奪ハ不、各宜シキ所ヲ得セシムツカふ

【經】

子曰、晏平仲善與人交、

子ノ曰ク、晏平仲善ク人與交ル、ト

【疏】

言晏平仲與人交結有善也、

言ハ晏平仲人與交結スルコト善有リ、ト

【經】

久而人敬之、

久ケレトモ人之ヲ敬ス、

【疏】

此善交之驗也、凡人交易絶、而平仲交久而愈敬之也、孫綽云、交有傾盖如舊、亦有白首如新、隆始者易、尅終者難、敦厚不渝、其道可久、所以難也、故仲尼表焉

此ハ善キ交ノ驗シルシナリ、凡ソ人ノ交ハ絶シ易シ、而ルニ平仲カ交ハ久トモ愈イイヨ之ヲ敬ス、孫綽カ云ク、交ハ盖ヲ傾テ舊ノ如クナル有リ、亦白一首マテニ新カ如ナル有リ、始ヲ隆カニスル者ハ易ク、終ヲ尅ククスル者ハ難シ、敦一厚渝カハラ不、其ノ道久カル可キハ、難シトスル所以ナリ、故ニ仲尼焉ヲ表ス

【注】

周生烈曰、齊大夫也。晏姓也、平諡也、名嬰也

周生烈方曰ク、齊ノ大夫。晏ハ姓、平ハ諡、名ハ嬰チ

(一) 「而」下、武内本有「人」字。

(二) 「云」、武内本作「曰」。

(三) 「尅」、武内本作「克」。

【經】

子曰、臧文仲居蔡、

子ノ曰ク、臧文仲蔡ヲ居ク、

【疏】

居猶畜也、蔡大龜也、禮唯諸侯以上、得畜大龜以下國之吉凶、大夫以下、不得畜之、文仲是魯大夫而畜龜、是僭人君禮也、

居ハ畜チクノ猶シ、蔡ハ大一龜ナリ、禮ニ唯タ諸侯ヨリ以一上ハ、大一龜ヲ畜クヘテ以テ國ノ吉一凶ヲトコトヲ得、大夫ヨリ以一下ハ、之ヲ畜クコトヲ得不、文仲ハ是レ魯ノ大夫ニシテ而シテ龜ヲ畜クフ、是レ人君ノ禮ヲ僭スルナリ、

【注】

荀氏曰、臧文仲魯大夫臧孫辰也、

荀氏カ曰ク、臧文仲ハ魯ノ大夫臧孫辰ソ、

【注】

文諡也蔡國君之守龜也、出蔡地、因以爲名焉、

文ハ諡蔡ハ國君ノ守リノ龜ソ、蔡ノ地ヨリ出ツ、因テ以テ名ト爲ス、

【疏】

國君守國之龜、出蔡地、因呼龜爲蔡也、

國一君ノ國ヲ守ルノ龜ナリ、蔡ノ地ヨリ出ツ、因テ龜ヲ呼テ蔡ト爲ス、

【注】

長尺有二寸、

長サ尺有二寸、

【疏】

蔡地既出大龜、龜長尺二寸者、因名蔡也、

蔡ノ地ヨリ既ニ大龜ヲ出ス、龜ノ長サ尺ニ寸ナル者、因テ蔡ト名ク、

【注】

居蔡僭之也、

蔡ヲ居クハ僭スルソ、

【疏】

大夫亦得ト用龜、龜小者也、不得畜蔡也、文仲畜之、是僭濫也、

大夫モ亦トニ龜ヲ用コトヲ得、龜ハ小キナル者ナリ、蔡ヲ畜ルコトヲ得不、文仲之ヲ畜フ、是レ僭濫ナリ、

【經】

山節藻稅、

節ヲ山ニシ稅ヲ藻ク、

【疏】

此奢修也、山節者、刻柱頭、露節爲山、如今拱斗也、藻稅者、畫梁上侏儒柱、爲藻文也、人君居室無此禮、而文仲爲之、故曰爲奢也、宮室之飭、士去首去本、大夫達稜、諸侯斷而礪之、天子加密石焉、出穀梁傳

此ハ奢リ修ルナリ、節ヲ山ニストハ、柱ノ頭ヲ刻テ、節ヲ露シテ山ヲ爲ス、今ノ拱斗ノ如シ、稅ニ藻

クトハ、梁上ノ侏儒柱ニ畫テ、藻ノ文ヲ爲ス、人君ノ
居一室ニ此ノ禮無シ、而ルヲ文仲之ヲ爲ス、故ニ曰テ奢レ
リト爲ス、宮室ノ飭リ、士ハ首ヲ去ケ本ヲ去ク、大夫ハ稜
(稜)ヲ達ス、諸侯ハ斷ツテ之ヲ髻ク、天子ハ密一石ヲ加
フ、穀梁傳ヨリ出ツ

【注】

苞氏曰、節者栢也、刻鏤爲山也、

苞氏カ曰ク、節ハ栢、刻一鏤シテ山ヲ(山ニ)爲ル、

【疏】

言刻栢柱頭、爲山也、栢是梁上柱名也、

言ハ栢柱ノ頭ヲ刻テ、山ニ爲ル、栢ハ是レ梁上ノ柱ノ名
ナリ、

【注】

稅者、梁上楹也、

稅ハ、梁上ノ楹、

【疏】

梁上楹、即是櫺、櫺即侏儒柱也、苞兩而言之、當是互明之
也、刻侏頭、爲山也、畫櫺身、爲藻文也、又有一本、注
云、山節者、刻櫺爲山也、

梁上ノ楹トハ、即チ是レ櫺ナリ、櫺ハ即チ侏儒柱ナリ、
苞ハ兩ニシテ之ヲ言フ、當ニ是レ互ヘテ之ヲ明カ當、櫺
ノ頭ヲ刻テ、山ニ爲ル、櫺ノ身ニ畫テ、藻ノ文ヲ爲ス、
又一一本有リ、注ニ云ク、節ヲ山ニスルトハ、櫺
(櫺)ヲ刻テ山ニ爲ルソ、

【注】

畫爲藻文、言其奢侈也、

畫テ藻ノ文ヲ爲ス、言ハ其レ奢侈ナリ、

【疏】

若以注意則、此是非僭也、正言是奢侈失禮、人君無此禮、
故不僭也、稅梁上侏儒柱也、此注爲便、鄭注明堂位亦云、
刻櫺爲山也、

若シ注ノ意ヲ以スル則ハ、此レハ是レ僭ニ非ス、正ニ是レ奢ニ侈ニシテ禮ヲ失スルヲ言フ、人君ニ此ノ禮無シ、故ニ僭スルニ不^{あらす}、椀ハ梁上ノ侏儒柱ナリトハ、此ノ注ヲ便ト爲^{タより}、鄭カ注ノ明堂位ニ亦云ク、樽榼ヲ刻テ山ニ爲ル、

【經】

何如其知也、

何^レ如^レソ其^レ知^レアラン、

【疏】

時人皆謂文仲是有智之人、故孔子出其僭奢之事、而譏時人也、故云、何如其智也、

時ノ人皆文仲ハ是レ有^レ智ノ人ト謂フ、故ニ孔子其ノ僭奢ノ事ヲ出シテ、時ノ人ヲ譏ル、故ニ云ク、何^レ如^レソ其^レ知^レアラン、

【注】

孔安國曰、非時人謂以爲知之

孔安國カ曰ク、時ノ人ノ謂テ^レ以テ知アリト爲ルコトヲ非ル

- (一) 「焉」、武内本無此字。
- (二) 「之」、武内本無此字。
- (三) 「拱」、武内本作「棋」。
- (四) 「曰」、武内本無此字。
- (五) 「儒」、武内本作「櫛」。
- (六) 「樽」、武内本作「薄」、下同。
- (七) 「知」、武内本作「智」、下同。
- (八) 「之」、武内本作「也」。

【經】

子張問曰、令尹子文

子張問テ曰ク、令尹子文

【疏】

令尹楚官名也、子文爲楚令尹、故曰令尹子文也、

令尹ハ楚ノ官ノ名ナリ、子文ハ楚ノ令尹爲リ、故ニ曰ク令尹子文ト、

【注】

孔安國曰、令尹子文楚大夫、姓鬬名穀、字於菟、

於菟、
孔安國カ曰ク、令尹子文ハ楚ノ大夫、姓ハ鬬名ハ穀、字ハ

【疏】

楚鬬伯比外家、是邳國、其還外家、通舅女生子、既耻之、仍送擲於山草中、此女之父、獵還、見虎乳飲小兒、因取養之、既未知其姓名、楚人謂乳爲穀、謂虎爲烏菟、音塗、此兒爲虎所乳、故名之曰穀於菟也、後知其是伯比子、故呼道鬬穀烏塗也、後長大而賢、仕楚爲令尹之官、范寧云、子文是諡也、

爲リ、范寧カ云ク、子文ハ是レ諡ナリ、

【經】

三仕爲令尹、無喜色、

三ヒ仕ヘテ令尹爲レトモ、喜ヘル色モ無シ、

【疏】

文子經仕楚、三過爲令尹之官、而顔色未曾善也、

文子楚ニ經仕ヘテ、三過令尹ノ官爲レトモ、顔色未タ曾テ善カラ未、

【經】

三已之無愠色、

三タヒ已メララルレトモ愠レル色モ無シ、

【疏】

已謂黜止也、作文子令尹、經三過被黜、而亦無愠恚之色也、

楚ノ鬬伯比カ外家ハ、是レ邳國ナリ、其レ外家ニ還テ、舅ノ女ニ通シテ子ヲ生ム、既ニ之ヲ耻ツ、仍送テ山草ノ中ニ擲ツ、此ノ女ノ父、獵シテ還ル。虎ノ乳ヲ小兒ニ飲マシムルヲ見テ、因テ取テ之ヲ養フ、既ニシテ未タ其ノ姓名ヲ知未、楚人乳ヲ謂テ穀ト爲、虎ヲ謂テ烏菟ト爲、音ハ塗、此ノ兒虎ノ爲ニ乳セラ所、故ニ之ヲ名テ穀於塗ト曰フ、後ニ其レ是レ伯比カ子ナリト知ル、故ニ呼テ鬬穀烏菟ト道フ、後ニ長一大ニシテ賢ナリ、楚ニ仕ヘテ令尹ノ官

已おぼラルルトハ黜チユウ（黜チユウ）一止セラルルヲ謂フ、文子令尹ト作テ、三過黜チユウケラ被ルコトヲ經レトモ、而トモ亦タ愠ウレリ、
悲ムノ色無シ、

【經】

舊令尹之政、必以告新令尹、

舊キ令尹ノ政ヲ、必ス以テ新シキ令尹ニ告ク、

【疏】

雖三過被黜、每被黜、受代之時、必以令尹舊政令、告語新人、恕其不知解也、

三過カヒリソケ黜チユウラ被ルト雖モ、黜チユウラ被ル毎ニ、代ヲ受クル時ニ、必ス令尹ノ舊政令ヲ以テ、新キ人ニ告ケ語ル、其ノ知リ解セランコトヲ恕ヨモシハカツテナリ、

【經】

何如也、

何イカ如ニ、

【疏】

子張問孔子、令尹行如此、是謂何人也、

子張孔子ニ問フ、令尹ノ行此ノ如シ、是ヲ何人トカ謂ハシ、

【經】

子曰忠矣、

子ノ曰ク忠アリ、

【疏】

孔子答言、臨代以舊告新、此是爲臣之忠者也、李充云、進無喜色、退無怨色、公家之事、知無不爲、忠臣之至也、

孔子答テ言ク、代ルニ臨テ舊ヲ以テ新ニ告ク、此レハ是レ臣ノ忠爲ル者ナリ、李充カ云ク、進モ喜フ色無シ、退モ怨ムル色無シ、公家ノ事、知テ爲不トイフコト無シ、忠臣ノ至レルナリ、

【經】

曰仁矣乎、

曰ク仁アリヤ、

【疏】

子張又問孔子、如子文之行、可得謂爲仁不乎、

子張又孔子ニ問フ、子文カ行ノ如キンハ、謂テ仁ト爲ルコトヲ得可ケンヤ不ヤ、

【經】

曰未知、焉得仁、

曰ク未タ知ラ未、焉ソ仁ヲ得ン、

【疏】

孔子答曰、唯聞其忠、未知、其何由、得爲仁乎、

孔子答テ曰ク、唯タ其ノ忠ヲ聞ク、未タ知ラ未、其レ何ニ由テカ、得テ仁ト爲ンヤ、

【注】

孔安國曰、但聞其忠事、未知其仁也、

孔安國カ曰ク、但タ其ノ忠事ヲ聞ク、未其ノ仁ヲ知ラ未、

【疏】

李充曰、子玉之敗、子文之舉、舉以敗國、不可謂智也、賊夫人之子、不可謂仁、侃謂、李爲不智、不及注也、

李充カ曰ク、子玉カ敗ハ、子文カ舉ナリ、舉シテ以テ國ヲ敗ル、智ト謂フ可不、夫ノ人ノ子ヲ賊ス、仁ト謂フ可不、侃謂ラク、李ハ不智ト爲ルハ、注ニ及不、

【經】

崔子弑齊君、

崔子齊ノ君ヲ弑ス、

【疏】

崔子齊大夫崔杼也、弑其君莊公也、云弑者、夫上殺下曰殺、殺名爲卑也、下殺上曰弑、弑試也、下之害上、不得即而致殺、必先相試以漸、故易曰、臣弑君、子弑父、非一朝一夕、其所從來久矣、如履霜以至堅氷也、

崔子ハ齊ノ大夫崔杼ナリ、其ノ君莊公ヲ弑ス、弑スト云フコトハ、夫レ上ノ下ヲ殺スヲ殺ト曰フ、殺ノ名ハ卑ト爲ス、下ノ上ヲ殺ヲ弑ト曰フ、弑ハ試ナリ、下ノ上ヲ害スルコト、即ニシテ殺ヲ致スコトヲ得不、必ス先ツ相試シテ漸ヲ以テス、故ニ易ニ曰ク、臣君ヲ弑シ、子父ヲ弑ス、一朝一ト夕ニ非、其レ從來スル所久シ、霜ヲ履テ堅氷ニ至ルカ如シ、

【經】

陳文字有馬十乘、

陳文字馬十乘有リ、

【疏】

陳文字亦齊大夫也、十乘^(二六)卅匹馬也、四馬共乘一車、故十乘有卅疋也、

陳文字ハ亦齊ノ大夫ナリ、十乘ハ卅匹ノ馬ナリ、四馬共ニ一車ニ乗ス、故二十乘ハ卅疋有リ、

【經】

棄而違之、

棄テテ違^サンヌ、

【疏】

文字見崔杼弑君、而已力勢不能討、故棄卅疋馬、而違去此國、更往他邦、

文字崔杼カ君ヲ弑スルヲ見テ、而シテ已カ力勢討スルコト能ハ不、故ニ卅疋ノ馬ヲ棄テテ、而シテ此ノ國ヲ違ケ去テ、更ニ他邦ニ往ク、

【注】

孔安國曰、皆齊大夫也、崔杼作亂、陳文字惡之、捐其卅疋馬、違而去之也、

孔安國カ曰ク、皆齊大夫ナリ、崔杼亂ヲ作ストキニ、陳文字之ヲ惡テ、其ノ卅疋ノ馬ヲ捐テテ、違ケテ去ンヌ、

【疏】

捐猶棄放也、

捐ハ棄放ノ猶シ、

【經】 至於他邦、則又曰、猶吾大夫崔子也、

他邦ニ至テ、則チ又タ曰ク、猶ヲ吾カ大夫崔子カ猶シト
イヒテ、

【疏】

于時天下竝亂、國國皆惡、文子棄馬而去、復便至他邦、而
所至之國、亦亂與齊不異、故曰、猶吾大夫崔子也、

時于天下竝亂レテ、國國皆惡シ、文子馬ヲ棄テ去
テ、復タ便テ他邦ニ至ル、而シテ至ル所ノ國モ、亦亂齊
與異ナラ不、故ニ曰ク、猶ヲ吾カ大夫崔子カ猶シトイヒ
テ、

【經】

違之、

違^サンス、

【疏】

違去也、文子所至新國、又惡、故又去之也、

違ハ去ナリ、文子カ至ル所ノ新國モ、又惡シ、故ニ又之
ヲ去ル、

【經】 之至一邦、

【疏】 ヲイテ一邦ニ至テ、

【疏】

之往也、去所至新國、更復往一邦也、

之ハ往ナリ、至ル所ノ新國ヲ去テ、更ニ復一邦ニ往ク、
【經】 則又曰、猶吾大夫崔子也、

則チ又曰ク、猶ヲ吾カ大夫崔子カ猶シトイヒテ、

去初所至、更往一國、一國復昏亂、又與齊不異、故又曰、
猶吾大夫崔子也、

【疏】

去初所至、更往一國、一國復昏亂、又與齊不異、故又曰、
猶吾大夫崔子也、

初メ至ル所ヲ去テ、更ニ一國ニ往ク、一國モ復タ昏亂ニシテ、又齊與異ラ不、故ニ又曰ク、猶ヲ吾カ大夫崔子カ猶シトイヒテ、

【經】

違之、

違サンス、

【疏】

已復更去也、

已ニ復タ更ニ去ル、

【經】

何如、

何イカ如カン、

【疏】

子張更問孔子、言文子捨馬、三至新邦、屢違之、事如此、可謂爲何人也、

子張更ニ孔子ニ問フ、言ハ文子馬ヲ捨テテ、三ミタヒ新邦ニ至テ、屢シシ之ヲ違リ、事此ノ如シ、謂テ何人トカ爲可キ、

【經】

子曰清矣、

子ノ曰クイサキヨ清シ、

【疏】

清清楚楚也、顏延之曰、每適又違、潔身者也、

清ハ清イサキヨ潔ナリ、顏延之カ曰ク、適ユク每ニ又違サルハ、身ヲ潔イサキヨフスル者ナリ、

【經】

曰仁矣乎、

曰ク仁アリヤ、

【疏】

子張又問、若ニハ如文子之行、則可謂爲仁不乎、

子張又問フ、若シ文子カ行ノ如キンハ、則チ謂テ仁ト爲可
シヤ不ヤ、

【經】

曰未知、焉得仁、

曰ク未タ知未、焉ソ仁ヲ得ン、

【疏】

答子張云、其能自去、只可得清、未知所以得名爲仁乎、

子張ニ答テ云ク、其レ能ク自去ル、只得テ清トス可
シ、未得テ名テ仁ト爲ル所以ヲ知ラ未、

【注】

孔安國曰、文子避惡逆、去無道、求有道、當春秋時、臣陵
其君、皆如崔杼、無有可者也、

孔安國カ曰ク、文子惡逆ヲ避ケ、無道ヲ去テ、有道ヲ
求ム、春秋ノ時ニ當テ、臣其ノ君ヲ陵クコト、皆崔杼カ
如ニシテ、可ナル者有ルコト無シ、

【疏】

孫綽曰、大哉仁道之弘、以文子平粹之心、無惜之誠、文
子疾時惡之篤、棄馬而逝、三去亂邦、坐不暇寧、忠信有
餘、而仁猶未足、唯顏氏之子、體仁無違其亞聖之目乎、李
充曰、違亂求治、不汙其身清矣、而所之無可、驟稱其亂、
不如寧子之能愚、蘧生之可卷、未可謂智也、潔身而不濟
世、未可謂仁也、李謂爲未智、亦不勝爲未知也、

孫綽カ曰ク、大ナル哉仁道ノ弘キコト、文子平粹(粹)
ノ心ヲ以テ、惜ムコト無キノ誠アリ、文子ハ時ノ惡ヲ疾ム
コト篤シ、馬ヲ棄テテ逝イテ、三ヒ亂邦ヲ去ル、坐テ暇
アキ寧カラ不、忠信餘有ルヲ以テ、而シテ仁猶ヲ未タ
足ラ未、唯顏氏カ子、仁ヲ體シテ其ノ亞聖カ目ニ違フコ
ト無シ、李充カ曰ク、亂ヲ違テ治ヲ求ム、其ノ身ヲ汙サ
ズルハ清シ、而シテ之ク所可ナルコト無シ、驟其ノ
亂ヲ稱ス、寧子カ能ク愚ニシ、蘧生カ卷ク可ニ如カ不、未
タ智ト謂フ可未、身ヲ潔フシテ世ヲ濟ハ不、未タ仁ト謂
フ可未、李謂テ未タ智アラ未ト爲、亦未タ知ラ未ト爲ル
ニ勝ラ不、

(一) 「送」、武内本作「遂」。

- (二) 「穀」、武内本作「款」、下同。
- (三) 「烏」、武内本作「於」。
- (四) 「道」、武内本作「爲」。
- (五) 「塗」、武内本作「菟」。
- (六) 「云」、武内本作「曰」。
- (七) 「過」、武内本作「遇」。
- (八) 「善」、武内本作「喜」。
- (九) 「作文子」、武内本作「文字子」。
- (一〇) 「恕」、武内本作「怒」。
- (一一) 「告新」、武内本無此二字。
- (一二) 「云」、武内本作「曰」。
- (一三) 「卑」、武内本作「早」。
- (一四) 「弑」、武内本作「殺」。
- (一五) 「弑」、武内本作「殺」。
- (一六) 「冊」、武内本作「四十」、下同。
- (一七) 「疋」、武内本作「匹」。
- (一八) 「如」下、武内本有「此」字。
- (一九) 「云」、武内本作「曰」。
- (二〇) 「乎」、武内本作「也」。
- (二一) 「可」下、武内本有「止」字。
- (二二) 「惜」、武内本作「借」。

【經】

季文子三思、而後行、

季文子^{みだ}三ヒ思テ、而シテ後ニ行フ、

【疏】

言文子有賢行、舉事必三過思之也、

言ハ文子賢ニ行有リ、事ヲ舉スルコト必ス三^{タヒ}過之ヲ思フ、

【經】

子聞之曰、再思斯可矣、

子聞テ^{ノたまは}曰ク、再ヒ思テモ斯レ可ナリ、

【疏】

孔子美之言、若^ニ如文子之賢、不假三思、唯再思此則可也、
斯此也、

孔子之ヲ美テ^{ホメ}言ク、若シ文子カ賢ノ如キンハ、三ヒ思フ
ヲ假ラ不^ス、唯タ再ヒ思テモ此レ則チ可ナリ、斯ハ此ナリ、

【注】

鄭玄曰、季文子魯大夫季孫行父也、文諡也、文子忠而有賢行、其舉事寡過、不必及三思也、

鄭玄カ曰ク、季文子ハ魯ノ大夫季孫行父ソ、文ハ諡、文子忠アツテ賢^レ行有リ、其^レ事ヲ舉スルコト過チ寡シ、必スシモ三タヒ^レ思フニ及ハス、

【疏】

有一通云、言再過、二思則可也、又季彪云、君子之行、謀其始、思其中、慮其終、然後允合事機、舉無遺算、是以曾子三省其身、南容三復白圭、夫子稱其賢、且聖人敬慎於教訓之體、但當有重耳、固無緣有減損之理也、時人稱季孫、名過其實、故孔子矯之言、季孫行、事多闕、許其再思則可矣、無緣乃至三思也、此蓋矯抑之談耳、非稱美之言也、

一^レ通有リ云ク、言ハ再^{ふた}過トハ、二^{ふた}ヒ思フ則ハ可ナリ、又季彪^{ウラ}カ云ク、君^レ子ノ行、其ノ^レ始ヲ謀リ、其ノ中ヲ思ヒ、其ノ^レ終ヲ慮テ、然シテ^レ後ニ允^{マコト}二事^レ機^レ機^レニ合フ、舉スルニ遺^{ノコル}算^{サン}無シ、是ヲ^{カス}以テ曾子ハ三タヒ其ノ^{カヘツ}身ヲ省ミ、南容ハ三ヒ白^ミ圭ヲ復^スス、夫^レ子其

レ賢ナリト稱ス、且タ聖人ハ教訓ノ體ヲ敬ミ、慎ム、但ニ當ニ重ナルニ^{コソ}重スルニ^{ワモン}有ル當キ耳、固ニ減損ノ理有ルニ縁無シ、時ノ^ノ人季孫ヲ稱スルコト、名其ノ實ニ過タリ、故ニ孔子之ヲ矯シテ言ク、季孫カ行、事闕コト多シ、其ノ再ヒ^レ思コトヲ許ス則ハ可ナリ、乃チ三ヒ思フニ至ルニ縁無シ、此レ蓋シ之ヲ矯シ抑ルノ談耳、美ト稱スルノ言ニ非ス、

(一) 「如」、武内本無此字。

(二) 「思」下、武内本有「而」字。

(三) 「云」、武内本作「曰」。

【經】

子曰寧武子

子ノ曰ク寧武子

【疏】

美武子德也、

武子カ德ヲ美ム、

【注】

馬融曰、衛大夫寧喻也、武諡也、

馬融カ曰ク、衛ノ大夫寧喻ソ、武ハ諡ソ、

【經】

邦有道則智、

邦道有ルトキハ智アリ、

【疏】

言武子若値邦君有道則、肆己智識、以贊明時也、

言ハ武子若シ邦君ノ有_レ道ニ値フ則ハ、己カ智_レ識ヲ
肆_{ホシイマニ}シテ、明_レ時ヲ贊_{タス}ク、

【經】

邦無道則愚、

邦道無キトキハ愚ナリ、

【疏】

若値國主無道則、卷智藏明、詳昏同愚也、

若シ國主ノ無_レ道ニ値フ則ハ、智ヲ卷キ明ヲ藏ス、詳_{イタハ}リ
昏_{クラク}シテ愚ニ同シ、

【經】

其智可及也、

其ノ智ニハ及フ可シ、

【疏】

是其中人識量、當其肆智之目、故爲世人之可及、

是レハ其レ中_レ人ノ識_レ量ハ、其レ智ヲ肆_{ホシイマニ}スルノ目ニ當
ル、故ニ世_レ人ノ及フ可シト爲ス、

【經】

其愚不可及也、

其ノ愚ニハ及フ可_ヘ不_{カラズ}、

【疏】

時人多術聰明、故智識有及於武子者、而無敢詳愚隱智、如武子者、故云、其愚不可及也、

時ノ人多ク聰明ヲ術ウ、故ニ智識ハ武子ニ及フ者有ラシ、而シテ敢テ詳リ愚ニシテ智ヲ隱スコト、武子カ如ナル者無ケン、故ニ云ク、其ノ愚ニハ及フ可ナシ、

【注】

孔安國曰、詳愚似實、故曰不可及也、

孔安國カ曰ク、詳リ愚ニシテ實ニ似リ、故ニ曰ク及フ可ナシ、

【疏】

詳詐也、王朗云、或云、詳愚、蓋運智之所得、緣有此智、故能有此愚、豈得云同其智、而闕其愚哉、答曰、智之爲名、止於布德尚善動而不默者也、愚無預焉、至於詳愚、韜光潛綵、恬然無用、支流不同、故其稱亦殊、且智非足者之目、可有雖審其顯、而未盡其愚者矣、孫綽曰、人情莫不好名、咸貴智而賤愚、雖治亂異世、而矜鄙不變、唯深達之士、爲能晦智藏名、以全身遠害、飾智以成名者易、去華以

保性者難也、

詳ハ詐ナリ、王朗カ云ク、或ヒト云ク、詳リ愚ナルハ、蓋シ智ヲ運ンテ得ル所ナリ、此ノ智有ルニ緣ル、故ニ能ク此ノ愚有リ、豈ニ其ノ智ヲ同シテ、而シテ其ノ愚ヲ闕クト云フヲ得ン哉、答テ曰ク、智ノ名爲ルコト、徳ヲ布キ善ヲ尚テ動レテ黙セ不ルニ止マル者ナリ、愚ハ焉ニ預ルコト無シ、詳愚ニ至テハ、光ヲ韜ミ綵ヲ潛メテ、恬然トシテ用ルコト無シ、支流同カラズ、故ニ其ノ稱亦殊ナリ、且夕智ハ足レル者ノ目ニ非ス、其ノ顯ヲ審ニスト雖、未タ其ノ愚ヲ盡サ未ル者有ル可シ、孫綽カ曰ク、人ノ情ハ名ヲ好セ不トイフコト莫シ、咸ク智ヲ貴テ而シテ愚ヲ賤ニス、治亂世ヲ異ニスト雖モ、矜鄙變セ不、唯夕深達ノ士ハ、能ク智ヲ晦マシ名ヲ藏スコトヲ爲シテ、以テ身ヲ全シテ害ヲ遠ク、智ヲ飾テ名ヲ成ス者ハ易ク、華ヲ去テ性ヲ保ンスル者ハ難シ、

- (一) 「詳」、武内本作「詐」。
- (二) 「及」、武内本有「也」字。
- (三) 「云」、武内本作「曰」。
- (四) 「云」、武内本作「曰」。
- (五) 「默」、武内本作「黜」。

【經】

子在陳曰、歸與歸與、

子陳ニ在シテ曰ク、歸カヘラズヤ與ナラメヤ歸カヘラズヤ與ナラメヤ、

【疏】

孔子周流在陳最久、將欲反魯、故發此辭、再言歸與歸與者、欲歸之意深也、

孔子周一流シテ陳ニ在スコト最モ久シ、將ニ魯ニ反ラント欲ス、故ニ此ノ辭ヲ發ス、再ヒ歸カヘラズヤ與ナラメヤ歸カヘラズヤ與ナラメヤト言フコトハ、歸ラント欲スル意ノ深ソ、

【經】

吾黨之小子、狂簡斐然成章、不知所以裁之也、

吾カ黨ノ小一子、狂簡斐ヒ然トシテ章ヲ成シテ、裁セン所一以テヲ知不、

【疏】

此是欲歸之辭也、所以不直歸、而必有辭者、客住既久、主人無薄、若欲去、無辭則、恐主人生愧、故託爲此辭、以申

客去之有由也、吾黨者、謂我鄉黨中也、小子者、鄉黨中後生末學之人也、狂者直進無避者也、簡大也、大謂大道也、斐然文章貌也、孔子言、我所以欲歸者、爲我鄉黨中、有諸末學小子、狂而無避、進取正經大道、輒妄穿鑿、斐然以成文章、皆不知其所以輒自裁斷、此爲謬誤之甚、故我當歸爲裁正之也、

此レハ是レ歸ラント欲スルノ辭ナリ、直ニ歸ラナシテ、必ス辭コト有ル所一以ハ、客一住既ニ久シ、主人薄キコト無シ、若シ去ラント欲シテ、辭コト無キ則ハ、恐クハ主人愧ヲ生セン、故ニ託シテ此ノ辭ヲ爲シテ、以テ客一去ノ由ヨ有ルコトヲ申フ、吾カ黨トハ、我カ鄉黨ノ中ヲ謂フ、小一子トハ、鄉黨ノ中ノ後生末學ノ人ナリ、狂者ハ直ニ進テ避クルコト無キ者ナリ、簡ハ大ナリ、大トハ大道ヲ謂フ、斐然ハ文章ノ貌、孔子ノ言ク、我カ歸ラント欲スル所一以ハ、我カ鄉黨ノ中ニ、諸ノ末學小一子有テ、狂ニシテ避コト無ク、進テ正經ノ大道ヲ取テ、輒チ妄ニ穿一鑿シテ、斐然シテ文章ヲ成スコトヲ爲ス、皆其レ輒チ自裁斷スル所一以テヲ知ラ不、此レ謬誤ヲ爲スコト甚シ、故ニ我當ニ歸テ爲ニ裁一正ス當シ、

【注】

孔安國曰、簡大也、孔子在陳、思歸欲去、故曰、吾黨之小子、狂者進趨於大道、妄穿鑿、以成文章、不知所以裁制、我當歸以裁制之耳、遂歸、

孔安國カ曰ク、簡ハ大、孔子陳ニ在シテ、歸ランコトヲ思ヒ去ラマク欲シテ、故ニ曰ク、吾カ黨ノ小子、狂者ハ進テ大道ヲ趨テ、妄ニ穿鑿シテ、文章ヲ成ス、裁制セシテ以テ知ラズ、我當ニ歸テ裁制セシム當キ耳、遂ニ歸ル、

【疏】

趨取也、大道正經也、既狂、故取正典、穿鑿之也、

趨ハ取ナリ、大道トハ正經ナリ、既ニ狂ナリ、故ニ正典ヲ取テ、之ヲ穿鑿ス、

【經】

子曰、伯夷叔齊不念舊惡、怨是用希、

子ノ曰ク、伯夷叔齊ハ舊惡ヲ念ハ不、怨ミ是ヲ用テ希ラナリ、

【疏】

此美夷齊之德也、念猶識録也、舊惡故憾也、希少也、人若録於故憾則、怨恨更多、唯夷齊豁然忘懷、若人有犯己、己不怨録之、所以與人怨少也、

此ハ夷齊カ徳ヲ美ム、念ハ識録ノ猶シ、舊惡ハ故憾(憾)ナリ、希ハ少ナリ、人若シ故憾ヲ録スル則ハ、怨恨更ニ多シ、唯タ夷齊ハ豁然トシテ懷ヲ忘ス、若シ人己ヲ犯スコト有レトモ、己之ヲ怨録セズ、人與怨少キ所以ナリ、

【注】

孔安國曰、伯夷叔齊、孤竹君之二子也、孤竹國名也、

孔安國カ曰ク、伯夷叔齊ハ、孤竹ノ君ノ二子ナリ、孤竹ハ國ノ名ナリ、

【疏】

孤竹之國、是殷湯正月三日丙寅日、所封、其子孫相傳、至夷齊之父也、父姓墨台名初字子朝、伯夷名允字公信、叔齊名致字公達、伯夷大而庶、叔齊小而正、父薨兄弟相讓、不復立也、

孤竹ノ國ハ、是レ殷ノ湯正_一月三_一日丙_一寅ノ日、封スル所ナリ、其ノ子_一孫相イ_一傳ヘテ、夷齊カ父ニ至ル、父ノ姓ハ墨台名ハ初字ハ子朝、伯夷名ハ允字ハ公信、叔齊名ハ致字ハ公達、伯夷大ニシテ庶ナリ、叔齊ハ小ニシテ正ナリ、父_一薨ルトキニ兄_一弟相ヒ_一讓テ、復タ立タ_一不_一、

【經】

子曰、孰謂微生高直、

子ノ曰ク、孰カ微生高ヲ直ナリト謂フ、

【疏】

于時世人、多云微生高用性清直、而孔子譏之、故云孰謂微生高直也、孰誰也、

時于世_二人、多ク微生高性ヲ用ルコト清_一直ナリト云フ、而ルヲ孔子之ヲ譏_レル、故ニ云ク孰カ微生高ヲ直ナリト謂フ、孰ハ誰、

【注】

孔安國曰、微生姓也、名高魯人也、

孔安國カ曰ク、微生ハ姓、名ハ高魯_一人ナリ、

【經】

或乞醯焉、

或ヒト醯ヲ乞フ、

【疏】

舉微生非直之事也、醯酢酒也、或有人、就微生、乞酢者也、

微生カ直ニ非ルノ事ヲ舉ク、醯ハ酢_{ケイ}酒ナリ、或ル人有リ、微生ニ就テ、酢ヲ乞フ者ナリ、

【經】

乞諸其鄰而與之、

其ノ鄰ニ乞テ與フ、

【疏】

諸之也、時微生家、自無醯、而爲乞者、就已鄰有醯者、乞之以與或人也、直人之行、不應委曲、今微生高用意委曲、

故其譏非直、

諸ハ之ナリ、時ニ微生カ家ニ、自醢ヨのつからス無シ、而シテ乞フ者ノ爲ニ、己カ鄰ニ醢有ル者ニ就テ、之ヲ乞テ或ル人ニ與フ、直一人ノ行ハ、委曲ナル應ラ不、今微生高意ヲ用ルコト委曲ナリ、故ニ其レ直ニ非ルコトヲ譏ル、

【注】

孔安國曰、乞之四隣、以應求者、用意委曲、非爲直人也、

孔安國カ曰ク、之ヲ四隣ニ乞テ、求ムル者ニ應、意ヲ用ルコト委曲ナリ、直人ト爲ルニ非、

【疏】

四隣、四面隣里之家也、

四隣ハ、四面隣里ノ家ソ、

(一) 「或」下、武内本有「人」字。

(二) 「或」、武内本無此字。

(三) 「酢」、武内本作「醢」。

(四) 「直」下、武内本有「也」字。

【經】

子曰、巧言令色、足恭、

子ノ曰ク、言ヲ巧ニシ色ヲ令クシテ、足スラ(足)一恭スルヲハ、

【疏】

謂己用恭情少、而爲巧言令色、足恭之者也、繆協云、恭者從物、凡人近情、莫不欲人之從己、足恭者、以恭足於人意、而不合於禮度、斯皆適人、而曲媚於物也、

己おのレ恭ヲ用ルコト情少ニシテ、巧言令色ヲ爲シテ、足恭スル者ヲ謂フ、繆協カ云ク、恭ハ物ニ從フ、凡ソ人ノ近キ情ハ、人ノ己ニ從ハンコトヲ欲セ不トイフコ莫シ、足恭トハ、恭ヲ以人ノ意ヲ足ス、而シテ禮一度ニ合ハ不、斯レ皆人ニ適ツテ、曲テ物ニ媚フルナリ、

【注】

孔安國曰、足恭便僻之貌也、

孔安國カ曰ク、足恭ハ便僻ノ貌ソ、

【經】左丘明恥之、丘亦恥之、

左丘明モ恥チ、丘モ亦恥ツ、

【疏】

左丘明受春秋於仲尼者也、其既良直、故凡有可耻之事、而仲尼皆從之爲耻也、巧言令色足恭、是可耻之事也、

左丘明ハ春秋ヲ仲尼ニ受ル者ナリ、其レ既ニ良直ナリ、故ニ凡ソ耻ツ可キ事有リ、而シテ仲尼皆之ニ從テ耻ヲ爲ス、言ヲ巧ニシ色ヲ令クシテ足恭スルハ、是レ耻ツ可キノ事ナリ、

【注】

孔安國曰、左丘明魯大夫也、

孔安國カ曰ク、左丘明ハ魯ノ大夫ソ、

【經】

匿怨而友其人、

怨ヲ匿シテ其ノ人ヲ友トスルヲハ、

【疏】

匿藏也、謂心藏怨、而外詐相親友者也、

匿ハ藏ナリ、心ニ怨ヲ藏シテ、外ニ詐テ相ヒ親友スル者ヲ謂フ、

【注】

孔安國曰、心内相怨、而外詐親也、

孔安國カ曰ク、心ノ内ニ相ヒ怨テ、外詐テ親ムソ、

【經】

左丘明恥之、丘亦恥之、

左丘明モ恥チ、丘モ亦タ恥ツ、

【疏】

亦從丘明耻也、范寧曰、藏怨於心、詐親於形外、楊子法言曰、友而不心面友也、亦丘明又所耻、

亦丘明ニ從テ耻ツ、范寧カ曰ク、怨ヲ心ニ藏テ、詐テ形
外ニ親ス、楊子カ法言ニ曰ク、友ニシテ心アラ不ルハ面
友ナリ、亦丘明又耻所ナリ、

(一) 「云」、武内本作「曰」。

(二) 「人」下、武内本有「之適」二字。

(三) 「從」下、武内本有「左」字。

【經】

顏淵季路侍、

顏淵季路侍ス(侍リ)、

【疏】

季路即子路也、次第是季、侍侍孔子、卑在尊側曰侍也、

季路ハ即チ子路ナリ、次一第二是レ季ナリ、侍トハ孔子ニ
侍ルソ、卑カ尊ノ側ニ在ラ侍ルト曰フ、

【經】

子曰、盍各言爾志、

子ノ曰ク、盍ソ各爾カ志ヲ言ハ盍ル、

【疏】

盍何不也、孔子話顏路云、汝二人、何不各言汝心中所思
乎、

盍ハ何一不ナリ、孔子顏路ニ話テ云ク、汝二人、何ソ
各汝カ心中ノ思フ所ヲ言ハ不ル、

【經】

子路曰、願車馬衣輕裘、與朋友共、弊之而無憾、

子路カ曰ク、願ハ車一馬輕キ一裘ヲ衣テ、朋一友與共ニ、弊
ルトモ憾ムルコト無ンコトヲ、

【疏】

弊敗也、憾恨也、子路性決、言朋友有通財、車馬衣裘、共
乘服、而無所憾恨也、

弊ハ敗ナリ、憾ハ恨、子路カ性決ナリ、言ハ朋友財ヲ通
スルコト有リ、車一馬衣一裘、共ニ乘一服シテ、而シテ憾ミ、
恨ムル所無シ、

【注】

孔安國曰、憾恨也、

孔安國カ曰ク、憾ハ恨、

【疏】

一家通云、而無憾也、言願我乘服朋友衣馬、而不慚憾也、故殷仲堪曰、施而不恨、士之近行也、若乃用人之財、不覺非己、推誠闡往、憾思不生、斯乃交友之至、仲由之志與也、

一家ノ通ニ云ク、憾ルコト無トハ、言ハ我朋_レ友ノ衣_レ馬ヲ乘_レ服シテ、慚_ハチ_レ憾ミ_レ不ルコトヲ願フ、故ニ殷仲堪カ曰ク、施シテ恨ミ_レ不ルハ、士ノ近_レ行ナリ、若シ乃チ人ノ財ヲ用テ、己ニ非コトヲ覺_ス不、誠ヲ推シテ闡ニ_レ往テ、憾_レ思生セ_レ不ルハ、斯レ乃チ交_レ友ノ至リ、仲由カ_志與、

【經】

顏淵曰、願無伐善、

顏淵カ曰ク、願ハ善ニ伐ルコト無ランコトヲ、

【疏】

有善、而自稱曰伐善也、顏淵所願、願己行善而不自稱、欲潛行、而百姓日用而不知也、李充曰、自伐者無功、自矜者不莊、

善有テ、自稱スルヲ善ニ伐ルト曰フ、顏淵カ願フ所ハ、願ハ己善ヲ行テ自稱セ_レ不、潛ニ_レ行テ、百_レ姓日ニ用テ知ラレ_レ不ランコトヲ欲ス、李充カ曰ク、自_レ伐ル者ハ功無シ、自_レ矜_ル者ハ莊カラ_レ不、

【注】

孔安國曰、自無稱己善也、

孔安國カ曰ク、自_レ己カ善ヲ稱スルコト無ケン、

【經】

無施勞、

勞ヲ施スコト無ケン、

【疏】

又願不施勞役之事於天下也、故鑄劍戟爲農器、使子貢無施

其辯、子路無厲其勇、

又願ハ勞_レ役ノ事ヲ天_一下ニ施サ_レ不_レンコトヲ、故ニ劍_一戟_一ヲ鑄_テ農_一器_一ト爲_シ、子貢ヲ使_テ其ノ辯ヲ施スコト無ク、子路ヲシテ其ノ勇ヲ厲_マスコト無_ラ使_ム、

【注】

孔安國曰、無以勞事、置施於人也、

孔安國カ曰ク、勞事ヲ以テ、人ニ置_キ施_ススコト無_ケン、

【經】

子路曰、願聞子之志、

子路カ曰ク、願ハ子ノ志ヲ聞カン、

【疏】

二子説志、既竟、而子路又云、願聞孔子志也、古稱師曰子也、

二子志ヲ説クコト、既ニ竟テ、而シテ子路又タ云ク、願ハ孔子ノ志ヲ聞カン、古ニハ師ヲ稱シテ子ト曰フ、

【經】

子曰、老者安之、朋友信之、少者懷之、

子ノ曰ク、老_一者_一ハ安セラレン、朋_一友_一ニハ信セラレン、少_一者_一ニハ懷_シセラレン、

【疏】

孔子答也、願己爲老人所見撫安、朋友必見期信、少者必見思懷也、若老人安己、己必是孝敬故也、朋友信己、己必是無欺故也、少者懷己、己必有慈惠故也、奕_一肇_一云、敬長故見安、善誘故可懷也、

孔子ノ答ナリ、願ハ己老_一人_一ノ爲ニハ撫_一安_一セ見_レ所、朋_一友_一ニハ必ス期_一信_一セ見_レ、少_一者_一ニハ必ス思_一懷_一セ見_レ、若シ老人己ヲ安スルハ、己必ス是_レ孝_一敬_一スルカ故ナリ、朋_一友_一己ヲ信スルハ、己必ス是_レ欺_一ク_一コト無_キカ故ナリ、少_一者_一己ヲ懷スルハ、己必ス慈_一惠_一有_ル故ナリ、奕_一肇_一カ云ク、長ヲ敬スルカ故ニ安セ見_レ、善ヲ誘_スル(誘_ク)故ニ懷_シンス可_シ、

【注】

孔安國曰、懷安也、

孔安國カ曰ク、懷ハ安、

- (一) 「云」、武内本作「曰」。
- (二) 「乎」下、武内本有「也」字。
- (三) 「朋」、武内本作「明」。
- (四) 「我」下、武内本有「既」字。
- (五) 「憾」、武内本作「感」。
- (六) 「勇」下、武内本有「也」字。
- (七) 「奕」、武内本作「樂」。
- (八) 「云」、武内本作「曰」。

【經】

子曰、已矣乎、吾未見、能見其過、而内自訟者也、

子ノ曰ク、已ヤンヌルカナヤ、吾未夕見未、能ク其ノ過ヲ見テ、内ニ自ミツカラ訟セムル者ヲ、

【疏】

已止也、止矣乎者、歎此以下事久已無也、訟猶責也、言我未見人能自見其所行事、有過失、而内自責者也、

已ハ止ナリ、止ヌル乎カヤトハ、此ノ以下ノ事久クト已ニ無

コトヲ歎ス、訟ハ責ノ猶シ、言ハ我レ未夕見未人ノ能ク自ミツカラ其ノ行フ所ノ事ニ、過失有ルヲ見テ、而シテ内ニ自ミツカラ責ムル者ヲ、

【注】

苞氏曰、訟猶責也、言人有過、莫能自責者也、

苞氏カ曰ク、訟ハ猶ヲ責セキノ猶シ、言ハ人過あやまち有テ、能ク自みづから責ムルコト莫なキ者ナリ、

- (一) 「而」、武内本無此字。

【經】

子曰、十室之邑、必有忠信如丘者焉不如丘之好學也已、

子ノ曰ク、十室ノ邑ニ、必ヌ忠信丘カ如キ者有ラン(有ラハ)焉イツクンソ丘カ學ヲ好ムニ如カ不さラク者モノ已、

【疏】

丘孔子名也、孔子自稱名言、十室爲邑、其中必有忠信如丘者焉也、但無如丘之好學耳也、孫綽曰、夫忠信之行、中人所能存全、雖聖人無以加也、學而爲人未足稱也、好之至

者、必鑽仰不怠、故曰、有顏回者、好學、今也則亡、今云
 十室之學、不逮於己、又曰、我非生而知之、好古敏而求
 耳、此皆陳深崇於教、以盡汲引之道也、一家云、十室中、
 若有忠信如丘者、則其餘焉不如丘之好學也、言今不好學、
 不忠信耳、故衛瓘曰、所以忠信不如丘者、由不能好學如丘
 耳、苟能好學則、其忠信可使如丘也、

ヲ好マハ、其レ忠信ハ丘カ如クナラ使メツ可シ、

(公治長篇担当 下村泰三)

丘ハ孔子ノ名ナリ、孔子 自名ヲ稱シテ言ク、十室ヲ
 邑ト爲、其ノ中ニ必ス忠信丘カ如キ者有ラン、但タ丘カ
 學ヲ好ムニ如クコト無キ耳、孫綽カ曰ク、夫レ忠信ノ行
 ハ、中人ノ能ク存シ全スル所ナリ、聖人ト雖モ以テ加
 ルコト無ケン、學テ人ノ爲ニスルハ未タ稱スルニ足ラ未、
 之ヲ好コト至レル者ハ、必ス鑽仰シテ怠ラ不、故ニ曰
 ク、顏回トイフ者有リテ、學ヲ好ム、今ハ則チ亡シ、今
 云ク十室ノ學、己ニ逮ハ不、又曰ク、我生ラニ
 シテ之ヲ知ルニ非ス、古ヲ好テ敏ニシテ求メタル耳、此レ
 皆深ク教ヲ崇テ、汲引ノ道ヲ盡コトヲ陳フ、一家ニ云
 ク、十室ノ中ニ、若シ忠信丘カ如キ者有ラハ、其ノ餘ハ
 焉ソ丘カ學ヲ好ニ如カ不、言ハ今學ヲ好マ不、忠信アラ
 不耳、故ニ衛瓘カ曰ク、忠信丘ニ如カ不ル所以ハ、學
 ヲ好コト丘カ如スルコト能ハ不ルニ由ル耳、苟ニ能ク學